

令和7年度気象情報の利活用状況等に関する調査

報告書

令和 7年 12月 19日

株式会社 サーベイリサーチセンター

I. 調査概要

II. 調查結果

Ⅲ. 調査結果のまとめ

IV. 卷末資料

令和7年度気象情報の利活用状況等に関する調査

調査報告書

I. 調査概要

1. 調査目的	3
2. 調査概要	3
3. 集計・分析の記述について	5

II. 調査結果

1. 防災気象情報全般について	9
(1) 自宅の大雨による災害の危険性の有無	9
(2) 気象庁から発表される防災気象情報を見聞きした経験の有無と認知度	11
(3) 大雨災害への備えや避難等の行動を判断するために注目している情報	23
(4) 気象庁から発表される防災気象情報全般の満足度	25
2. キキクル(危険度分布)について	27
(1) キキクル(危険度分布)の認知度	27
(2) キキクル(危険度分布)を見る手段	29
(3) キキクル(危険度分布)の役立ち度	31
(4) キキクル(危険度分布)の活用方法	33
(5) キキクル(危険度分布)の改善点	35
3. 線状降水帯に関する情報について	38
(1) 線状降水帯の発生情報の認知度	38
(2) 線状降水帯の発生情報が発表されたときの役立ち度	40
(3) 線状降水帯の発生情報が発表されたときの行動	42
(4) 線状降水帯の半日程度前からの予測情報の認知度	44
(5) 線状降水帯の半日前からの予測情報の役立ち度	46
(6) 線状降水帯の半日程度前からの予測情報が発表された場合の行動	48
(7) 線状降水帯に関する情報の改善点	50

4. 気候変動について	54
(1) 気候変動が引き起こす問題への関心度	54
(2) 気候変動や気候変動対策に関する情報を得る媒体	56
(3) 「日本の気候変動2025」をスライド形式にまとめた「概要版」の有用度 ..	58
(4) 日本の気候変動の概要を紹介する解説動画の理解のしやすさ	60
(5) 「日本の気候変動」シリーズでよりよい解説や補足情報としてあるとよいと 思うもの	62
5. 火山について	64
(1) 火山への関心度	64
(2) 火山の情報を入手する媒体	66
(3) 火山に関心がない理由	68
(4) 火山に関する情報の認知度	70
(5) 認知している火山に関する情報	72
(6) 火山に関する情報が発表されているか確認した経験の有無	74
(7) 火山に関する情報（噴火警報・噴火警戒レベル）を入手する媒体	76
(8) 火山に関する情報で避難対象地域や立入規制の範囲の経験の有無	78
(9) 火山に関する情報を確認した時の行動	80
(10) 火山や火山周辺の地域に訪問予定の際に噴火警戒レベルが 引き上げられていた場合の行動	82
(11) 火山ごとに警戒を呼びかける「噴火警戒レベル」と大雨等の際に避難行動を示す 「警戒レベル」の違いの認知度	84
(12) 火山や火山周辺の地域に訪れる際に利用する情報	86
(13) 気象庁が発表する情報を入手する媒体	88
(14) 大きな災害を引き起こす噴火に伴う現象の認知度	90
(15) 「火山ハザードマップ」の認知度	92
(16) 火山防災として認知している心得	94
(17) 「火山防災の日」制定の認知度	96
(18) 「火山防災の日」制定を知ったきっかけ	98
6. 対象者の属性	100

Ⅲ. 調査結果のまとめ

1. 調査結果概要	103
(1) 防災気象情報全般について	103
(2) キキクル	103
(3) 線状降水帯に関する情報	104
(4) 気候変動に関する情報	105
(5) 火山に関する情報	105
2. 今後の防災情報の更なる理解度向上に向けて	106

Ⅳ. 巻末資料

1. 調査票
2. 自由回答一覧

I. 調査概要

1. 調査目的

本調査は、一般における気象情報の利活用状況を把握し、今後の気象業務の改善に資することを目的とする。

2. 調査概要

1) 調査対象

全国に居住する 20 才～79 才の男女

2) 調査方法

インターネット上の WEB 画面に用意した質問に回答する方式(WEB 調査)

3) 有効回収数

有効回収数：2,000 サンプル

性別、年齢、居住地の分布は、「令和 2 年国勢調査」人口等基本集計の人口分布に基づき割付。
回収数は次の通りである。

I. 調査概要

	全体	20~29歳		30~39歳		40~49歳		50~59歳		60代以上	
	全体	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
北海道	85	5	5	6	6	8	8	7	8	15	17
青森県	20	1	1	1	1	2	2	2	2	4	4
岩手県	20	1	1	1	1	2	2	2	2	4	4
宮城県	37	2	2	3	3	4	4	3	3	6	7
秋田県	15	1	1	1	1	1	1	1	1	3	4
山形県	16	1	1	1	1	2	1	1	1	3	4
福島県	32	2	2	2	2	3	3	3	3	6	6
茨城県	45	3	2	3	3	5	4	4	4	8	9
栃木県	32	2	2	2	2	3	3	3	3	6	6
群馬県	32	2	2	2	2	3	3	3	3	6	6
埼玉県	119	8	8	9	8	13	12	11	10	19	21
千葉県	102	7	6	8	7	11	10	9	9	17	18
東京都	221	17	18	20	19	24	23	21	20	28	31
神奈川県	147	11	10	11	11	16	15	15	14	21	23
新潟県	35	2	2	3	2	3	3	3	3	7	7
富山県	16	1	1	1	1	2	2	1	1	3	3
石川県	18	1	1	1	1	2	2	2	2	3	3
福井県	12	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2
山梨県	12	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2
長野県	32	2	2	2	2	3	3	3	3	6	6
岐阜県	32	2	2	2	2	3	3	3	3	6	6
静岡県	56	3	3	4	4	6	5	5	5	10	11
愛知県	119	9	8	10	9	13	12	11	10	18	19
三重県	30	2	2	2	2	3	3	3	3	5	5
滋賀県	23	2	1	2	2	2	2	2	2	4	4
京都府	42	3	3	3	3	4	4	3	4	7	8
大阪府	138	10	10	10	10	14	14	12	13	21	24
兵庫県	85	5	5	6	6	8	9	8	8	14	16
奈良県	20	1	1	1	1	2	2	2	2	4	4
和歌山県	14	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3
鳥取県	12	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2
島根県	12	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2
岡山県	29	2	2	2	2	3	3	2	2	5	6
広島県	43	3	3	3	3	4	4	4	4	7	8
山口県	21	1	1	1	1	2	2	2	2	4	5
徳島県	12	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2
香川県	14	1	1	1	1	1	1	1	1	3	3
愛媛県	20	1	1	1	1	2	2	2	2	4	4
高知県	12	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2
福岡県	79	5	5	6	6	8	8	6	7	13	15
佐賀県	13	1	1	1	1	1	1	1	1	2	3
長崎県	20	1	1	1	1	2	2	2	2	4	4
熊本県	26	1	2	2	2	2	2	2	2	5	6
大分県	18	1	1	1	1	2	2	1	2	3	4
宮崎県	16	1	1	1	1	1	2	1	1	3	4
鹿児島県	24	1	1	2	2	2	2	2	2	5	5
沖縄県	22	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3
全体	2000	134	131	148	143	201	195	178	179	330	361

◆地方予報区に該当する都道府県

地方予報区	都道府県
北海道地方	北海道
東北地方	青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県
関東甲信地方	茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県 山梨県 長野県
東海地方	岐阜県 静岡県 愛知県 三重県
北陸地方	新潟県 富山県 石川県 福井県
近畿地方	滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山県
中国地方	鳥取県 島根県 岡山県 広島県
四国地方	徳島県 香川県 愛媛県 高知県
九州北部地方	山口県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県
九州南部・奄美地方	宮崎県 鹿児島県
沖縄地方	沖縄県

4) 実施期間

令和7年10月15日（水）～10月16日（木）

3. 集計・分析の記述について

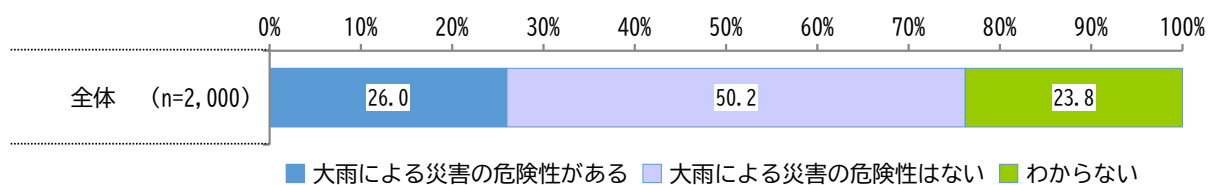
- 図表中のnは回答者の数（母数）であり、回答比率（%）算出の基数を表している。
- 回答比率（%）は、小数点第2位を四捨五入して、小数点第1位までを表示している。このため、回答比率の合計が100%にならないものがある。
- 2つ以上の複数回答ができる設問では、回答比率の合計は原則として100%を超える。
- n=29 以下の場合は参考値とする。

II. 調査結果

1. 防災気象情報全般について

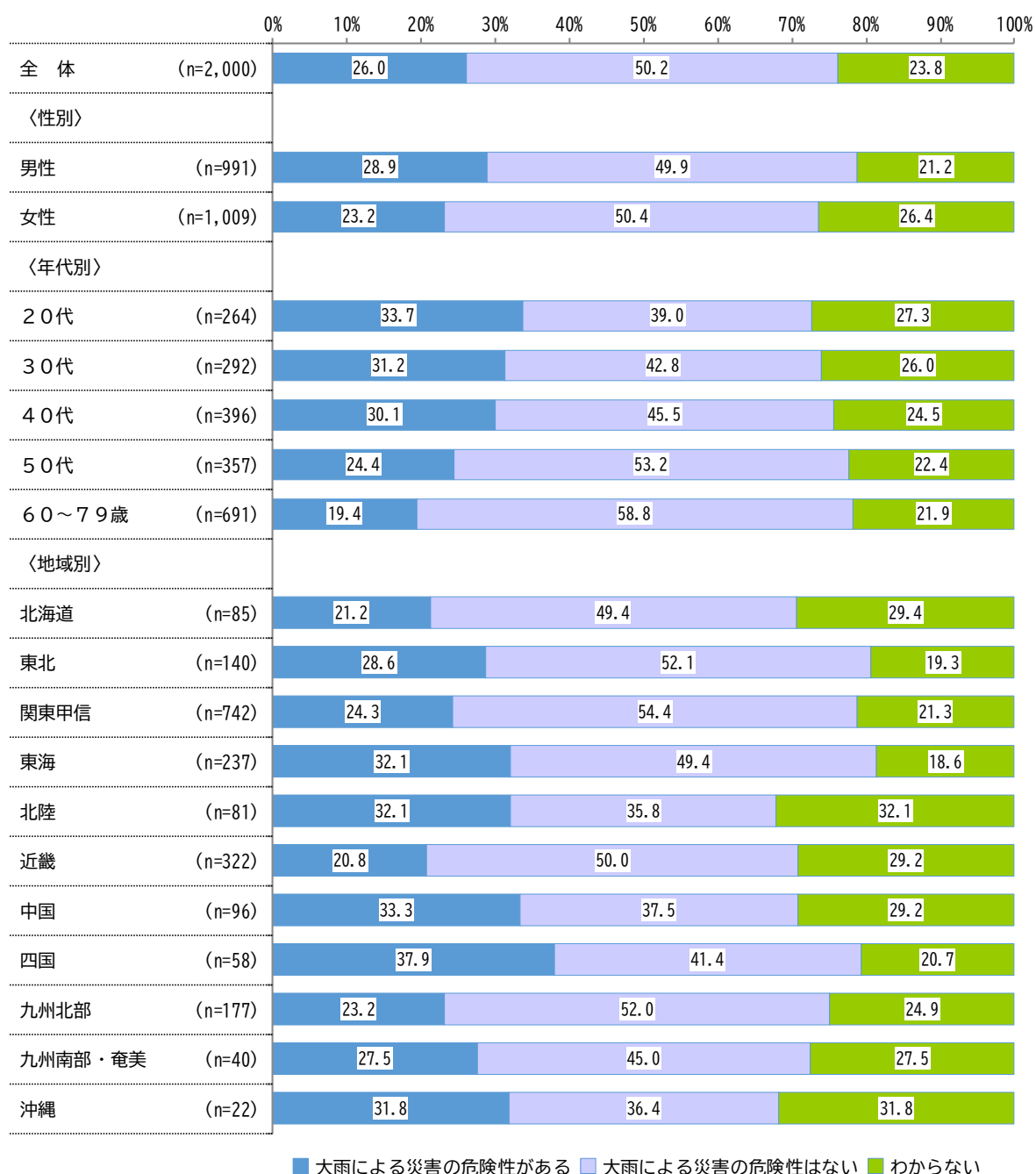
(1) 自宅の大雨による災害の危険性の有無

問1. あなたのお住まいは、土砂災害や浸水害、洪水災害といった、大雨による災害の危険性がありますか。あてはまるものを一つ選んでください。



全体では、「大雨による災害の危険性がある」が26.0%、「大雨による災害の危険性はない」が50.2%、「わからない」が23.8%となっている。

II. 調査結果



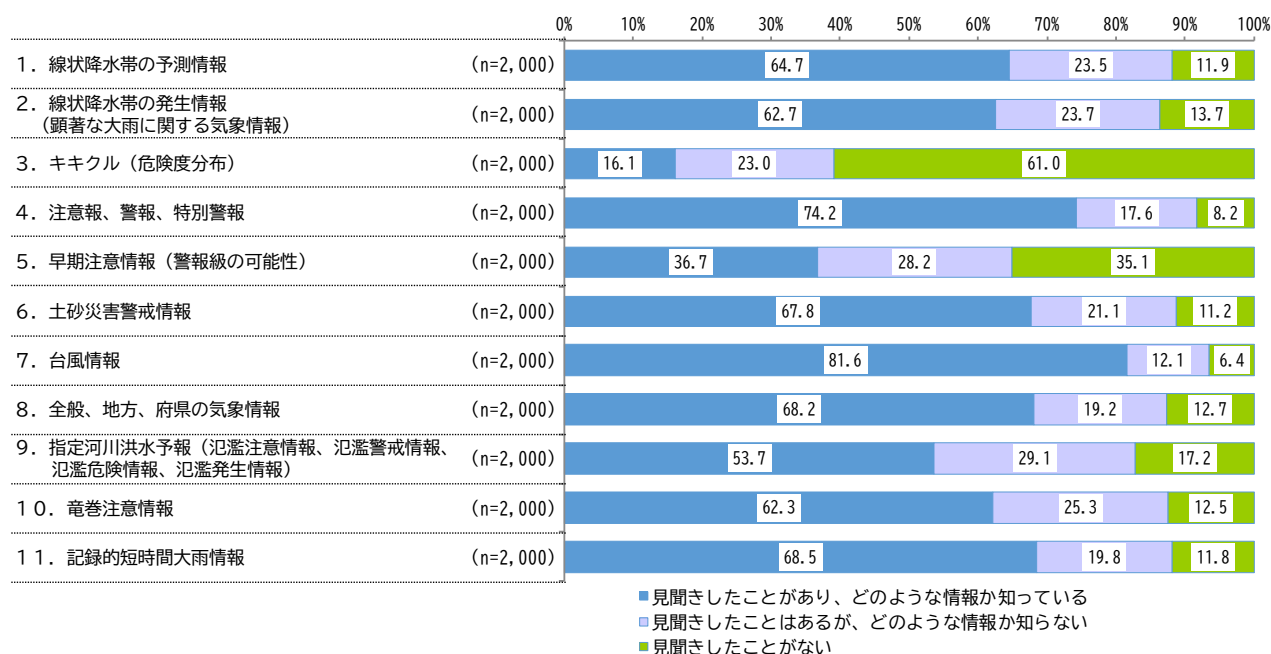
性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別にみると、「大雨による災害の危険性はない」は年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

地域別にみると、「大雨による災害の危険性がある」は、東海(32.1%)、北陸(32.1%)、中国(33.3%)、四国(37.9%)、沖縄(31.8%)で高くなっている。

(2) 気象庁から発表される防災気象情報を見聞きした経験の有無と認知度

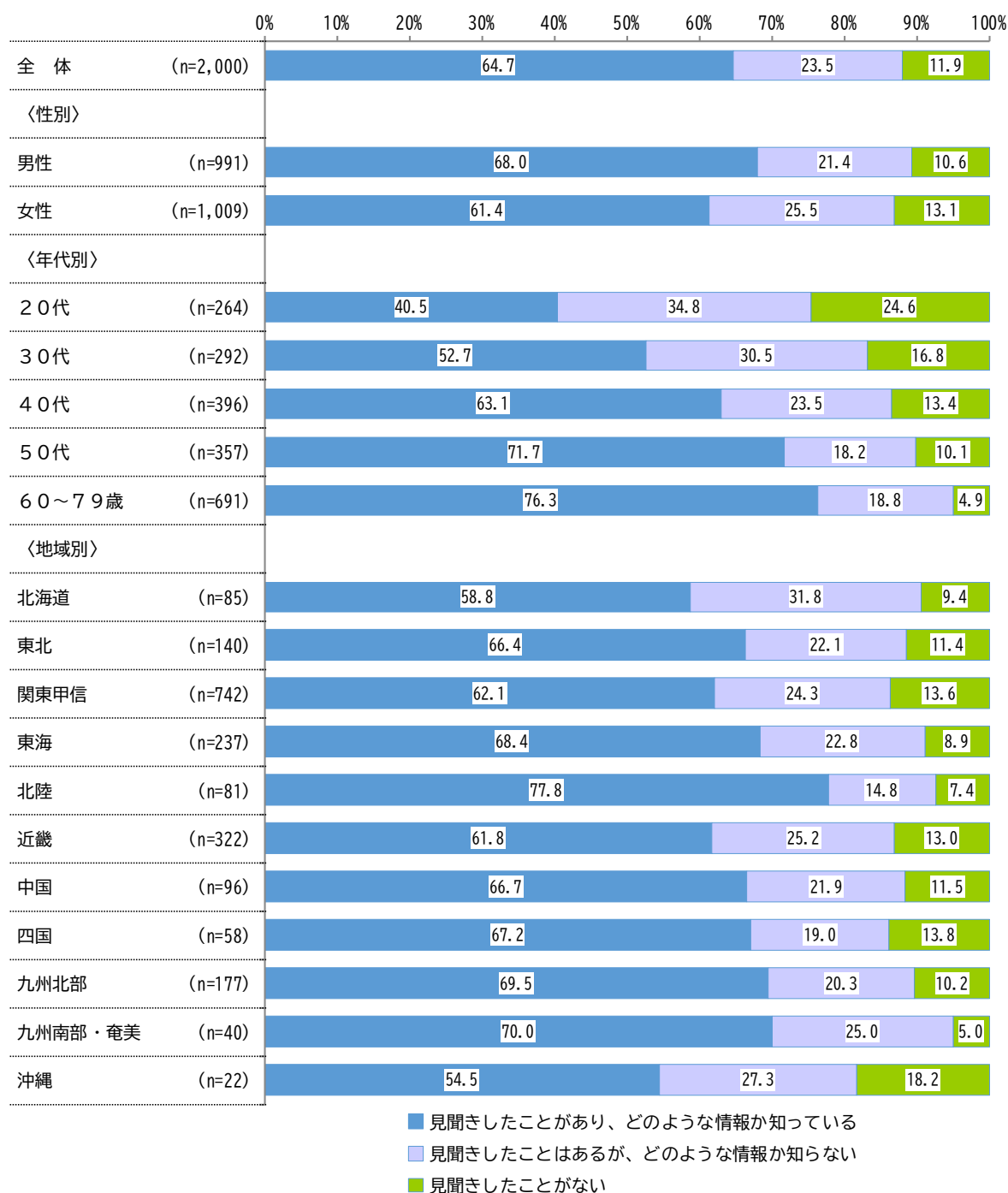
問2-1. あなたは、大雨や台風などによる災害から身を守るために気象庁から発表される以下の防災気象情報を見聞きしたことがありますか。また、どのような情報か知っていますか。見聞きしたことがある、また知っているものを全て選んでください。



「見聞きしたことがあり、どのような情報か知っている」は、〈台風情報〉(81.6%)が最も高く、次いで、〈注意報、警報、特別警報〉(74.2%)、〈記録的短時間大雨情報〉(68.5%)、〈全般、地方、府県の気象情報〉(68.2%)、〈土砂災害警戒情報〉(67.8%)となっている。

II. 調査結果

線状降水帯の予測情報



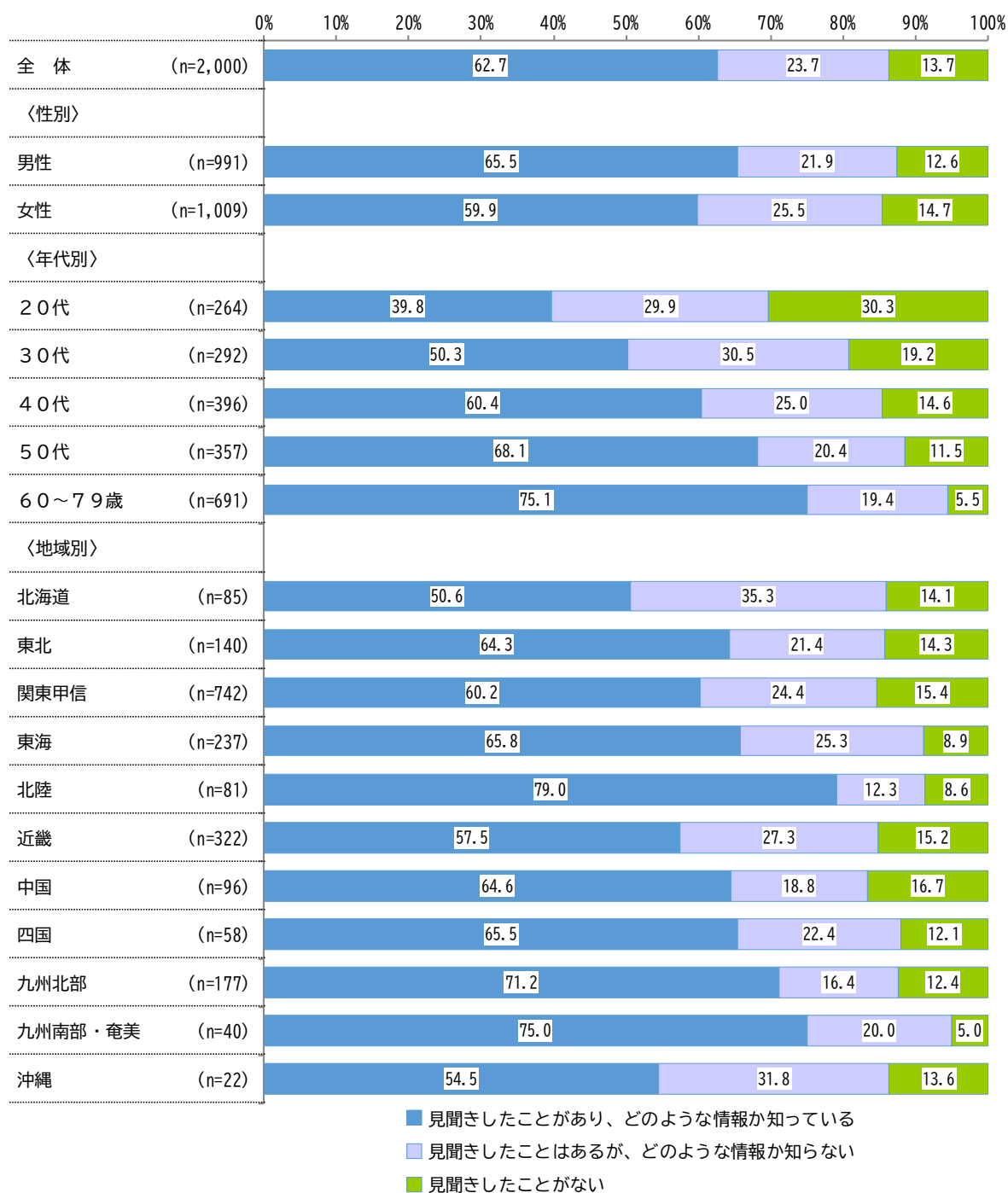
全体では、「聞きしたことがあり、どのような情報が知っている」は64.7%となっている。

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別にみると、「聞きしたことがあり、どのような情報が知っている」は年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

地域別にみると、「聞きしたことがあり、どのような情報が知っている」は、北陸（77.8%）、九州南部・奄美（70.0%）で高くなっている。

線状降水帯の発生情報(顕著な大雨に関する気象情報)



全体では、「聞き知ったことがある、どのような情報か知っている」は62.7%となっている。

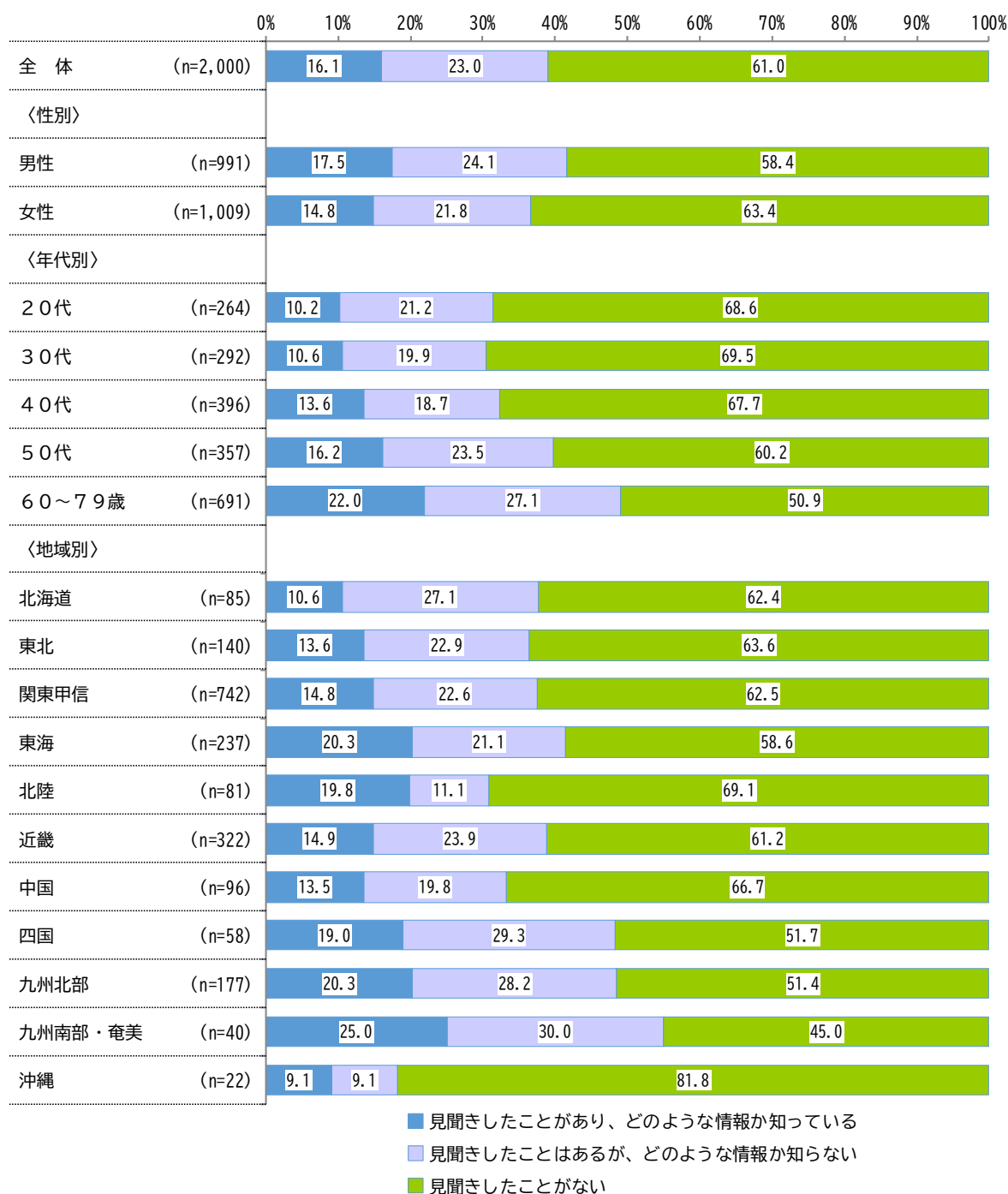
性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別にみると、「聞き知ったことがある、どのような情報か知っている」は年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

地域別にみると、「聞き知ったことがある、どのような情報か知っている」は、北陸(79.0%)、九州北部(71.2%)、九州南部・奄美(75.0%)で高くなっている。

II. 調査結果

キキクル(危険度分布)

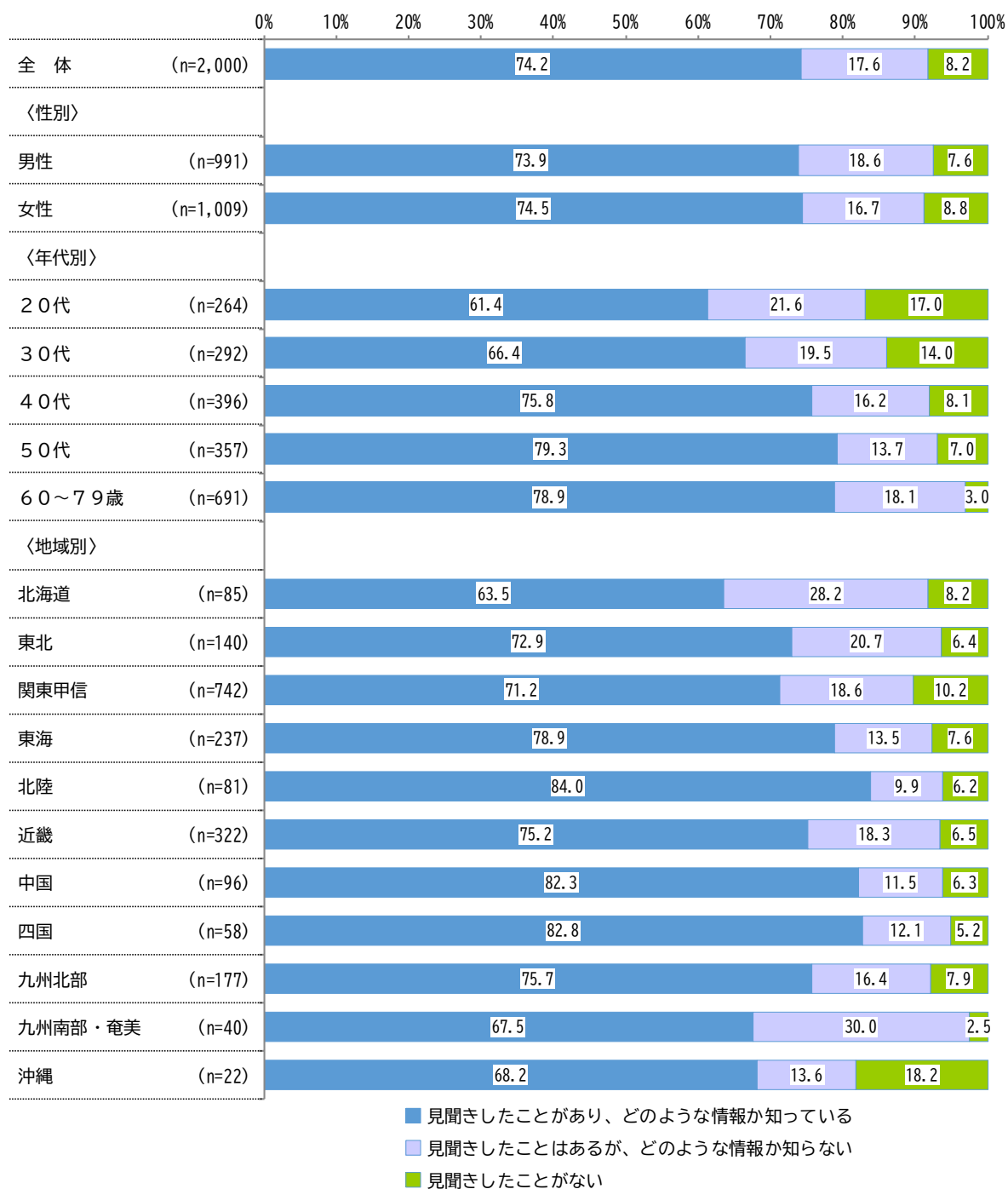


全体では、「見聞きしたことがあり、どのような情報か知っている」は16.1%となっている。性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別にみると、「見聞きしたことがあり、どのような情報か知っている」は年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

地域別にみると、「見聞きしたことがあり、どのような情報か知っている」は、九州南部・奄美(25.0%)で高くなっている。

注意報、警報、特別警報



全体では、「聞きしがあり、どのような情報か知っている」は74.2%となっている。

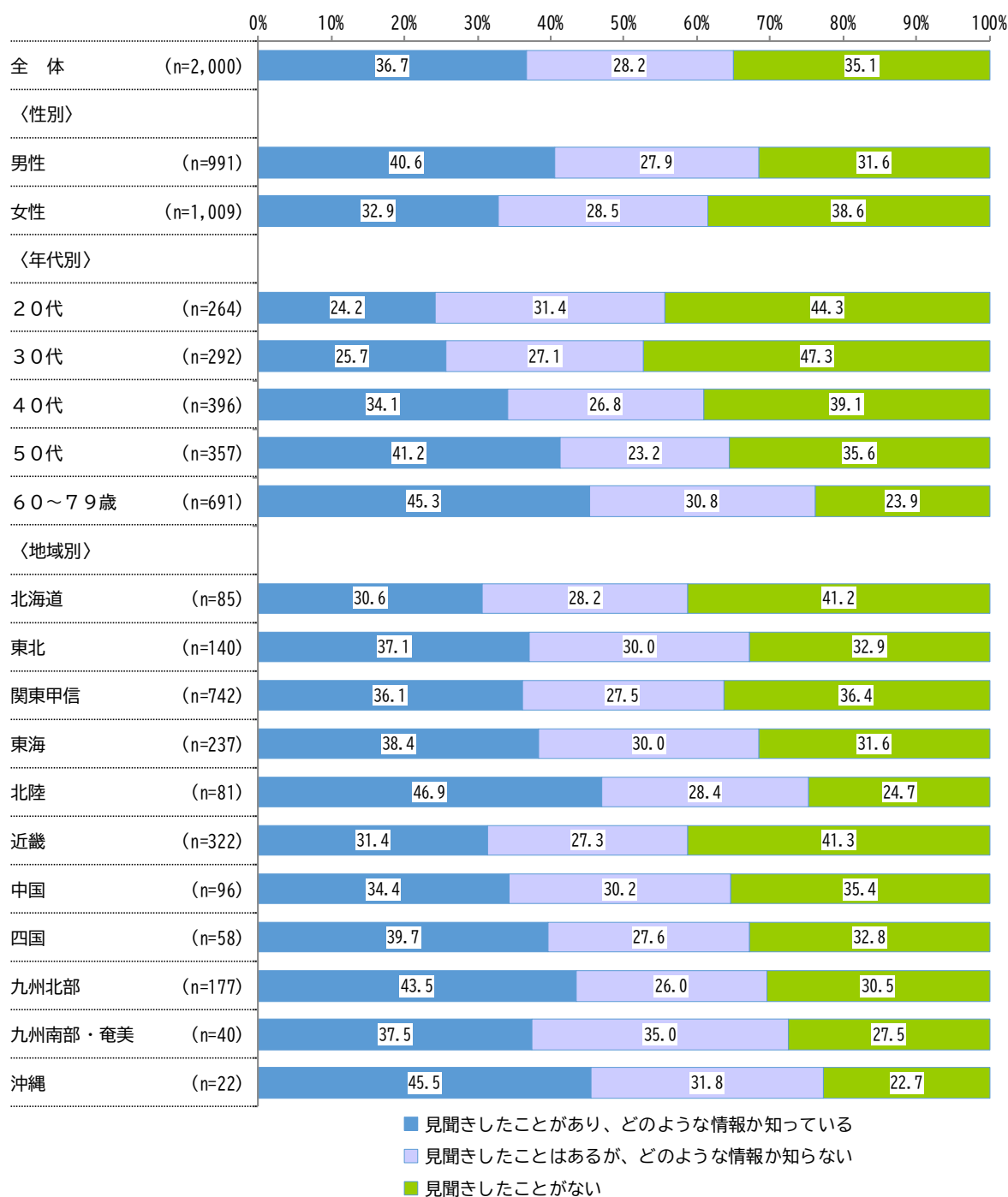
性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別にみると、「聞きしがあり、どのような情報か知っている」は概ね年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

地域別にみると、「聞きしがあり、どのような情報か知っている」は、北陸(84.0%)、中国(82.3%)、四国(82.8%)で高くなっている。

II. 調査結果

早期注意情報(警報級の可能性)

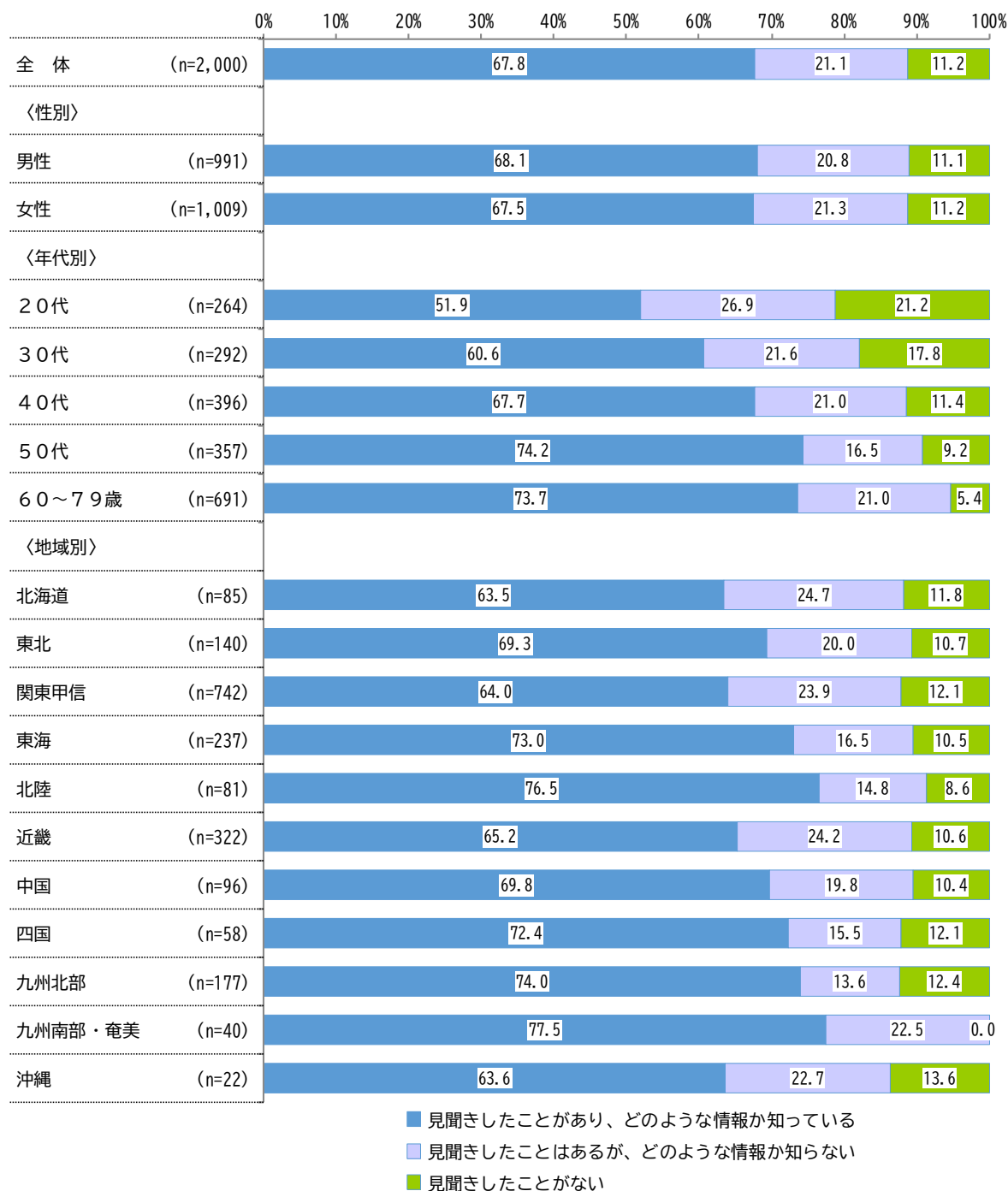


全体では、「見聞きしたことがあり、どのような情報か知っている」は36.7%となっている。性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別にみると、「見聞きしたことがあり、どのような情報か知っている」は年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

地域別にみると、「見聞きしたことがあり、どのような情報か知っている」は、北陸(46.9%)、九州北部(43.5%)、沖縄(45.5%)で高くなっている。

土砂災害警戒情報



全体では、「聞き知ったことがある、どのような情報か知っている」は67.8%となっている。

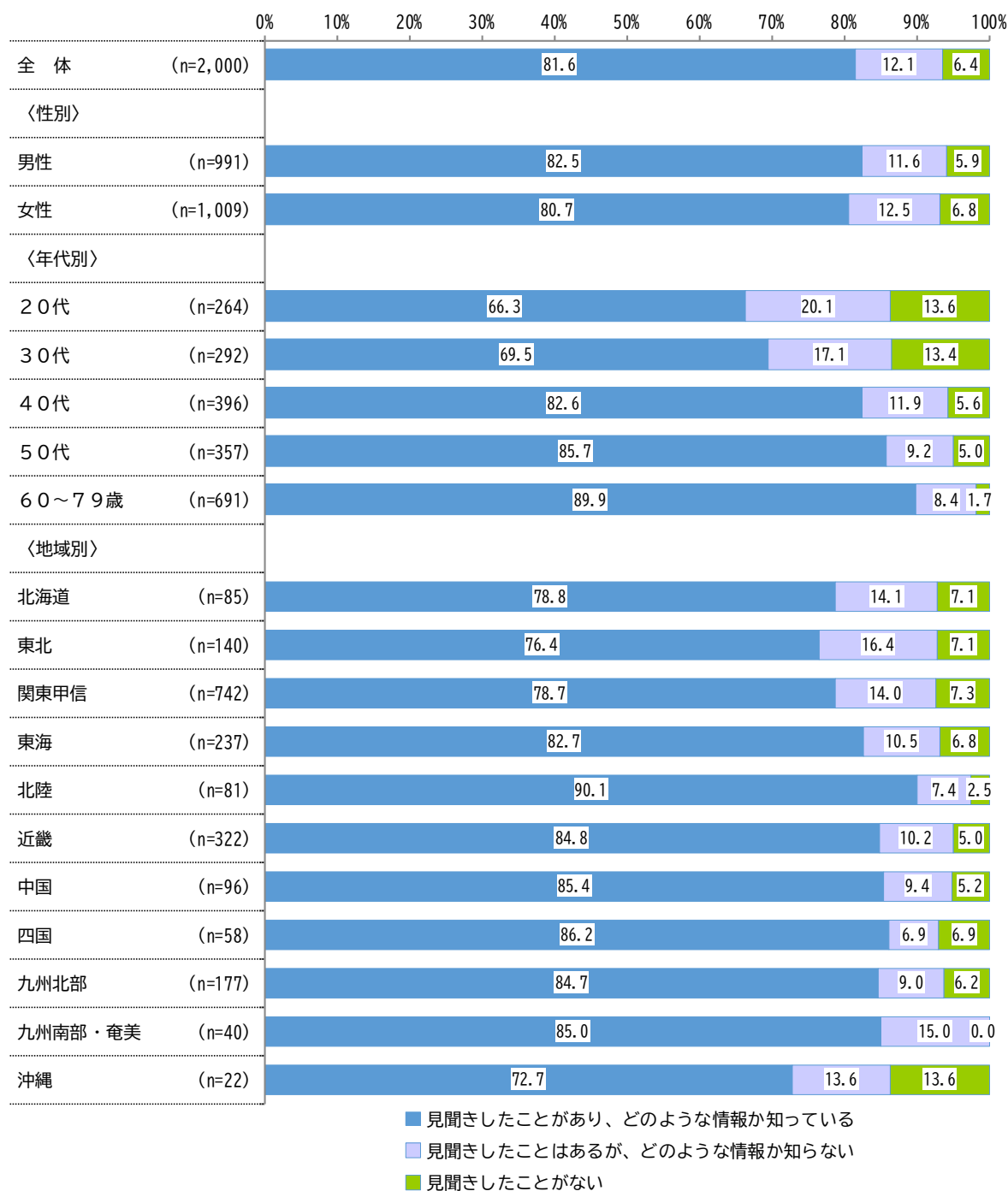
性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別にみると、「聞き知ったことがある、どのような情報か知っている」は概ね年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

地域別にみると、「聞き知ったことがある、どのような情報か知っている」は、東海(73.0%)、北陸(76.5%)、九州北部(74.0%)、九州南部・奄美(77.5%)で高くなっている。

II. 調査結果

台風情報



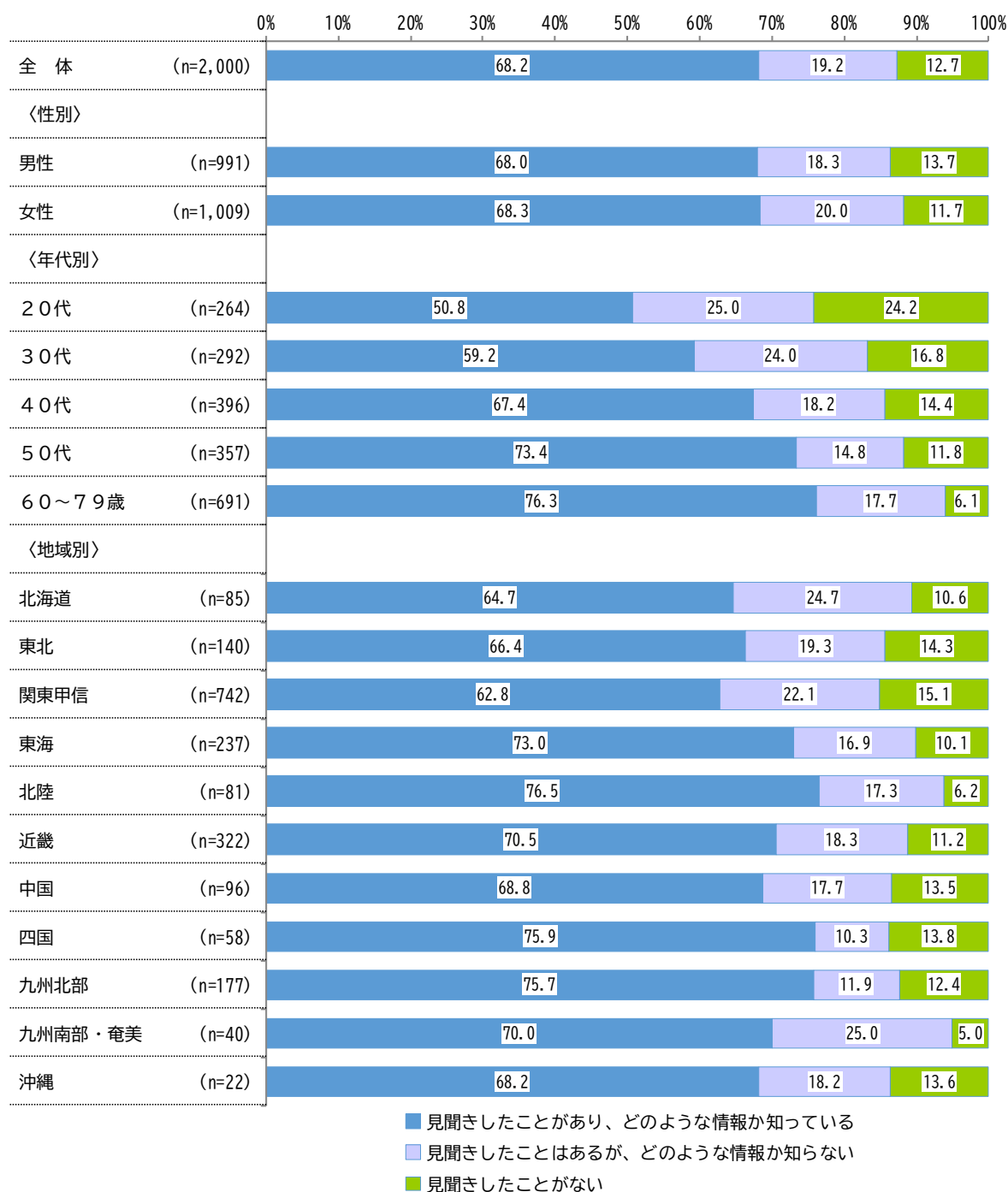
全体では、「見聞きしたことがあり、どのような情報か知っている」は81.6%となっている。

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別にみると、「見聞きしたことがあり、どのような情報か知っている」は年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

地域別にみると、「見聞きしたことがあり、どのような情報か知っている」は、北陸(90.1%)で高くなっている。

全般、地方、府県の気象情報



全体では、「見聞きしたことがあり、どのような情報か知っている」は 68.2%となっている。

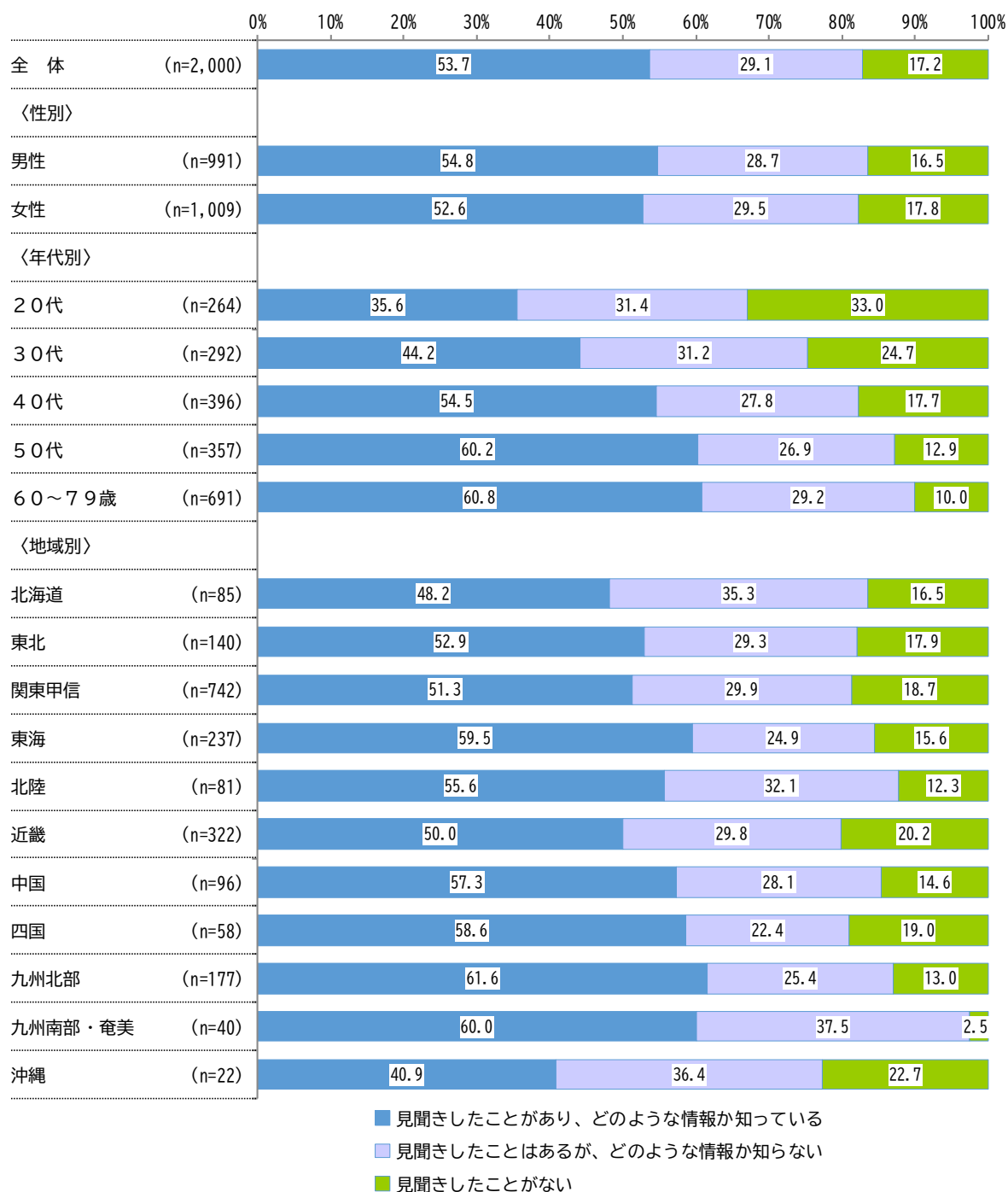
性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別にみると、「見聞きしたことがあり、どのような情報か知っている」は年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

地域別にみると、「見聞きしたことがあり、どのような情報か知っている」は、北陸(76.5%)、四国(75.9%)、九州北部(75.7%)で高くなっている。

II. 調査結果

指定河川洪水予報(氾濫注意情報、氾濫警戒情報、氾濫危険情報、氾濫発生情報)



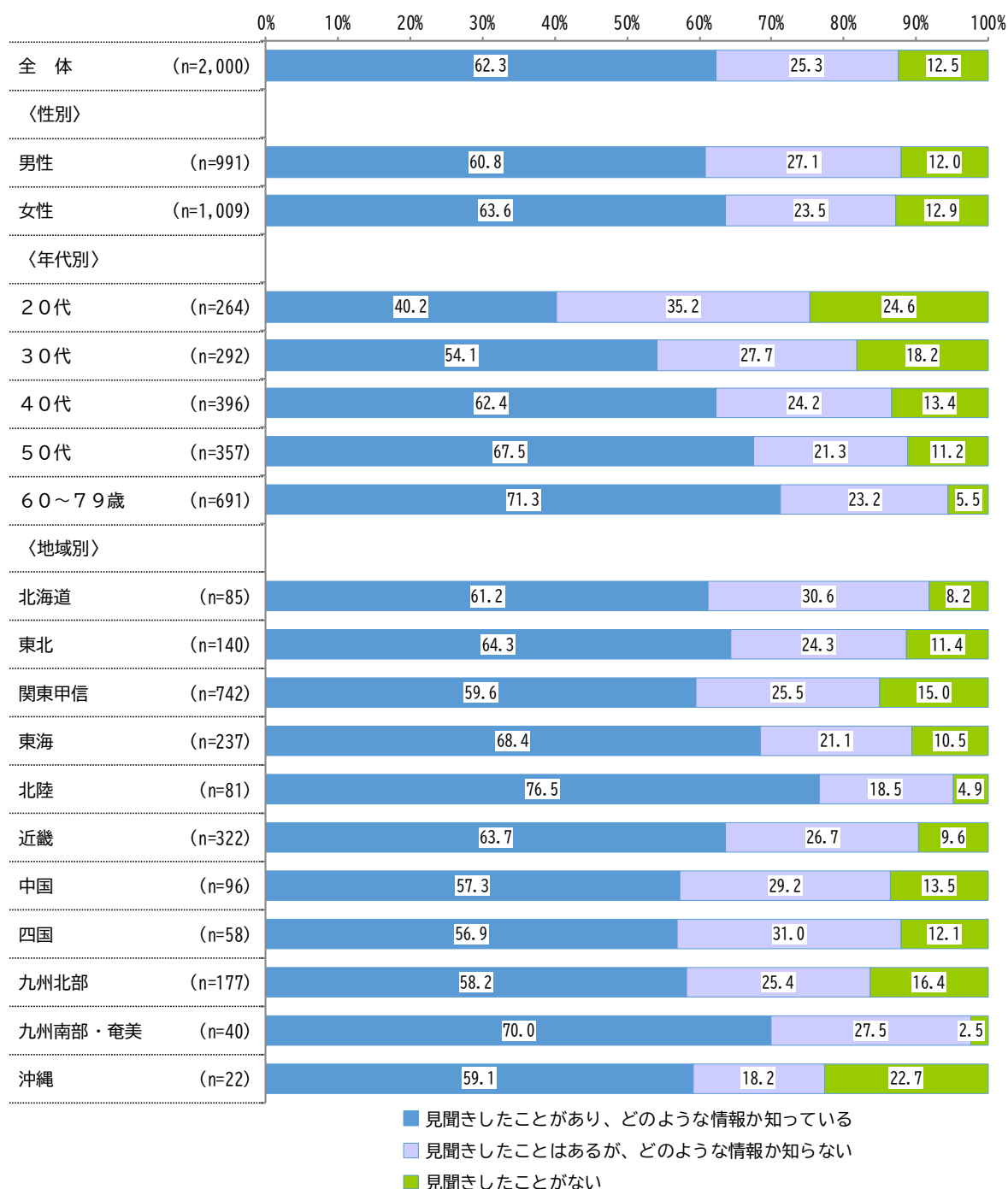
全体では、「見聞きしたことがあり、どのような情報か知っている」は53.7%となっている。

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別にみると、「見聞きしたことがあり、どのような情報か知っている」は年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

地域別にみると、「見聞きしたことがあり、どのような情報か知っている」は、東海(59.5%)、九州北部(61.6%)、九州南部・奄美(60.0%)で高くなっている。

竜巻注意情報



全体では、「見聞きしたことがあり、どのような情報か知っている」は62.3%となっている。

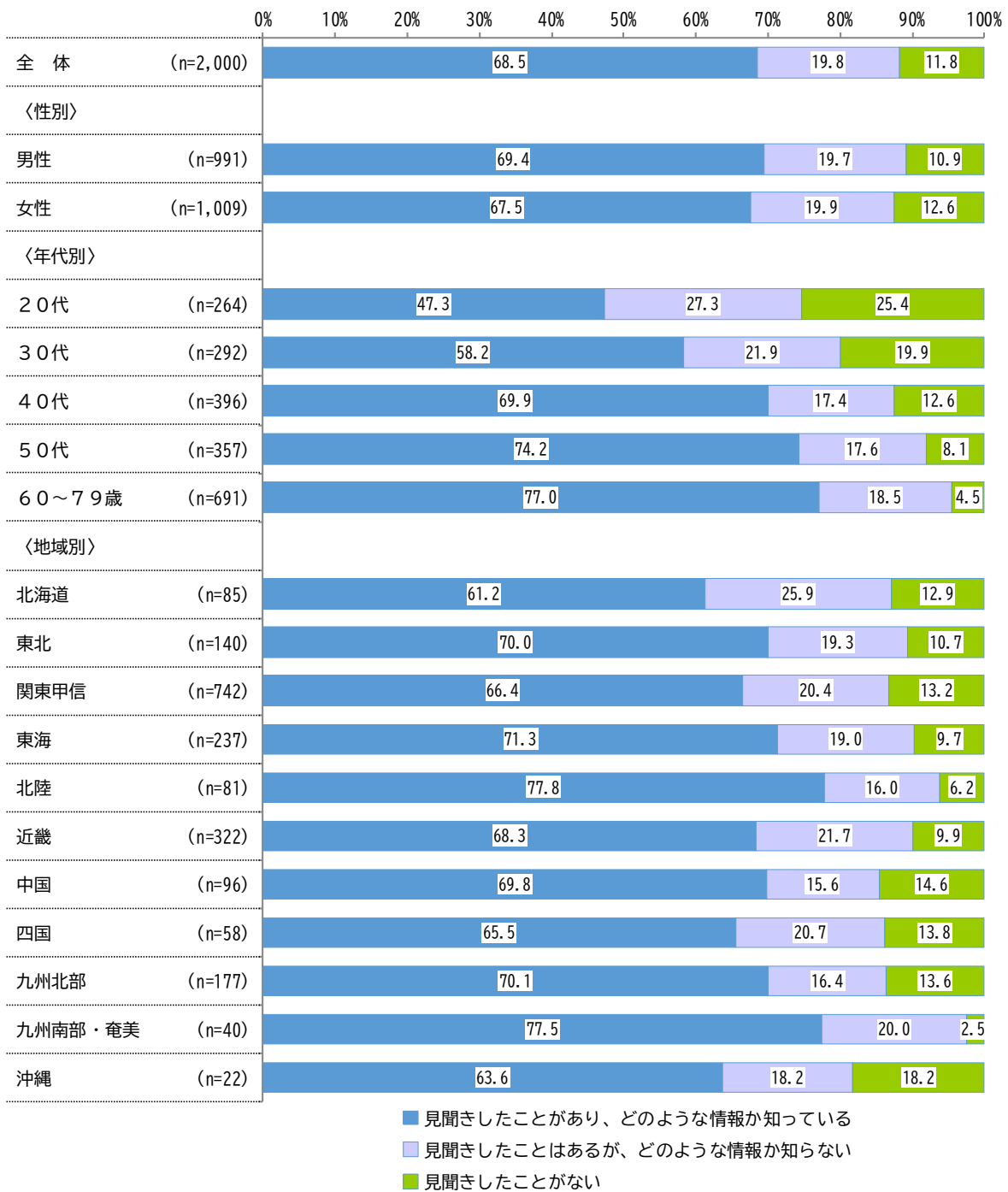
性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別にみると、「見聞きしたことがあり、どのような情報か知っている」は年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

地域別にみると、「見聞きしたことがあり、どのような情報か知っている」は、東海(68.4%)、北陸(76.5%)、九州南部・奄美(70.0%)で高くなっている。

II. 調査結果

記録的短時間大雨情報



全体では、「見聞きしたことがあり、どのような情報が知っている」は68.5%となっている。

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別にみると、「見聞きしたことがあり、どのような情報が知っている」は年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

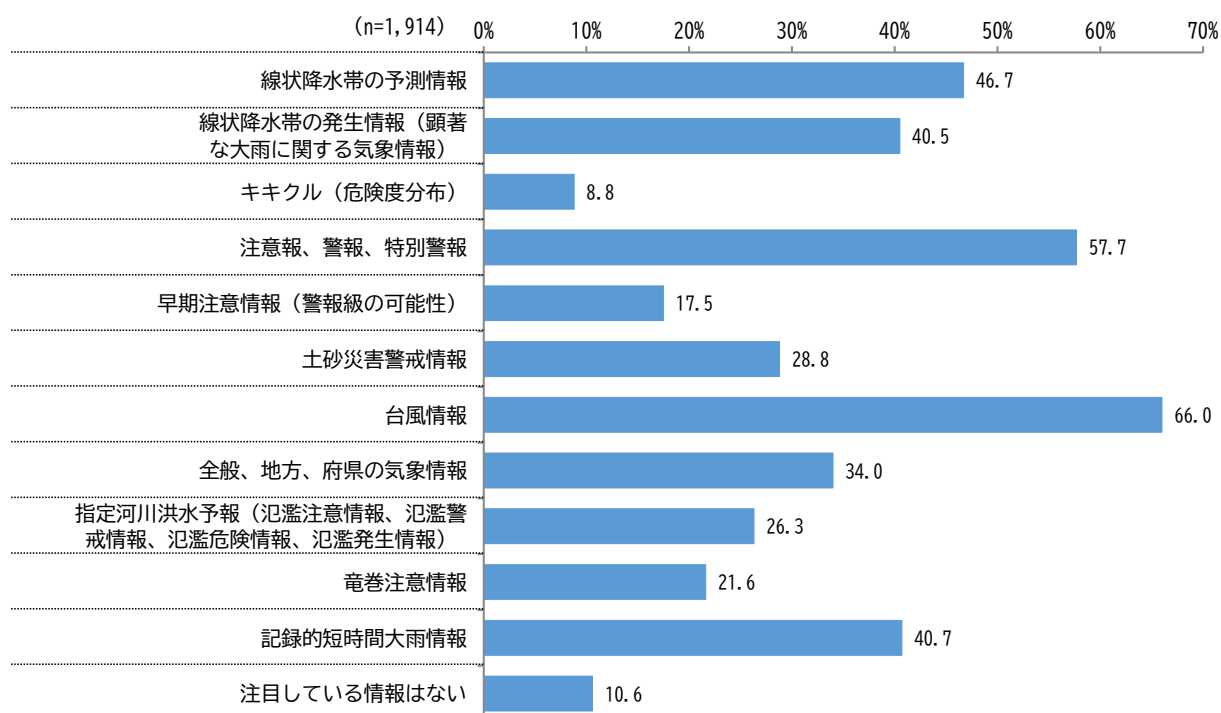
地域別にみると、「見聞きしたことがあり、どのような情報が知っている」は、北陸(77.8%)、九州南部・奄美(77.5%)で高くなっている。

(3)大雨災害への備えや避難等の行動を判断するために注目している情報

問2-2. 大雨とそれによる災害が発生し、または発生するおそれがある場合において、大雨災害への備えや避難などの行動について判断するため、問2-1で挙げた情報のうち、あなたはどの情報に注目していますか？あてはまるものを全て選んでください。

n=1,914

ベース：各防災気象情報を見聞きしたことがある方



全体では、「台風情報」が66.0%で最も高く、次いで「注意報、警報、特別警報」が57.7%、「線状降水帯の予測情報」が46.7%、「記録的短時間大雨情報」が40.7%、「線状降水帯の発生情報(顕著な大雨に関する気象情報)」が40.5%となっている。

II. 調査結果

		n	線状降水帯の予測情報	線状降水帯の発生情報(顕著な大雨に関する気象情報)	キキクル(危険度分布)	注意報、警報、特別警報	早期注意情報(警報級の可能性)	土砂災害警戒情報	台風情報	全般、地方、府県の気象情報	報、氾濫発生情報(氾濫注意情報、氾濫警戒情報、氾濫危険情報)	指定河川洪水予報(氾濫注意情報)	電巻注意情報	記録的短時間大雨情報	注目している情報はない
全体		1914 100.0	894 46.7	775 40.5	168 8.8	1105 57.7	334 17.5	551 28.8	1264 66.0	650 34.0	503 26.3	413 21.6	779 40.7	202 10.6	
性別	男性	952 100.0	464 48.7	392 41.2	92 9.7	495 52.0	163 17.1	268 28.2	613 64.4	261 27.4	232 24.4	184 19.3	368 38.7	104 10.9	
	女性	962 100.0	430 44.7	383 39.8	76 7.9	610 63.4	171 17.8	283 29.4	651 67.7	389 40.4	271 28.2	229 23.8	411 42.7	98 10.2	
年代	20代	242 100.0	76 31.4	58 24.0	18 7.4	112 46.3	37 15.3	65 26.9	103 42.6	62 25.6	48 19.8	21 8.7	49 20.2	59 24.4	
	30代	268 100.0	113 42.2	95 35.4	23 8.6	148 55.2	49 18.3	93 34.7	155 57.8	90 33.6	67 25.0	43 16.0	94 35.1	53 19.8	
	40代	379 100.0	178 47.0	160 42.2	21 5.5	221 58.3	62 16.4	129 34.0	239 63.1	133 35.1	116 30.6	66 17.4	146 38.5	39 10.3	
	50代	344 100.0	167 48.5	134 39.0	26 7.6	210 61.0	68 19.8	98 28.5	225 65.4	131 38.1	101 29.4	73 21.2	146 42.4	29 8.4	
	60~79歳	681 100.0	360 52.9	328 48.2	80 11.7	414 60.8	118 17.3	166 24.4	542 79.6	234 34.4	171 25.1	210 30.8	344 50.5	22 3.2	
	地域別	北海道	81 100.0	35 43.2	29 35.8	5 6.2	48 59.3	16 19.8	17 21.0	48 59.3	28 34.6	19 23.5	14 17.3	28 34.6	9 11.1
東北		135 100.0	66 48.9	61 45.2	9 6.7	83 61.5	30 22.2	46 34.1	76 56.3	52 38.5	41 30.4	34 25.2	69 51.1	14 10.4	
関東甲信		703 100.0	319 45.4	267 38.0	66 9.4	383 54.5	113 16.1	173 24.6	454 64.6	208 29.6	177 25.2	159 22.6	273 38.8	92 13.1	
東海		226 100.0	115 50.9	99 43.8	22 9.7	140 61.9	49 21.7	79 35.0	167 73.9	91 40.3	69 30.5	56 24.8	105 46.5	16 7.1	
北陸		80 100.0	47 58.8	43 53.8	8 10.0	52 65.0	20 25.0	30 37.5	50 62.5	35 43.8	30 37.5	28 35.0	37 46.3	7 8.8	
近畿		313 100.0	124 39.6	112 35.8	28 8.9	188 60.1	44 14.1	80 25.6	214 68.4	105 33.5	65 20.8	58 18.5	111 35.5	32 10.2	
中国		91 100.0	45 49.5	39 42.9	7 7.7	51 56.0	13 14.3	32 35.2	58 63.7	30 33.0	37 40.7	14 15.4	36 39.6	9 9.9	
四国		56 100.0	25 44.6	25 44.6	3 5.4	36 64.3	14 25.0	21 37.5	40 71.4	22 39.3	15 26.8	8 14.3	21 37.5	6 10.7	
九州北部		168 100.0	83 49.4	68 40.5	14 8.3	89 53.0	24 14.3	49 29.2	111 66.1	59 35.1	38 22.6	30 17.9	72 42.9	12 7.1	
九州南部・奄美		40 100.0	23 57.5	23 57.5	4 10.0	21 52.5	6 15.0	17 42.5	29 72.5	13 32.5	9 22.5	8 20.0	17 42.5	2 5.0	
沖縄		21 100.0	12 57.1	9 42.9	2 9.5	14 66.7	5 23.8	7 33.3	17 81.0	7 33.3	3 14.3	4 19.0	10 47.6	3 14.3	

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* グレー表記はベースがn=29以下のため参考値

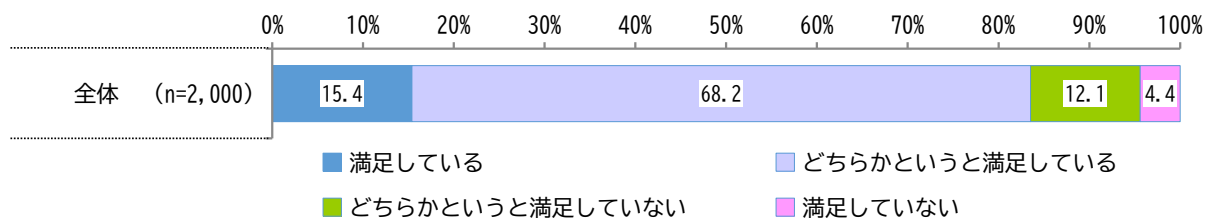
性別にみると、「注意報、警報、特別警報」及び「全般、地方、府県の気象情報」は男性よりも女性で高くなっている。

年代別にみると、「台風情報」、「線状降水帯の予測情報」、「記録的短時間大雨情報」、「線状降水帯の発生情報(顕著な大雨に関する気象情報)」など、複数の防災気象情報において、年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられ、20代、30代では「注目している情報はない」が2割程度と高くなっている。

地域別にみると、「線状降水帯の予測情報」及び「線状降水帯の発生情報(顕著な大雨に関する気象情報)」は北陸(53.8%)、九州南部・奄美(57.5%)で高くなっている。「土砂災害警戒情報」は九州南部・奄美(42.5%)で高くなっている。「指定河川洪水予報(氾濫注意情報、氾濫警戒情報、氾濫危険情報、氾濫発生情報)」は北陸(37.5%)、中国(40.7%)で高くなっている。「記録的短時間大雨情報」は東北(51.1%)で高くなっている。

(4) 気象庁から発表される防災気象情報全般の満足度

問3-1. 大雨や台風などによる災害から身を守るために気象庁から発表される防災気象情報全般に対して、満足していますか？あてはまるものを1つ選んでください。



全体では、「満足している」と「どちらかという満足している」の合計が83.6%となっている。

II. 調査結果



性別にみると、全体と同様の傾向にある。

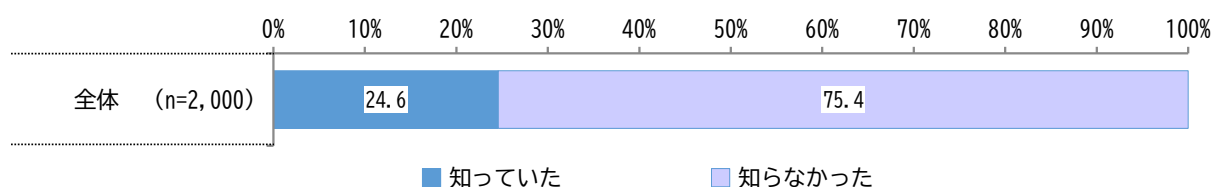
年代別にみると、「満足している」と「どちらかという満足している」の合計は、年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

地域別にみると、「満足している」と「どちらかという満足している」の合計は、四国(89.6%)で高くなっている。

2. キキクル(危険度分布)について

(1)キキクル(危険度分布)の認知度

問4-1. キキクル(危険度分布)の説明をご覧いただいたうえで改めてお伺いします。あなたは、キキクル(危険度分布)があることを知っていましたか？あてはまるものを1つ選んでください。



全体では、「知っていた」が24.6%、「知らなかった」が75.4%となっている。

II. 調査結果



性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別にみると、キキクル(危険度分布)の認知率は、年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

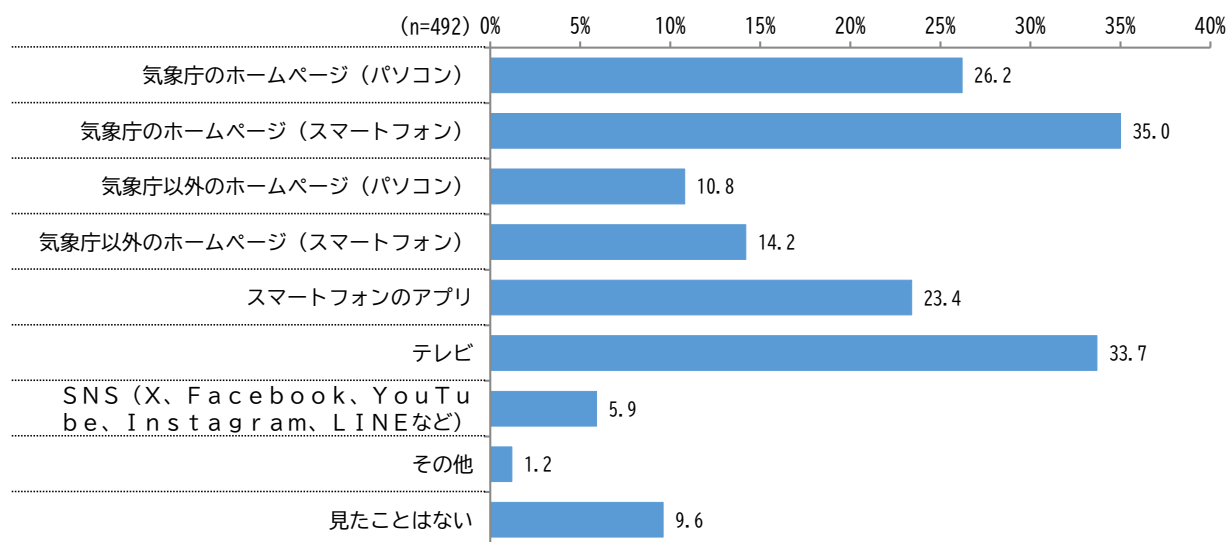
地域別にみると、キキクル(危険度分布)の認知率は、九州北部(33.3%)、九州南部・奄美(32.5%)で高くなっている。

(2)キキクル(危険度分布)を見る手段

問4-2. あなたは、キキクル(危険度分布)をどのような手段で見えていますか？あてはまるものを全て選んでください。

n=492

ベース：キキクルを知っている方



全体では、「気象庁のホームページ(スマートフォン)」が35.0%で最も高く、次いで「テレビ」が33.7%、「気象庁のホームページ(パソコン)」が26.2%となっている。

II. 調査結果

		n	気象庁のホームページ(パソコン)	気象庁のホームページ(スマートフォン)	気象庁以外のホームページ(パソコン)	気象庁以外のホームページ(スマートフォン)	スマートフォンのアプリ	テレビ	LINEなど	SNS(X、Facebook、Instagram、YouTube)	その他	見たことはない
全体		492 100.0	129 26.2	172 35.0	53 10.8	70 14.2	115 23.4	166 33.7	29 5.9	6 1.2	47 9.6	
性別	男性	264 100.0	92 34.8	97 36.7	38 14.4	40 15.2	62 23.5	75 28.4	20 7.6	1 0.4	18 6.8	
	女性	228 100.0	37 16.2	75 32.9	15 6.6	30 13.2	53 23.2	91 39.9	9 3.9	5 2.2	29 12.7	
年代	20代	47 100.0	10 21.3	22 46.8	6 12.8	10 21.3	14 29.8	8 17.0	4 8.5	1 2.1	3 6.4	
	30代	54 100.0	10 18.5	30 55.6	12 22.2	16 29.6	14 25.9	8 14.8	7 13.0	0 0.0	4 7.4	
	40代	87 100.0	27 31.0	34 39.1	13 14.9	15 17.2	20 23.0	24 27.6	7 8.0	1 1.1	10 11.5	
	50代	91 100.0	18 19.8	34 37.4	5 5.5	14 15.4	21 23.1	34 37.4	6 6.6	1 1.1	7 7.7	
	60~79歳	213 100.0	64 30.0	52 24.4	17 8.0	15 7.0	46 21.6	92 43.2	5 2.3	3 1.4	23 10.8	
地域別	北海道	16 100.0	1 6.3	3 18.8	1 6.3	1 6.3	2 12.5	6 37.5	0 0.0	0 0.0	5 31.3	
	東北	28 100.0	3 10.7	10 35.7	0 0.0	3 10.7	9 32.1	5 17.9	0 0.0	0 0.0	4 14.3	
	関東甲信	168 100.0	41 24.4	57 33.9	13 7.7	24 14.3	36 21.4	62 36.9	13 7.7	2 1.2	19 11.3	
	東海	64 100.0	20 31.3	24 37.5	11 17.2	9 14.1	20 31.3	21 32.8	3 4.7	1 1.6	5 7.8	
	北陸	20 100.0	7 35.0	10 50.0	2 10.0	3 15.0	6 30.0	7 35.0	0 0.0	1 5.0	0 0.0	
	近畿	83 100.0	27 32.5	31 37.3	13 15.7	13 15.7	23 27.7	29 34.9	7 8.4	0 0.0	5 6.0	
	中国	21 100.0	6 28.6	4 19.0	3 14.3	3 14.3	4 19.0	8 38.1	4 19.0	0 0.0	1 4.8	
	四国	15 100.0	4 26.7	4 26.7	1 6.7	3 20.0	2 13.3	3 20.0	0 0.0	0 0.0	3 20.0	
	九州北部	59 100.0	13 22.0	27 45.8	7 11.9	10 16.9	10 16.9	17 28.8	1 1.7	2 3.4	3 5.1	
	九州南部・奄美	13 100.0	5 38.5	2 15.4	2 15.4	1 7.7	3 23.1	6 46.2	1 7.7	0 0.0	1 7.7	
	沖縄	5 100.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* グレー表記はベースがn=29以下のため参考値

性別にみると、「テレビ」は男性よりも女性で高く、「気象庁のホームページ(パソコン)」は女性よりも男性で高くなっている。

年代別にみると、「テレビ」は年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。また、20代では「気象庁のホームページ(スマートフォン)」(46.8%)、が高く、スマートフォンからキキクル(危険度分布)を確認する割合が高い。30代では20代同様「気象庁のホームページ(スマートフォン)」(55.6%)のほか、「気象庁以外のホームページ(スマートフォン)」(29.6%)「気象庁以外のホームページ(パソコン)」(22.2%)が高くなっている。

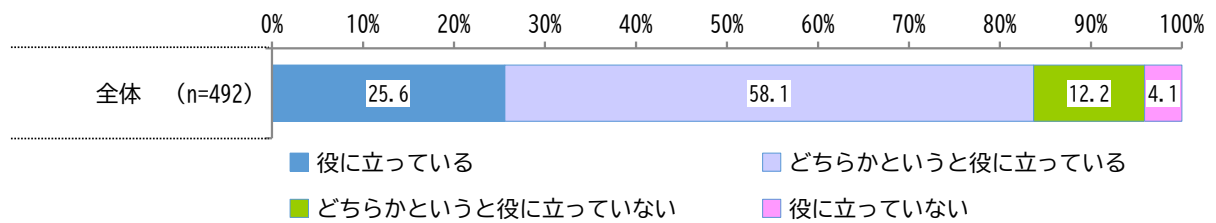
地域別にみると、「気象庁のホームページ(スマートフォン)」では九州北部が高くなっている。

(3)キキクル(危険度分布)の役立ち度

問4-3. あなたにとって、大雨のとき、避難や災害への備えなどの行動の判断材料として、キキクル(危険度分布)は役に立っていますか？あてはまるものを1つ選んでください。

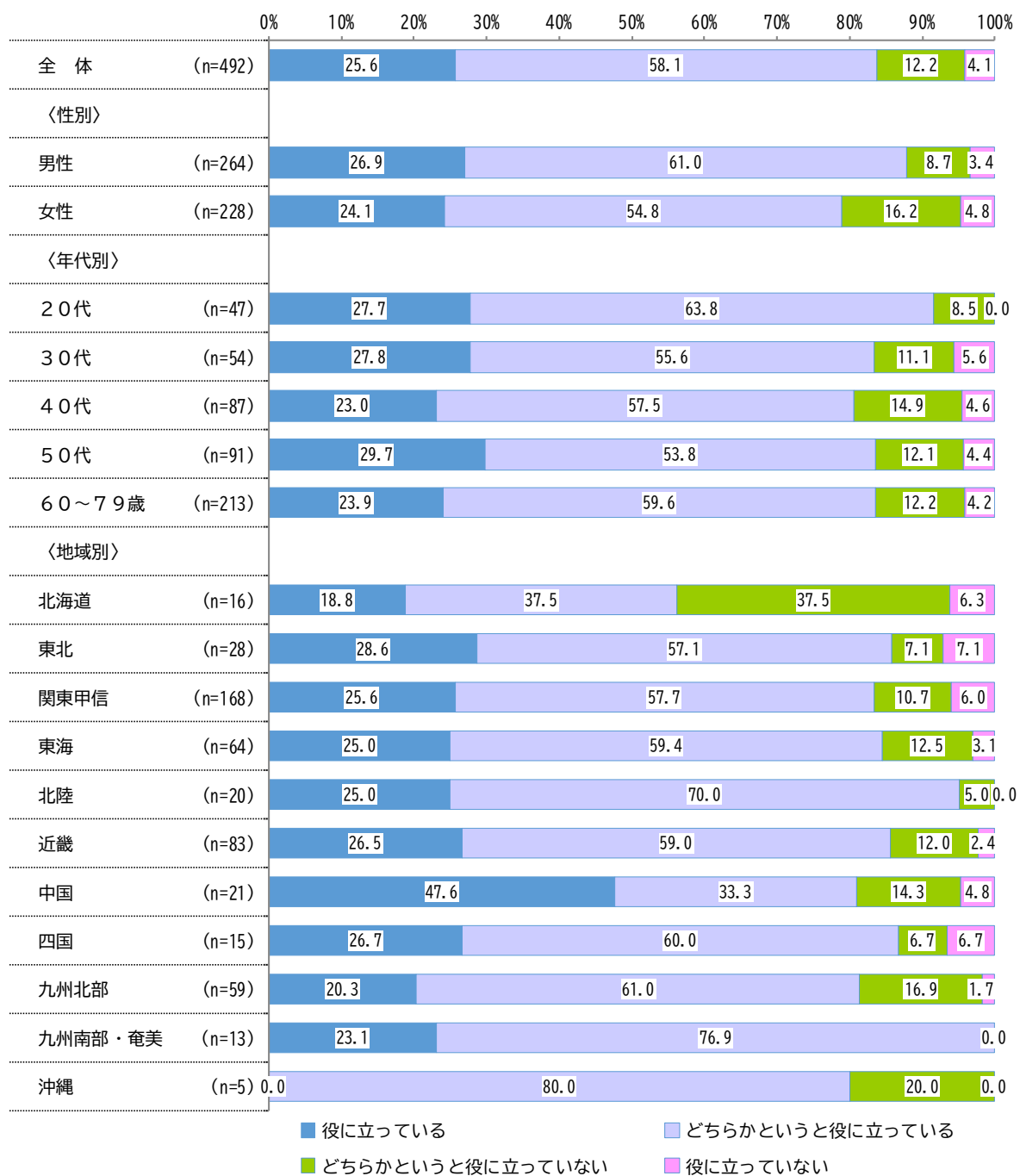
n=492

ベース：キキクルを知っている方



全体では、「役に立っている」と「どちらかというと役に立っている」の合計が83.7%となっている。

II. 調査結果



性別にみると、全体と同様の傾向にある。

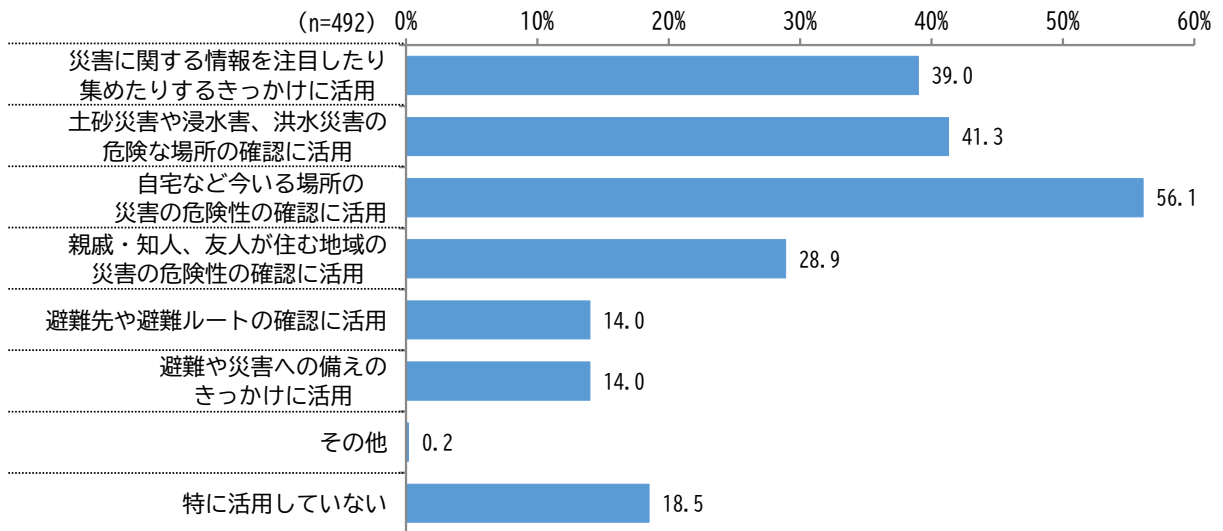
年代別にみると、「役に立っている」と「どちらかという役に立っている」の合計は、20代(91.5%)で高くなっている。

(4)キキクル(危険度分布)の活用方法

問4-4. あなたは、キキクル(危険度分布)をどのように活用していますか？あてはまるものを全て選んでください。

n=492

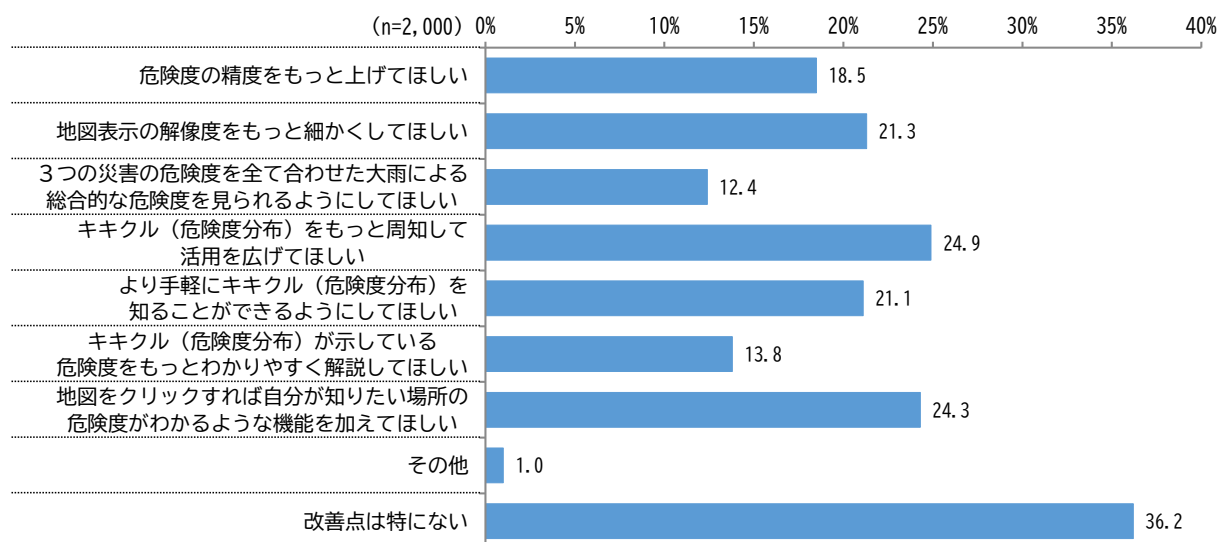
ベース：キキクルを知っている方



全体では、「自宅など今いる場所の災害の危険性の確認に活用」が 56.1%で最も高く、次いで「土砂災害や浸水害、洪水災害の危険な場所の確認に活用」が 41.3%、「災害に関する情報を注目したり集めたりするきっかけに活用」が 39.0%となっている。

(5)キキクル(危険度分布)の改善点

問5. キキクル(危険度分布)について改善してほしいことなど、あてはまるものを全て選んでください。



全体では、「改善点は特にない」が36.2%で最も高く、次いで「キキクル(危険度分布)をもっと周知して活用を広げてほしい」が24.9%、「地図をクリックすれば自分が知りたい場所の危険度がわかるような機能を加えてほしい」が24.3%となっている。

II. 調査結果

		n	危険度の精度をもっと上げてほしい	地図表示の解像度をもっと細かくしてほしい	雨による総合的な危険度を見られるよう大雨の危険度を全て合わせた大	3つの災害の危険度を見られるよう大雨の危険度を全て合わせた大	して活用を広げてほしい	キキクル(危険度分布)をもっと周知	知ることができるとわかるようにしてほしい	より手軽にキキクル(危険度分布)を	ほしい	危険度をもっとわかりやすく解説している	キキクル(危険度分布)が示している	えてほしい	場所の危険度がわかるような機能を加	地図をクリックすれば自分が知りたい	その他	改善点は特
		n																ない
全体		2000 100.0	369 18.5	425 21.3	247 12.4	498 24.9	421 21.1	276 13.8	486 24.3	19 1.0	724 36.2							
性別	男性	991 100.0	208 21.0	222 22.4	131 13.2	242 24.4	192 19.4	115 11.6	205 20.7	10 1.0	365 36.8							
	女性	1009 100.0	161 16.0	203 20.1	116 11.5	256 25.4	229 22.7	161 16.0	281 27.8	9 0.9	359 35.6							
年代	20代	264 100.0	51 19.3	46 17.4	37 14.0	55 20.8	49 18.6	34 12.9	32 12.1	1 0.4	119 45.1							
	30代	292 100.0	51 17.5	63 21.6	43 14.7	72 24.7	70 24.0	43 14.7	53 18.2	0 0.0	134 45.9							
	40代	396 100.0	93 23.5	81 20.5	44 11.1	101 25.5	77 19.4	57 14.4	82 20.7	6 1.5	145 36.6							
	50代	357 100.0	61 17.1	71 19.9	36 10.1	80 22.4	72 20.2	43 12.0	85 23.8	8 2.2	130 36.4							
	60~79歳	691 100.0	113 16.4	164 23.7	87 12.6	190 27.5	153 22.1	99 14.3	234 33.9	4 0.6	196 28.4							
地域別	北海道	85 100.0	9 10.6	11 12.9	6 7.1	22 25.9	13 15.3	9 10.6	10 11.8	0 0.0	37 43.5							
	東北	140 100.0	19 13.6	24 17.1	21 15.0	41 29.3	28 20.0	18 12.9	45 32.1	0 0.0	52 37.1							
	関東甲信	742 100.0	132 17.8	152 20.5	85 11.5	173 23.3	159 21.4	109 14.7	167 22.5	4 0.5	290 39.1							
	東海	237 100.0	42 17.7	59 24.9	38 16.0	60 25.3	53 22.4	35 14.8	68 28.7	5 2.1	79 33.3							
	北陸	81 100.0	21 25.9	24 29.6	17 21.0	22 27.2	21 25.9	17 21.0	19 23.5	2 2.5	26 32.1							
	近畿	322 100.0	61 18.9	71 22.0	31 9.6	74 23.0	69 21.4	40 12.4	82 25.5	2 0.6	111 34.5							
	中国	96 100.0	25 26.0	22 22.9	12 12.5	26 27.1	21 21.9	11 11.5	30 31.3	2 2.1	31 32.3							
	四国	58 100.0	11 19.0	11 19.0	5 8.6	21 36.2	11 19.0	4 6.9	11 19.0	1 1.7	20 34.5							
	九州北部	177 100.0	39 22.0	39 22.0	25 14.1	40 22.6	34 19.2	25 14.1	37 20.9	2 1.1	56 31.6							
	九州南部・奄美	40 100.0	6 15.0	8 20.0	4 10.0	12 30.0	7 17.5	4 10.0	8 20.0	1 2.5	14 35.0							
	沖縄	22 100.0	4 18.2	4 18.2	3 13.6	7 31.8	5 22.7	4 18.2	9 40.9	0 0.0	8 36.4							

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

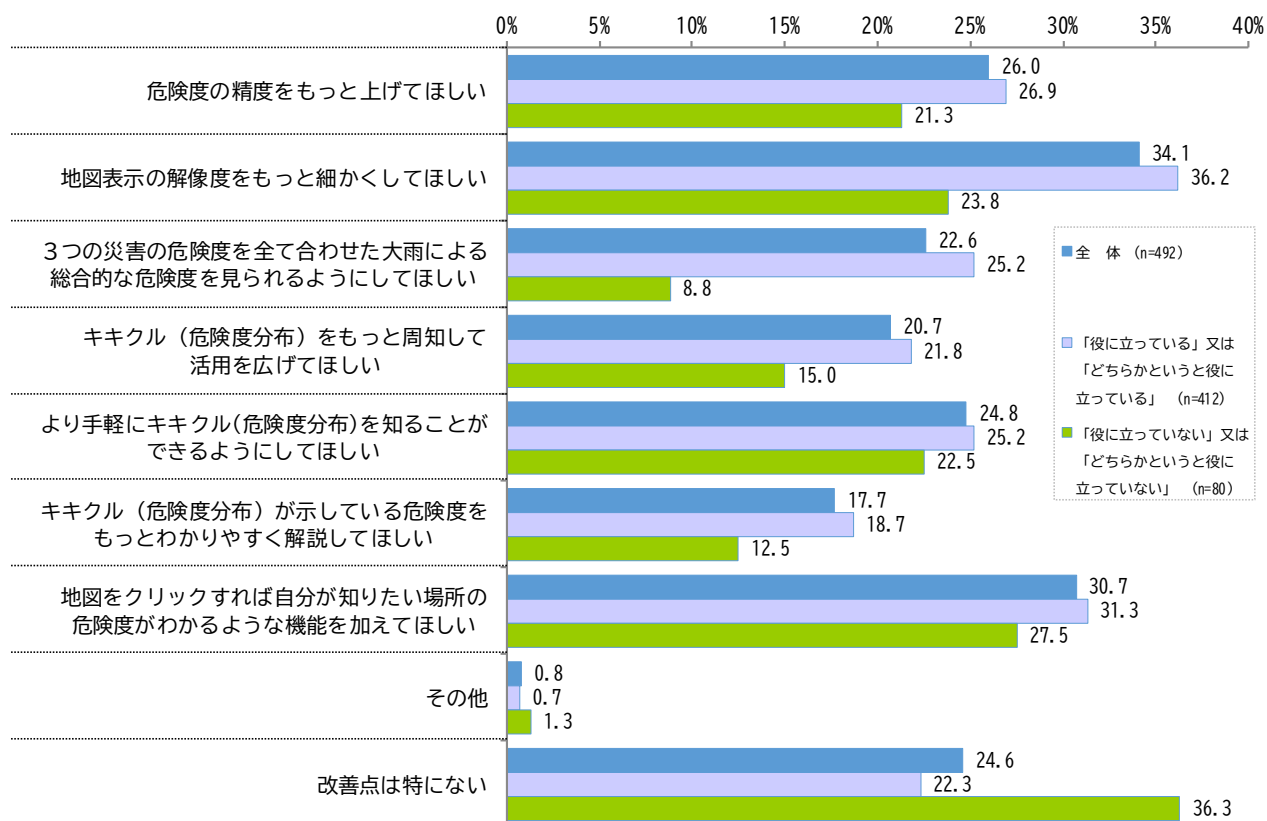
* グレー表記はベースがn=29以下のため参考値

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別にみると、「改善点は特にない」は20代(45.1%)、30代(45.9%)で高く半数近くを占める。

地域別にみると、「キキクル(危険度分布)をもっと周知して活用を広げてほしい」は四国(36.2%)で高くなっている。

II. 調査結果



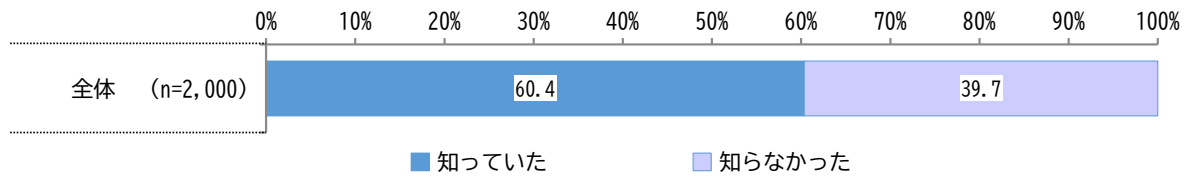
キキクル(危険度分布)の改善点を、キキクル(危険度分布)の役立ち度別(以下、『』を付す)でみると、『「役に立っている」又は「どちらかという役に立っている」』では、「地図表示の解像度をもっと細かくしてほしい」(36.2%)、「地図をクリックすれば自分が知りたい場所の危険度がわかるような機能を加えてほしい」(31.3%)、「危険度の精度をもっと上げてほしい」(26.9%)で高くなっている。

Ⅱ. 調査結果

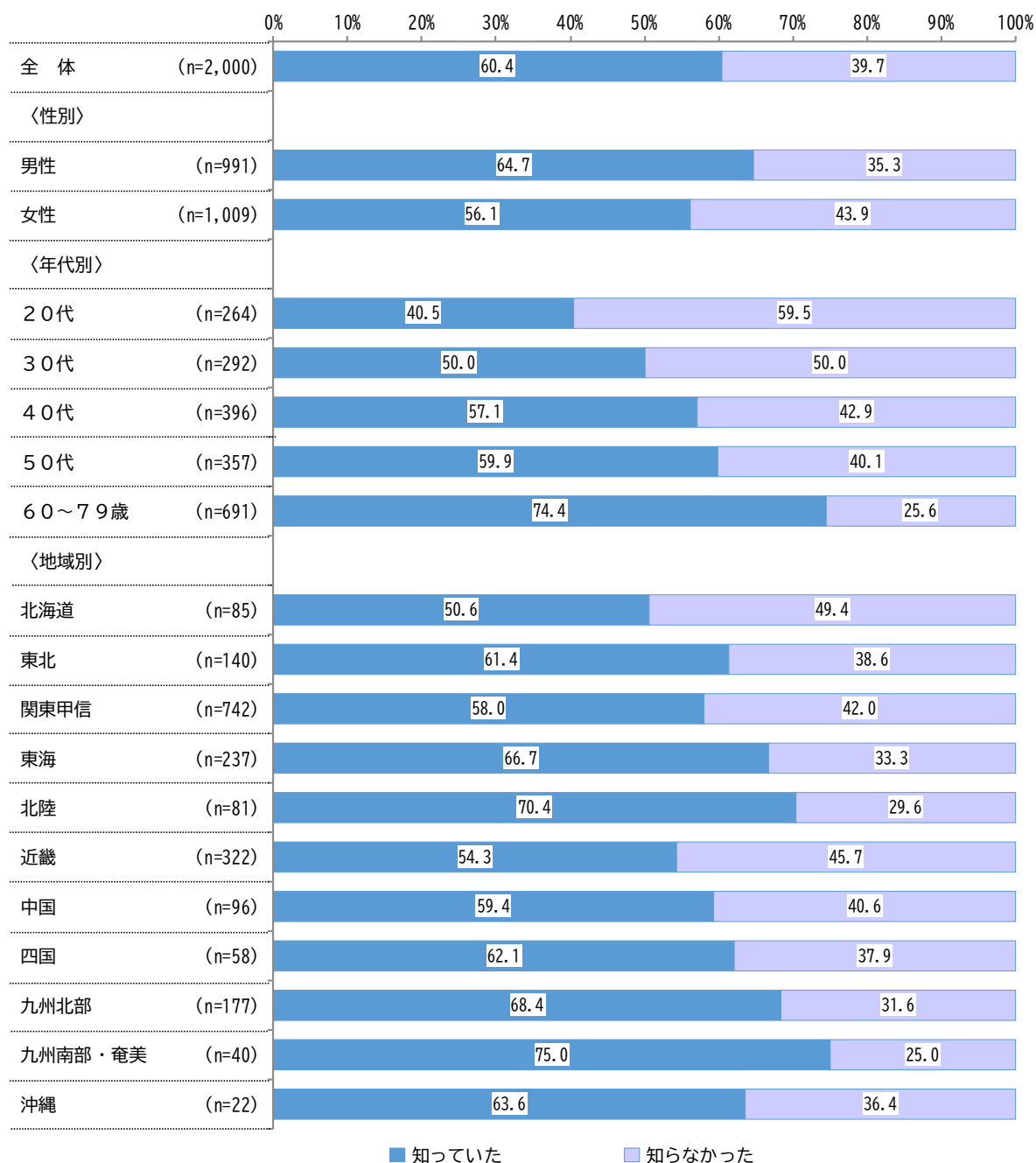
3. 線状降水帯に関する情報について

(1) 線状降水帯の発生情報の認知度

問6. 線状降水帯の発生情報(顕著な大雨に関する気象情報)の説明をご覧いただいたうえで改めてお伺いします。あなたは、線状降水帯の発生情報(顕著な大雨に関する気象情報)を知っていましたか？あてはまるものを1つ選んでください。



全体では、「知っていた」が60.4%、「知らなかった」が39.7%となっている。



性別にみると、全体と同様の傾向にある。

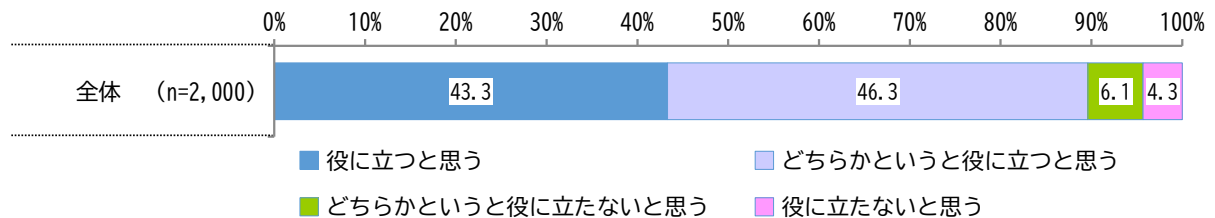
年代別にみると、線状降水帯の発生情報(顕著な大雨に関する気象情報)の認知率は、年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

地域別にみると、線状降水帯の発生情報(顕著な大雨に関する気象情報)の認知率は、九州南部・奄美(75.0%)、北陸(70.4%)、九州北部(68.4%)、東海(66.7%)で高くなっている。

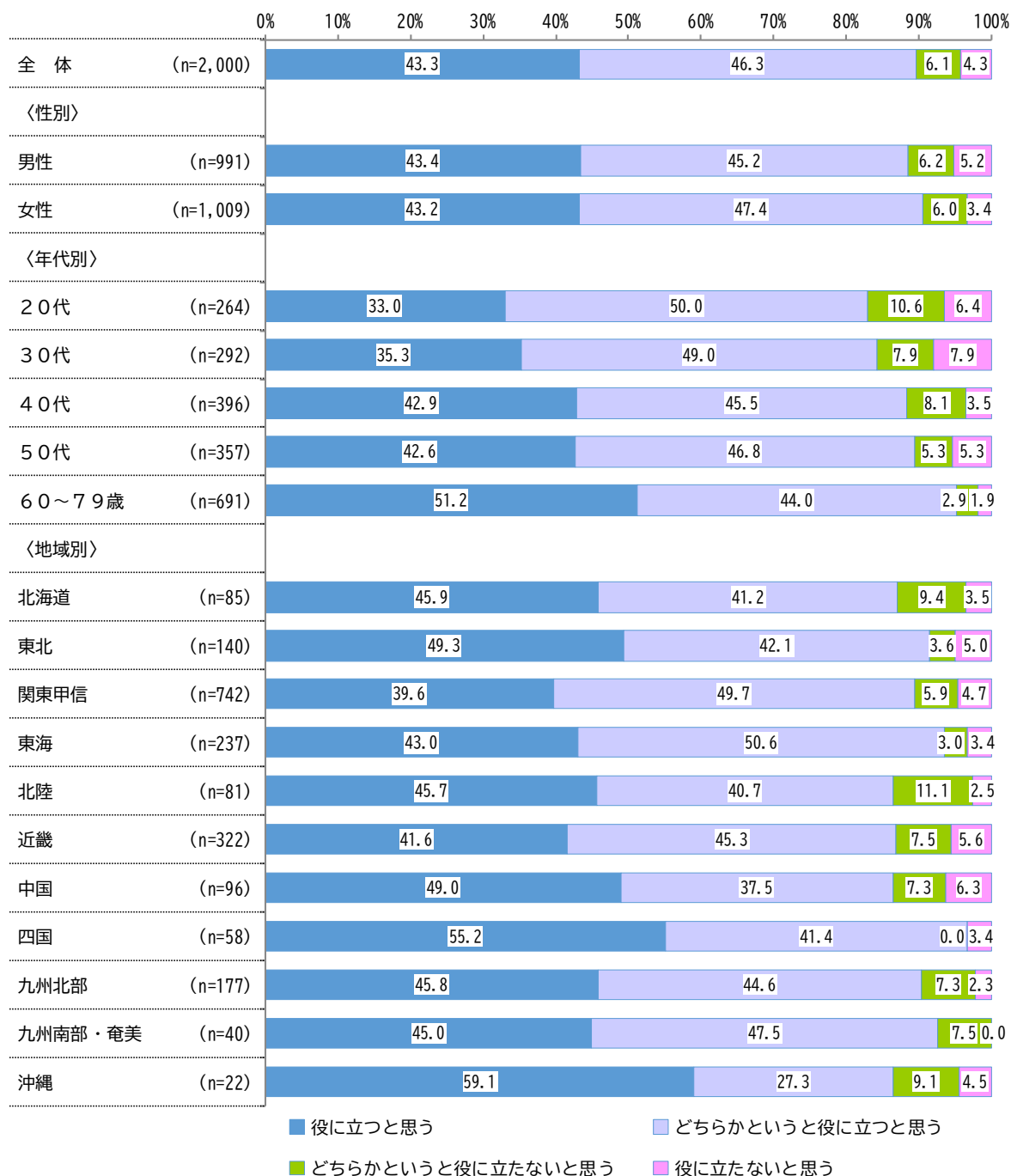
Ⅱ. 調査結果

(2) 線状降水帯の発生情報が発表されたときの役立ち度

問7. 大雨が予想されている、または大雨が降り続けている状況で、もし線状降水帯の発生情報(顕著な大雨に関する気象情報)があなたのお住まいの地域に発表されたとき、災害への備えや避難などの行動の判断材料として、その情報はあなたにとって役に立つと思いますか？あてはまるものを1つ選んでください。



全体では、「役に立つと思う」と「どちらかという役に立つと思う」の合計が89.6%となっている。



性別にみると、全体と同様の傾向にある。

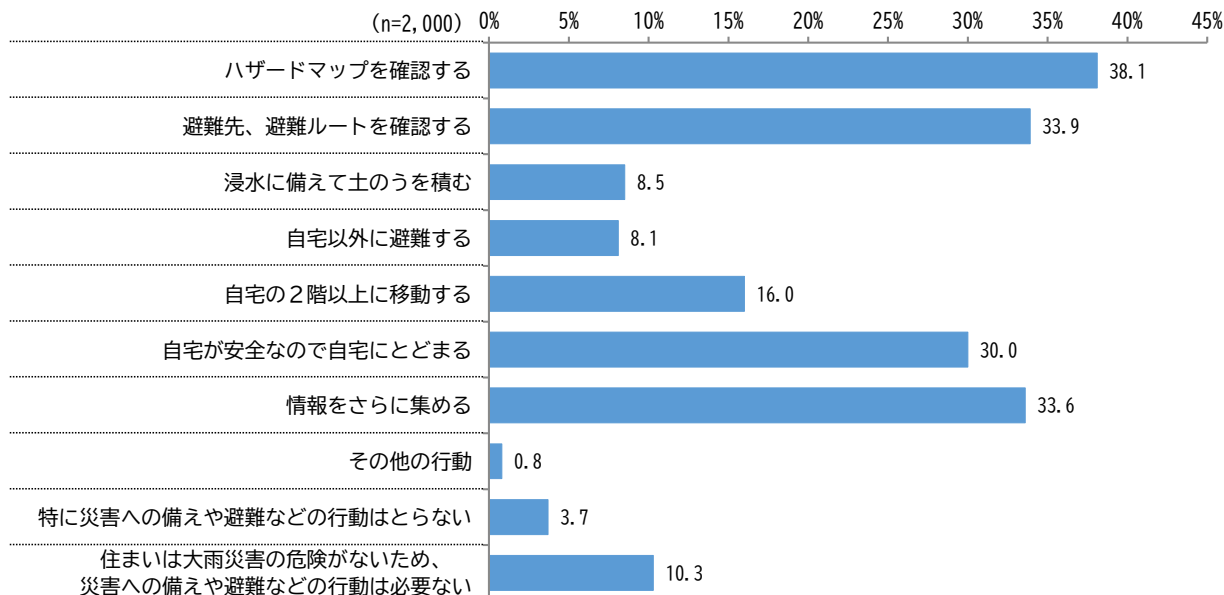
年代別にみると、「役に立つと思う」と「どちらかというと役に立つと思う」の合計は、年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

地域別にみると、「役に立つと思う」と「どちらかというと役に立つと思う」の合計は、四国(96.6%)で高くなっている。

II. 調査結果

(3) 線状降水帯の発生情報が発表されたときの行動

問8. 線状降水帯の発生情報(顕著な大雨に関する気象情報)があなたのお住まいの地域に発表されたとき、あなたはどのような行動をとろうと思いますか?あてはまるものを全て選んでください。



全体では、「ハザードマップを確認する」が 38.1%で最も高く、次いで「避難先、避難ルートを確認する」が 33.9%、「情報をさらに集める」が 33.6%、「自宅が安全なので自宅にとどまる」が 30.0%となっている。

II. 調査結果

		n	ハザードマップを確認する	避難先、避難ルートを確認する	浸水に備えて土のうを積む	自宅以外に避難する	自宅の2階以上に移動する	自宅が安全なので自宅にとどまる	情報をさらに集める	その他の行動	特に災害への備えや避難などの行動はとらない	住まいは大災害の危険がないため、災害への備えや避難など
全体		2000 100.0	762 38.1	677 33.9	169 8.5	161 8.1	320 16.0	599 30.0	671 33.6	15 0.8	74 3.7	206 10.3
性別	男性	991 100.0	372 37.5	326 32.9	100 10.1	83 8.4	139 14.0	267 26.9	330 33.3	5 0.5	47 4.7	116 11.7
	女性	1009 100.0	390 38.7	351 34.8	69 6.8	78 7.7	181 17.9	332 32.9	341 33.8	10 1.0	27 2.7	90 8.9
年代	20代	264 100.0	106 40.2	76 28.8	42 15.9	30 11.4	35 13.3	38 14.4	52 19.7	1 0.4	10 3.8	54 20.5
	30代	292 100.0	125 42.8	112 38.4	35 12.0	34 11.6	37 12.7	73 25.0	91 31.2	0 0.0	10 3.4	48 16.4
	40代	396 100.0	154 38.9	136 34.3	38 9.6	27 6.8	55 13.9	114 28.8	139 35.1	3 0.8	20 5.1	38 9.6
	50代	357 100.0	146 40.9	117 32.8	22 6.2	28 7.8	59 16.5	112 31.4	117 32.8	5 1.4	14 3.9	27 7.6
	60～79歳	691 100.0	231 33.4	236 34.2	32 4.6	42 6.1	134 19.4	262 37.9	272 39.4	6 0.9	20 2.9	39 5.6
地域別	北海道	85 100.0	25 29.4	34 40.0	4 4.7	7 8.2	15 17.6	22 25.9	34 40.0	0 0.0	1 1.2	9 10.6
	東北	140 100.0	47 33.6	56 40.0	13 9.3	11 7.9	26 18.6	38 27.1	64 45.7	2 1.4	3 2.1	16 11.4
	関東甲信	742 100.0	299 40.3	239 32.2	52 7.0	57 7.7	93 12.5	231 31.1	239 32.2	6 0.8	25 3.4	86 11.6
	東海	237 100.0	100 42.2	81 34.2	27 11.4	24 10.1	41 17.3	62 26.2	82 34.6	1 0.4	6 2.5	20 8.4
	北陸	81 100.0	30 37.0	33 40.7	11 13.6	8 9.9	26 32.1	20 24.7	34 42.0	1 1.2	5 6.2	5 6.2
	近畿	322 100.0	125 38.8	113 35.1	22 6.8	30 9.3	50 15.5	89 27.6	94 29.2	2 0.6	14 4.3	32 9.9
	中国	96 100.0	37 38.5	38 39.6	7 7.3	5 5.2	25 26.0	25 26.0	34 35.4	0 0.0	3 3.1	13 13.5
	四国	58 100.0	22 37.9	18 31.0	11 19.0	5 8.6	10 17.2	18 31.0	21 36.2	1 1.7	5 8.6	3 5.2
	九州北部	177 100.0	61 34.5	47 26.6	15 8.5	8 4.5	25 14.1	70 39.5	45 25.4	2 1.1	9 5.1	17 9.6
	九州南部・奄美	40 100.0	11 27.5	14 35.0	6 15.0	4 10.0	7 17.5	17 42.5	17 42.5	0 0.0	1 2.5	2 5.0
	沖縄	22 100.0	5 22.7	4 18.2	1 4.5	2 9.1	2 9.1	7 31.8	7 31.8	0 0.0	2 9.1	3 13.6

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* グレー表記はベースがn=29以下のため参考値

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

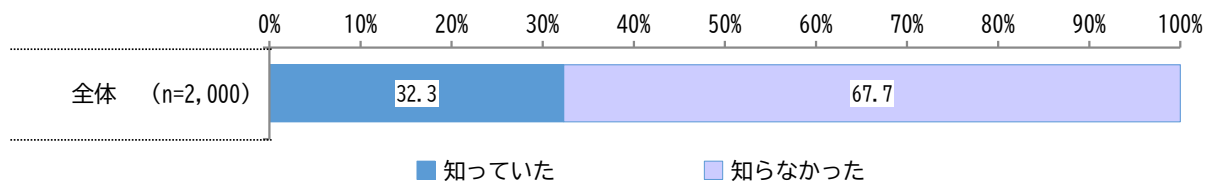
年代別にみると、20代では、「住まいは大災害の危険がないため、災害への備えや避難などの行動は必要ない」が高くなっている。

地域別にみると、「情報をさらに集める」は東北(45.7%)で高くなっている。「自宅が安全なので自宅にとどまる」は九州南部・奄美(42.5%)で高くなっている。「自宅の2階以上に移動する」は北陸(32.1%)、中国(26.0%)で高くなっている。「浸水に備えて土のうを積む」は四国(19.0%)で高くなっている。

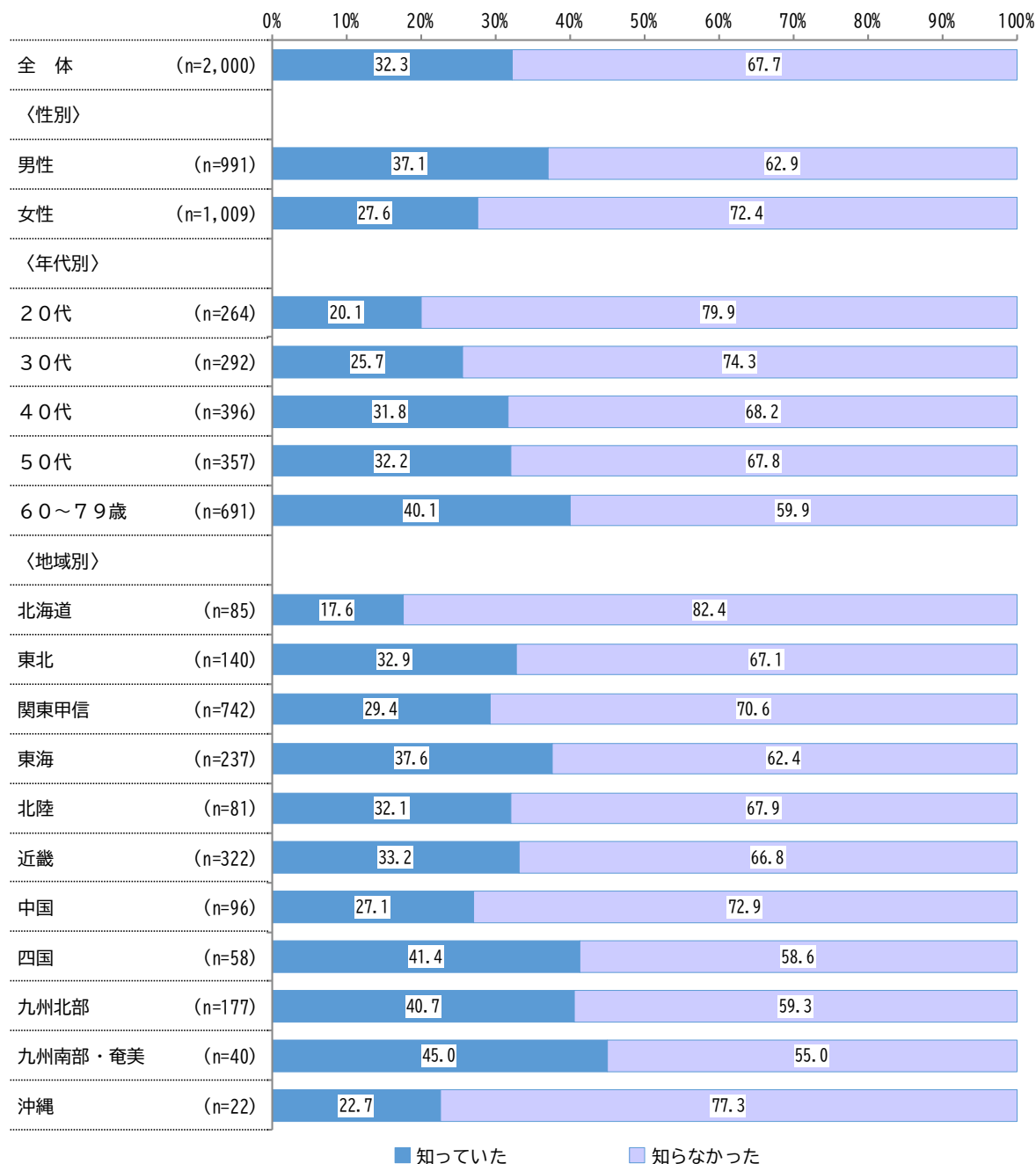
Ⅱ. 調査結果

(4) 線状降水帯の半日程度前からの予測情報の認知度

問9. 線状降水帯の半日程度前からの予測情報の説明をご覧いただいたうえで改めてお伺いします。あなたは、線状降水帯の半日程度前からの予測情報を知っていましたか？あてはまるものを1つ選んでください。



全体では、「知っていた」が32.3%、「知らなかった」が67.7%となっている。



性別にみると、全体と同様の傾向にある。

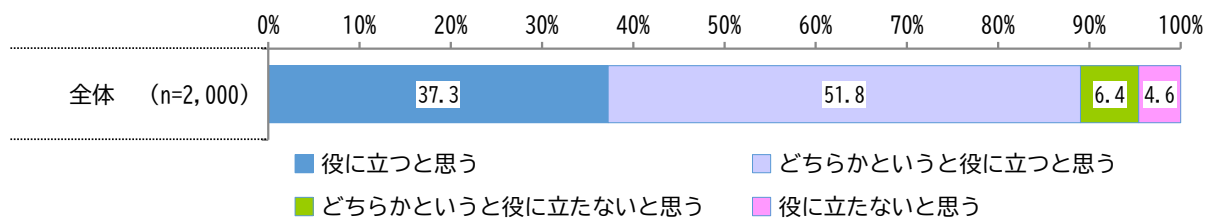
年代別にみると、線状降水帯の半日程度前からの予測情報の認知率は、年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

地域別にみると、線状降水帯の半日程度前からの予測情報の認知率は、九州南部・奄美(45.0%)、四国(41.4%)、九州北部(40.7%)、東海(37.6%)で高くなっている。

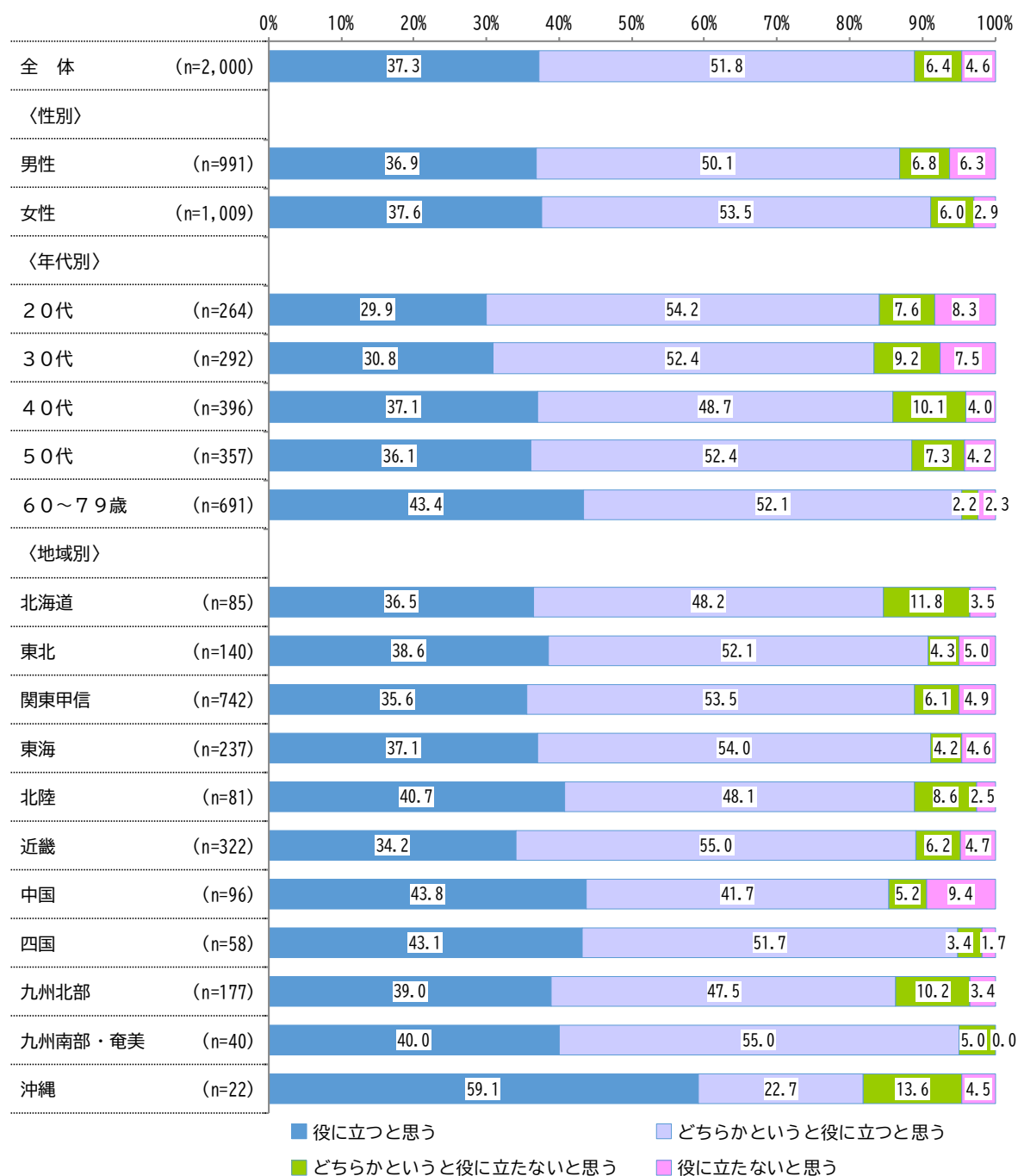
Ⅱ. 調査結果

(5) 線状降水帯の半日前からの予測情報の役立ち度

問10. 大雨が予想されたり、大雨が降り続けていたりする状況で、もし線状降水帯の半日まえからの予測情報があなたがお住まいの地域に発表されたとき、あなたにとって災害への備えや避難などの行動の判断材料として、その情報は役に立つと思いますか？あてはまるものを1つ選んでください。



全体では、「役に立つと思う」と「どちらかというと役に立つと思う」の合計が89.1%となっている。



性別にみると、全体と同様の傾向にある。

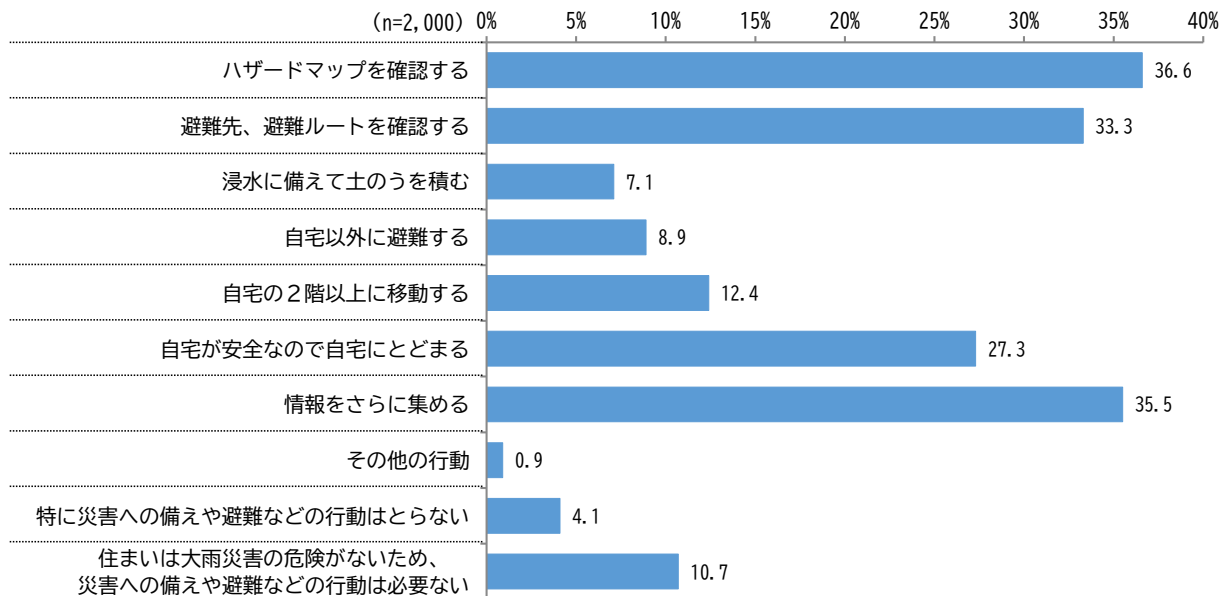
年代別にみると、「役に立つと思う」と「どちらかというと役に立つと思う」の合計は、概ね年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

地域別にみると、「役に立つと思う」と「どちらかというと役に立つと思う」の合計は、九州南部・奄美(95.0%)、四国(94.8%)で高くなっている。

II. 調査結果

(6)線状降水帯の半日程度前からの予測情報が発表された場合の行動

問1 1. 線状降水帯の半日程度前からの予測情報があなたのお住まいの地域に発表されたとき、あなたはどのような行動をとろうと思いますか？あてはまるものを全て選んでください。



全体では、「ハザードマップを確認する」が36.6%で最も高く、次いで「情報をさらに集める」が35.5%、「避難先、避難ルートを確認する」が33.3%となっている。

II. 調査結果

		n	ハザードマップを確認する	避難先、避難ルートを確認する	浸水に備えて土のうを積む	自宅以外に避難する	自宅の2階以上に移動する	自宅が安全なので自宅にとどまる	情報をさらに集める	その他の行動	特に災害への備えや避難などの行動はとらない	ため、災害への備えや避難がない	住まいは大雨災害の危険がない
全体		2000 100.0	731 36.6	665 33.3	141 7.1	178 8.9	247 12.4	546 27.3	710 35.5	17 0.9	81 4.1	213 10.7	
性別	男性	991 100.0	362 36.5	319 32.2	76 7.7	91 9.2	111 11.2	244 24.6	340 34.3	5 0.5	47 4.7	124 12.5	
	女性	1009 100.0	369 36.6	346 34.3	65 6.4	87 8.6	136 13.5	302 29.9	370 36.7	12 1.2	34 3.4	89 8.8	
年代	20代	264 100.0	90 34.1	79 29.9	27 10.2	27 10.2	24 9.1	42 15.9	63 23.9	0 0.0	15 5.7	56 21.2	
	30代	292 100.0	114 39.0	99 33.9	31 10.6	35 12.0	34 11.6	65 22.3	95 32.5	1 0.3	13 4.5	50 17.1	
	40代	396 100.0	152 38.4	138 34.8	31 7.8	32 8.1	42 10.6	97 24.5	145 36.6	4 1.0	23 5.8	37 9.3	
	50代	357 100.0	134 37.5	118 33.1	20 5.6	29 8.1	47 13.2	99 27.7	129 36.1	5 1.4	13 3.6	28 7.8	
	60～79歳	691 100.0	241 34.9	231 33.4	32 4.6	55 8.0	100 14.5	243 35.2	278 40.2	7 1.0	17 2.5	42 6.1	
地域別	北海道	85 100.0	27 31.8	38 44.7	2 2.4	7 8.2	11 12.9	22 25.9	32 37.6	0 0.0	3 3.5	10 11.8	
	東北	140 100.0	46 32.9	56 40.0	9 6.4	9 6.4	17 12.1	39 27.9	58 41.4	2 1.4	4 2.9	15 10.7	
	関東甲信	742 100.0	287 38.7	231 31.1	44 5.9	61 8.2	82 11.1	211 28.4	254 34.2	6 0.8	29 3.9	89 12.0	
	東海	237 100.0	98 41.4	84 35.4	22 9.3	30 12.7	31 13.1	58 24.5	92 38.8	2 0.8	6 2.5	22 9.3	
	北陸	81 100.0	29 35.8	31 38.3	8 9.9	10 12.3	20 24.7	14 17.3	30 37.0	1 1.2	10 12.3	5 6.2	
	近畿	322 100.0	110 34.2	105 32.6	22 6.8	32 9.9	39 12.1	85 26.4	102 31.7	3 0.9	10 3.1	32 9.9	
	中国	96 100.0	36 37.5	34 35.4	6 6.3	7 7.3	17 17.7	23 24.0	40 41.7	0 0.0	4 4.2	14 14.6	
	四国	58 100.0	24 41.4	18 31.0	6 10.3	5 8.6	8 13.8	16 27.6	25 43.1	1 1.7	3 5.2	2 3.4	
	九州北部	177 100.0	56 31.6	50 28.2	12 6.8	12 6.8	17 9.6	58 32.8	51 28.8	1 0.6	10 5.6	18 10.2	
	九州南部・奄美	40 100.0	11 27.5	11 27.5	7 17.5	3 7.5	3 7.5	13 32.5	15 37.5	1 2.5	1 2.5	3 7.5	
	沖縄	22 100.0	7 31.8	7 31.8	3 13.6	2 9.1	2 9.1	7 31.8	11 50.0	0 0.0	1 4.5	3 13.6	

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* グレー表記はベースがn=29以下のため参考値

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

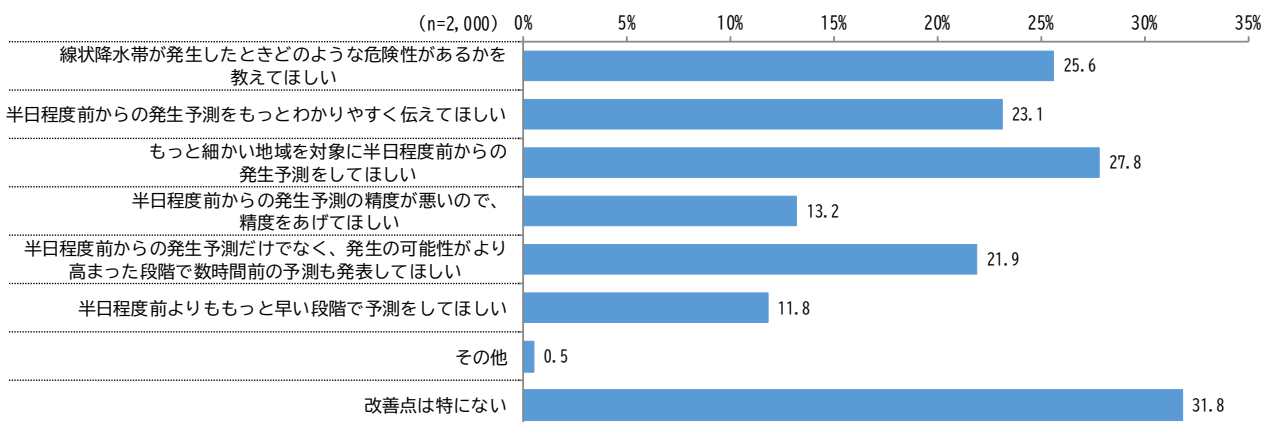
年代別にみると、20代では、「住まいは大雨災害の危険がないため、災害への備えや避難などの行動は必要ない」が高くなっている。

地域別にみると、「避難先、避難ルートを確認する」は北海道(44.7%)で高い。「自宅の2階以上に移動する」は北陸(24.7%)で高い。「浸水に備えて土のうを積む」は九州南部・奄美(17.5%)で高くなっている。

Ⅱ. 調査結果

(7)線状降水帯に関する情報の改善点

問 1 2. 線状降水帯に関する情報の改善点など、あてはまるものを全て選んでください。



全体では、「改善点は特にない」が 31.8%で最も高く、次いで「もっと細かい地域を対象に半日程度前からの発生予測をしてほしい」が 27.8%、「線状降水帯が発生したときどのような危険性があるかを教えてほしい」が 25.6%となっている。

II. 調査結果

		n	危険線状降 水帯がある かを教え てほしい ような	かりや すく伝 えてほ しい	半日程 度前か らの発 生予測 をもつ とわ	もつと 細かい 地域を 対象に 半日程 度前	い半日 程度前 からの 発生予 測の精 度が悪 い	で半日 程度前 からの 発生予 測も発 表して ほしい 段階	測半日 程度前 よりも もつと 早い段 階で予	その他	改善点 は特に ない
全体		2000 100.0	512 25.6	461 23.1	555 27.8	263 13.2	437 21.9	235 11.8	9 0.5	635 31.8	
性別	男性	991 100.0	244 24.6	239 24.1	259 26.1	148 14.9	207 20.9	117 11.8	7 0.7	322 32.5	
	女性	1009 100.0	268 26.6	222 22.0	296 29.3	115 11.4	230 22.8	118 11.7	2 0.2	313 31.0	
年代	20代	264 100.0	64 24.2	60 22.7	55 20.8	33 12.5	41 15.5	20 7.6	0 0.0	106 40.2	
	30代	292 100.0	73 25.0	65 22.3	72 24.7	45 15.4	58 19.9	31 10.6	2 0.7	117 40.1	
	40代	396 100.0	103 26.0	94 23.7	103 26.0	52 13.1	95 24.0	52 13.1	3 0.8	128 32.3	
	50代	357 100.0	98 27.5	73 20.4	95 26.6	42 11.8	66 18.5	47 13.2	2 0.6	112 31.4	
	60～79歳	691 100.0	174 25.2	169 24.5	230 33.3	91 13.2	177 25.6	85 12.3	2 0.3	172 24.9	
地域別	北海道	85 100.0	19 22.4	13 15.3	18 21.2	7 8.2	17 20.0	9 10.6	0 0.0	35 41.2	
	東北	140 100.0	32 22.9	32 22.9	37 26.4	18 12.9	32 22.9	11 7.9	0 0.0	50 35.7	
	関東甲信	742 100.0	196 26.4	178 24.0	191 25.7	87 11.7	148 19.9	92 12.4	3 0.4	236 31.8	
	東海	237 100.0	62 26.2	55 23.2	71 30.0	30 12.7	59 24.9	30 12.7	2 0.8	65 27.4	
	北陸	81 100.0	28 34.6	22 27.2	24 29.6	14 17.3	22 27.2	15 18.5	1 1.2	24 29.6	
	近畿	322 100.0	83 25.8	75 23.3	82 25.5	49 15.2	69 21.4	42 13.0	1 0.3	98 30.4	
	中国	96 100.0	28 29.2	21 21.9	25 26.0	18 18.8	15 15.6	7 7.3	2 2.1	34 35.4	
	四国	58 100.0	15 25.9	15 25.9	27 46.6	9 15.5	17 29.3	5 8.6	0 0.0	16 27.6	
	九州北部	177 100.0	39 22.0	32 18.1	50 28.2	19 10.7	42 23.7	19 10.7	0 0.0	57 32.2	
	九州南部・奄美	40 100.0	5 12.5	9 22.5	23 57.5	10 25.0	10 25.0	3 7.5	0 0.0	10 25.0	
	沖縄	22 100.0	5 22.7	9 40.9	7 31.8	2 9.1	6 27.3	2 9.1	0 0.0	10 45.5	

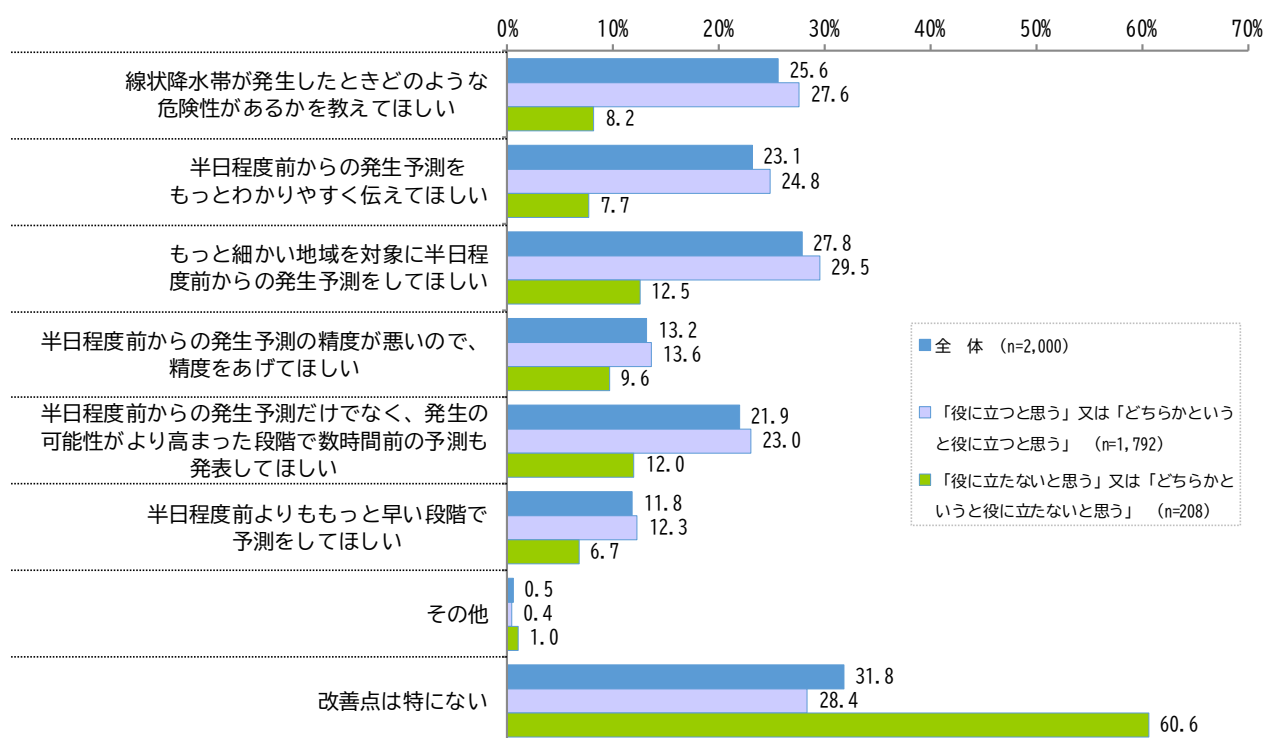
* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* グレー表記はベースがn=29以下のため参考値

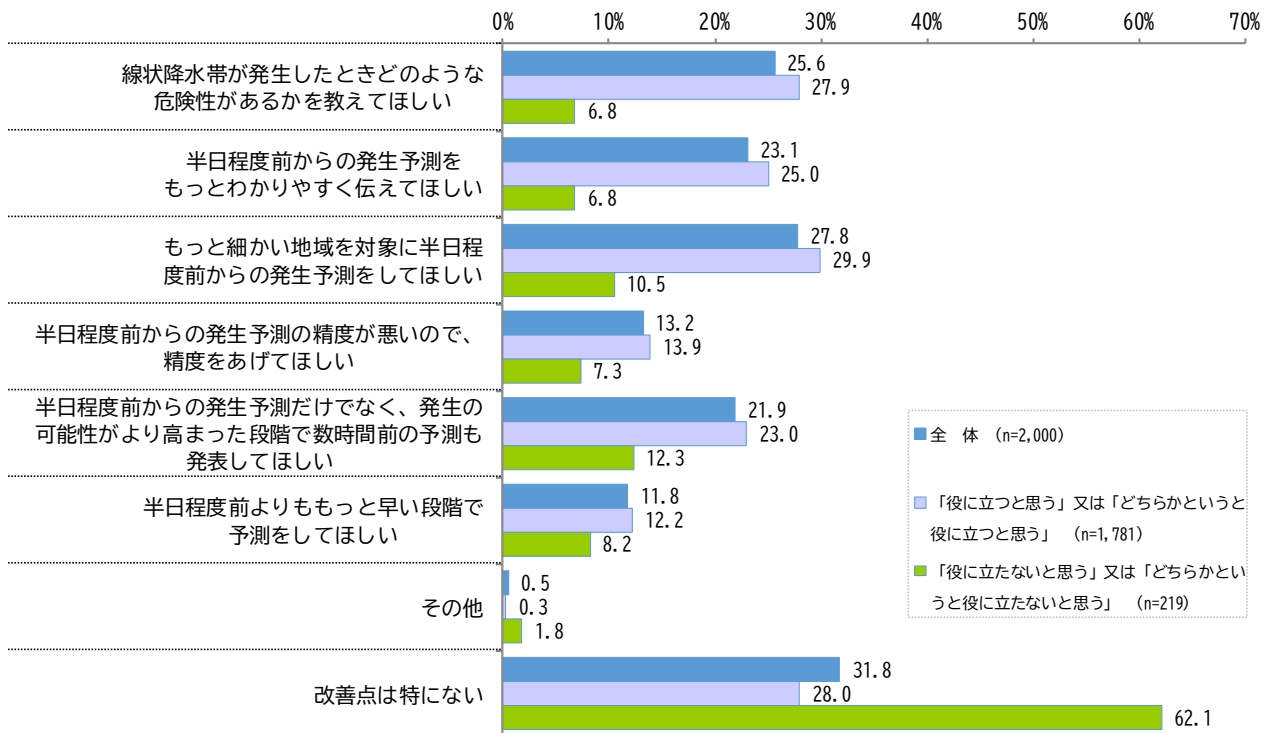
性別にみると、全体と同様の傾向にある。

地域別にみると、「もっと細かい地域を対象に半日程度前からの発生予測をしてほしい」は四国(46.6%)、九州南部・奄美(57.5%)で高くなっている。「半日程度前からの発生予測だけでなく、発生の可能性がより高まった段階で数時間前の予測も発表してほしい」は四国(29.3%)で高くなっている。

II. 調査結果



線状降水帯に関する情報の改善点を、線状降水帯の発生情報が発表されたときの役立ち度別（以下、『』を付す）で見ると、『「役に立つと思う」又は「どちらかという役に立つと思う」』では、「もっと細かい地域を対象に半日程度前からの発生予測をしてほしい」（29.5%）、「改善点は特にない」（28.4%）、「線状降水帯が発生したときどのような危険性があるかを教えてほしい」（27.6%）が高くなっている。



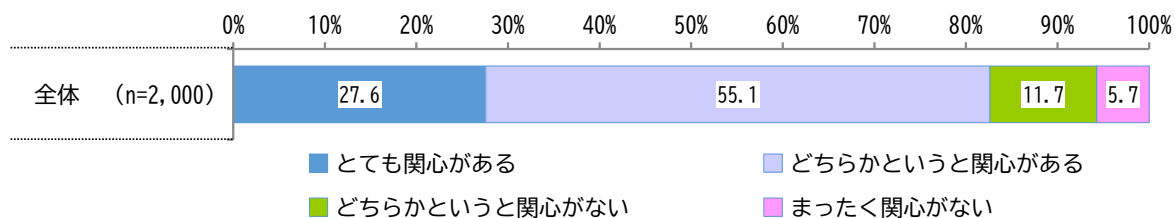
線状降水帯に関する情報の改善点を、線状降水帯の半日前からの予測情報の役立ち度別（以下、『』を付す）で見ると、『「役に立つと思う」又は「どちらかという役に立つと思う」』では、「もっと細かい地域を対象に半日程度前からの発生予測をしてほしい」（29.9%）、「改善点は特にない」（28.0%）、「線状降水帯が発生したときどのような危険性があるかを教えてほしい」（27.9%）が高くなっている。

Ⅱ. 調査結果

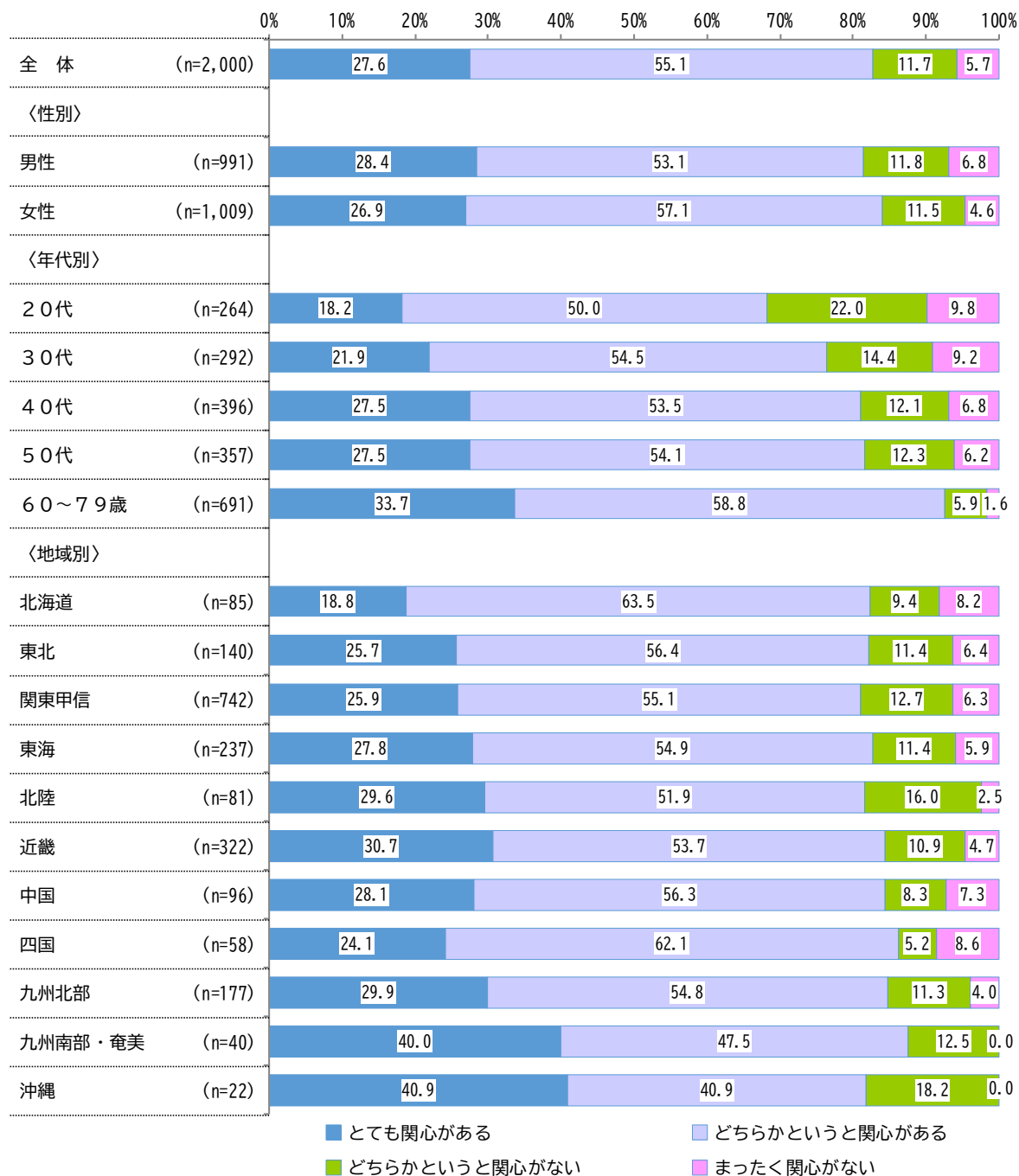
4. 気候変動について

(1)気候変動が引き起こす問題への関心度

問13-1. あなたは、気候変動やそれが引き起こす問題にどの程度関心がありますか。あてはまるものを1つ選んでください。



全体では、「とても関心がある」と「どちらかというに関心がある」の合計が82.7%となっている。



性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別にみると、「とても関心がある」と「どちらかというに関心がある」の合計は、概ね年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

地域別にみると、「とても関心がある」と「どちらかというに関心がある」の合計は、九州南部・奄美(87.5%)で高くなっている。

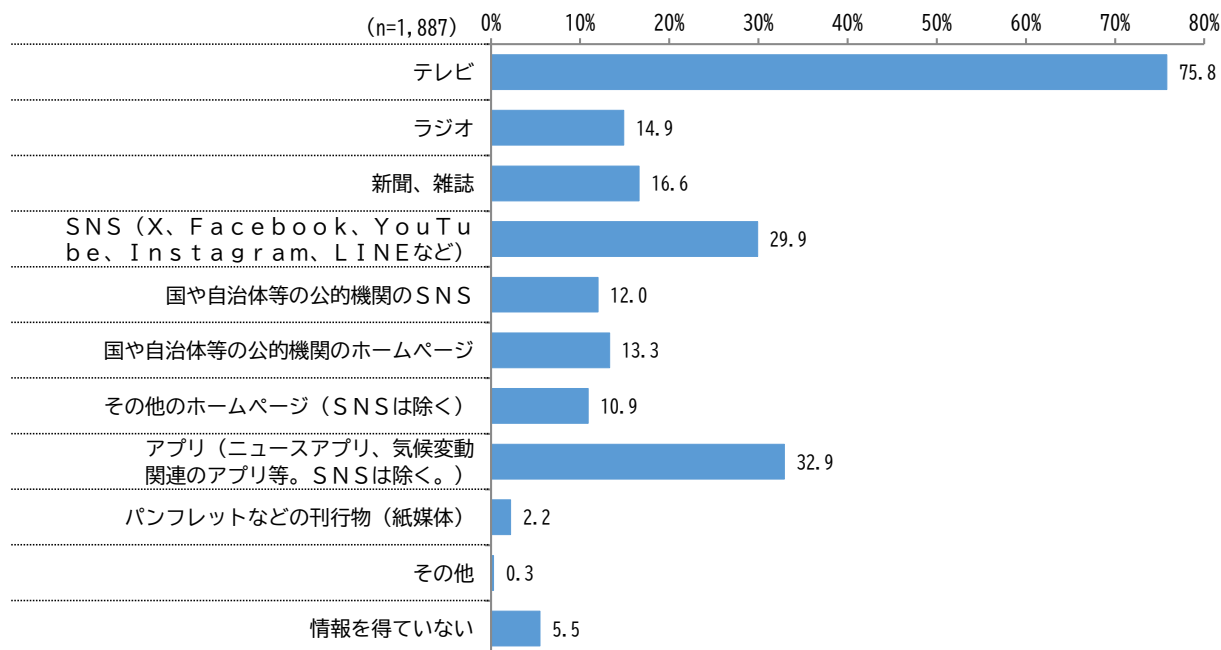
II. 調査結果

(2)気候変動や気候変動対策に関する情報を得る媒体

問13-2. 気候変動や気候変動対策に関する情報を、どのような媒体から得ていますか。あてはまるものを全て選んでください。

n=1,887

ベース：気候変動やそれが引き起こす問題に関心がある方



全体では、「テレビ」が75.8%で最も高く、次いで「アプリ(ニュースアプリ、気候変動関連のアプリ等。SNSは除く。)」が32.9%、「SNS(X、Facebook、YouTube、Instagram、LINEなど)」が29.9%となっている。

II. 調査結果

		n	テレビ	ラジオ	新聞、雑誌	LINEなど	SNS(X、Facebook、YouTube、Instagram、LINEなど)	国や自治体等の公的機関のSNS	国や自治体等の公的機関のホームページ	その他のホームページ(SNSは除く)	アプリ(ニュースアプリ、気候変動関連のアプリ等。SNSは除く。)	パンフレットなどの刊行物(紙媒体)	その他	情報を得ていない
全体		1887 100.0	1430 75.8	282 14.9	313 16.6	565 29.9	227 12.0	251 13.3	205 10.9	621 32.9	42 2.2	6 0.3	104 5.5	
性別	男性	924 100.0	685 74.1	176 19.0	165 17.9	272 29.4	117 12.7	136 14.7	135 14.6	305 33.0	21 2.3	1 0.1	49 5.3	
	女性	963 100.0	745 77.4	106 11.0	148 15.4	293 30.4	110 11.4	115 11.9	70 7.3	316 32.8	21 2.2	5 0.5	55 5.7	
年代	20代	238 100.0	126 52.9	25 10.5	11 4.6	108 45.4	32 13.4	18 7.6	16 6.7	54 22.7	5 2.1	1 0.4	36 15.1	
	30代	265 100.0	167 63.0	36 13.6	25 9.4	119 44.9	31 11.7	39 14.7	29 10.9	73 27.5	7 2.6	0 0.0	28 10.6	
	40代	369 100.0	264 71.5	48 13.0	46 12.5	122 33.1	49 13.3	43 11.7	57 15.4	124 33.6	4 1.1	0 0.0	23 6.2	
	50代	335 100.0	264 78.8	59 17.6	47 14.0	99 29.6	33 9.9	47 14.0	38 11.3	111 33.1	5 1.5	1 0.3	8 2.4	
	60~79歳	680 100.0	609 89.6	114 16.8	184 27.1	117 17.2	82 12.1	104 15.3	65 9.6	259 38.1	21 3.1	4 0.6	9 1.3	
地域別	北海道	78 100.0	64 82.1	20 25.6	21 26.9	19 24.4	6 7.7	4 5.1	5 6.4	22 28.2	2 2.6	0 0.0	4 5.1	
	東北	131 100.0	107 81.7	24 18.3	32 24.4	37 28.2	17 13.0	18 13.7	16 12.2	50 38.2	4 3.1	0 0.0	3 2.3	
	関東甲信	695 100.0	517 74.4	97 14.0	96 13.8	209 30.1	85 12.2	101 14.5	80 11.5	216 31.1	15 2.2	1 0.1	43 6.2	
	東海	223 100.0	174 78.0	35 15.7	45 20.2	69 30.9	29 13.0	28 12.6	28 12.6	82 36.8	5 2.2	1 0.4	9 4.0	
	北陸	79 100.0	65 82.3	13 16.5	19 24.1	27 34.2	8 10.1	10 12.7	10 12.7	25 31.6	2 2.5	1 1.3	3 3.8	
	近畿	307 100.0	218 71.0	35 11.4	39 12.7	84 27.4	42 13.7	38 12.4	28 9.1	101 32.9	4 1.3	1 0.3	16 5.2	
	中国	89 100.0	65 73.0	12 13.5	12 13.5	32 36.0	9 10.1	11 12.4	11 12.4	32 36.0	5 5.6	1 1.1	10 11.2	
	四国	53 100.0	43 81.1	7 13.2	10 18.9	17 32.1	4 7.5	7 13.2	6 11.3	16 30.2	1 1.9	0 0.0	2 3.8	
	九州北部	170 100.0	130 76.5	22 12.9	25 14.7	52 30.6	20 11.8	24 14.1	15 8.8	58 34.1	3 1.8	1 0.6	11 6.5	
	九州南部・奄美	40 100.0	34 85.0	9 22.5	7 17.5	10 25.0	5 12.5	6 15.0	3 7.5	9 22.5	1 2.5	0 0.0	0 0.0	
	沖縄	22 100.0	13 59.1	8 36.4	7 31.8	9 40.9	2 9.1	4 18.2	3 13.6	10 45.5	0 0.0	0 0.0	3 13.6	

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* グレー表記はベースがn=29以下のため参考値

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

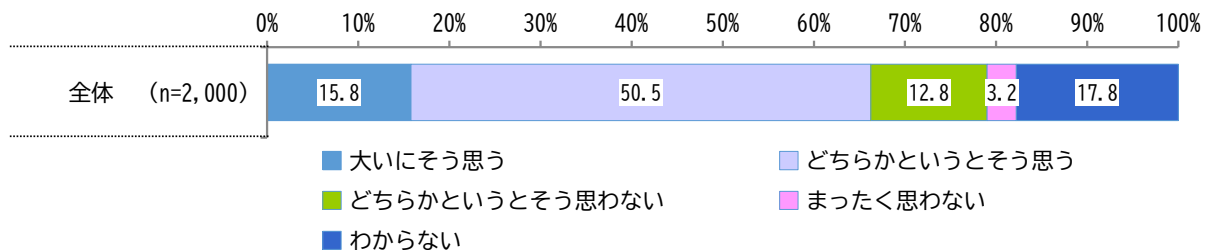
年代別にみると、20代、30代で「SNS(X、Facebook、YouTube、Instagram、LINEなど)」が高くなっている。60~79歳で「テレビ」「新聞、雑誌」が高くなっている。

地域別にみると、「ラジオ」及び「新聞、雑誌」は北海道で高くなっている。

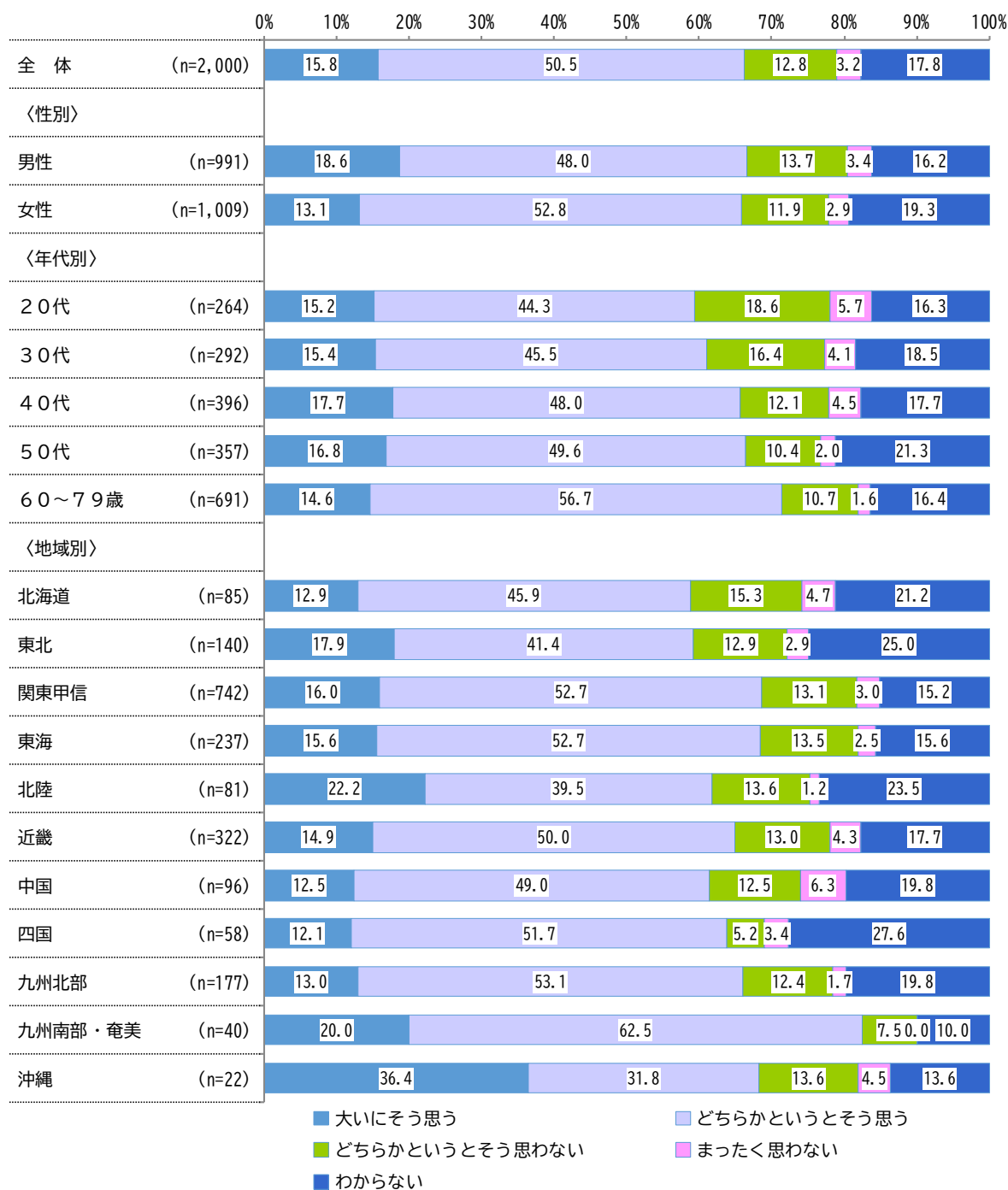
Ⅱ. 調査結果

(3) 「日本の気候変動2025」をスライド形式にまとめた「概要版」の有用度

問14. 気象庁は文部科学省と共に、日本における気候変動の観測結果と将来予測を「日本の気候変動2025」にとりまとめています。その中で、特に重要な事項をコンパクトにスライド形式でまとめた「概要版」を用意しています。あなたは日本の気候変動の概要を理解するのに「概要版」は有用だと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。



全体では、「大いにそう思う」と「どちらかというと思う」の合計が66.3%となっている。



性別にみると、全体と同様の傾向にある。

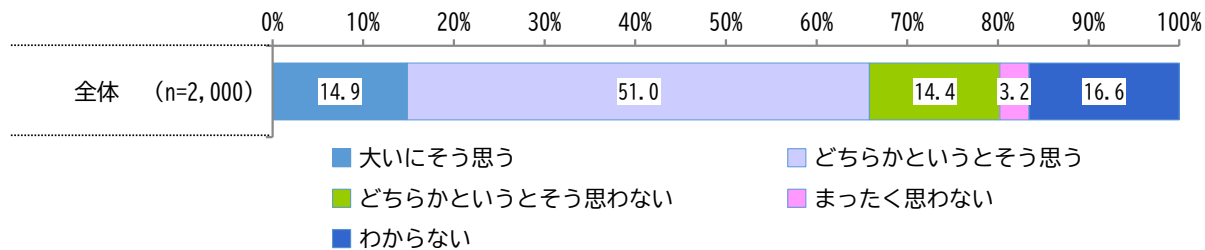
年代別にみると、「大いにそう思う」と「どちらかというと思う」の合計は、概ね年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

地域別にみると、「大いにそう思う」と「どちらかというと思う」の合計は、九州南部・奄美(82.5%)で高くなっている。

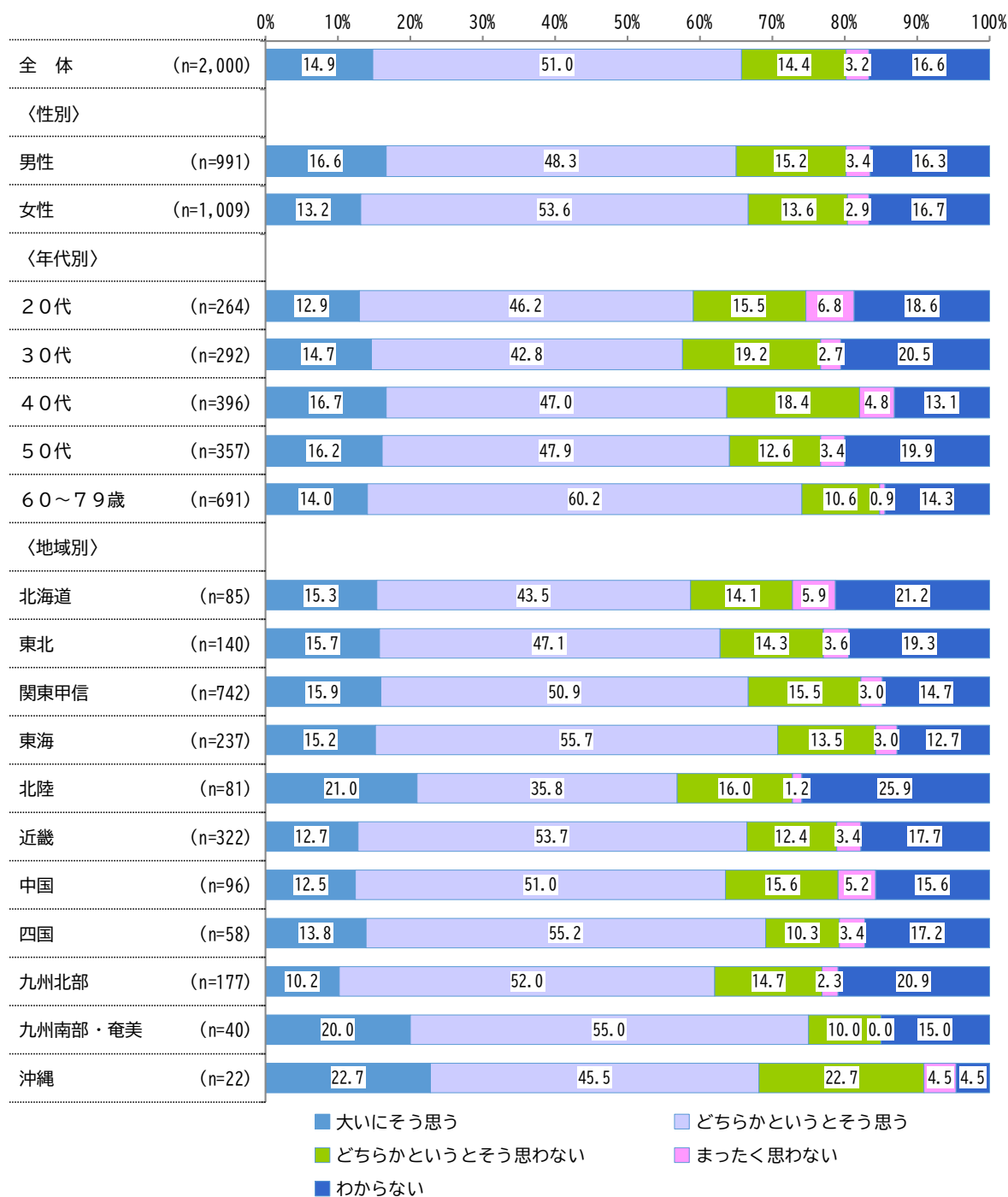
Ⅱ. 調査結果

(4)日本の気候変動の概要を紹介する解説動画の理解のしやすさ

問15. 日本の気候変動の概要を紹介する解説動画(約6分×4本)も用意しています。あなたは、解説動画があると内容を理解しやすいと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。



全体では、「大いにそう思う」と「どちらかというと思う」の合計が65.9%となっている。



性別にみると、全体と同様の傾向にある。

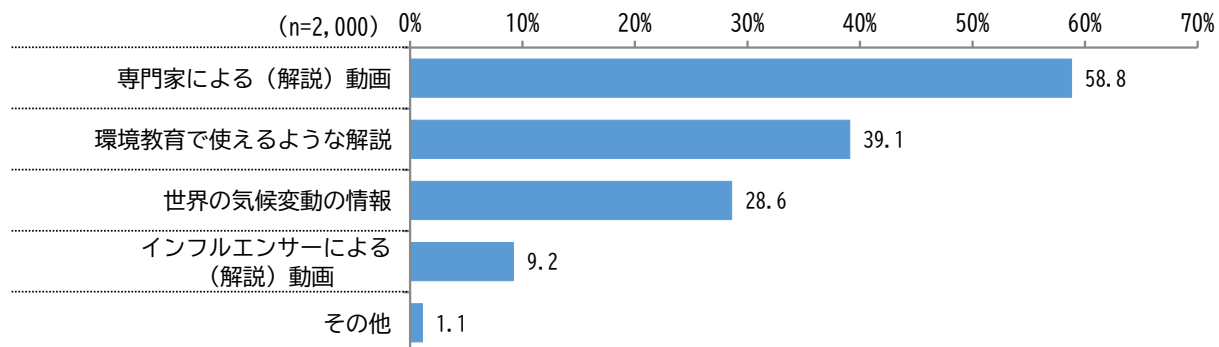
年代別にみると、「大いにそう思う」と「どちらかというと思う」の合計は、概ね年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

地域別にみると、「大いにそう思う」と「どちらかというと思う」の合計は、九州南部・奄美(75.0%)、東海(70.9%)で高くなっている。

II. 調査結果

(5) 「日本の気候変動」シリーズでよりよい解説や補足情報としてあるとよいと思うもの

問16. 「日本の気候変動」シリーズでは概要版や解説動画のほか都道府県ごとのリーフレットも用意していますが、よりよい解説や補足情報として、どのようなものがあるとよいと思いますか。あてはまるものを全て選んでください。



全体では、「専門家による(解説)動画」が58.8%で最も高く、次いで「環境教育で使えるような解説」が39.1%、「世界の気候変動の情報」が28.6%となっている。

II. 調査結果

		n	動 画 専 門 家 に よ る (解 説)	な 環 境 教 育 で 使 え る よ う な 解 説	世 界 の 気 候 変 動 の 情 報	る (解 説) 動 画	そ の 他
全体		2000 100.0	1176 58.8	782 39.1	572 28.6	184 9.2	21 1.1
性別	男性	991 100.0	576 58.1	386 39.0	284 28.7	95 9.6	14 1.4
	女性	1009 100.0	600 59.5	396 39.2	288 28.5	89 8.8	7 0.7
年代	20代	264 100.0	139 52.7	108 40.9	67 25.4	45 17.0	0 0.0
	30代	292 100.0	157 53.8	125 42.8	85 29.1	45 15.4	3 1.0
	40代	396 100.0	224 56.6	163 41.2	116 29.3	39 9.8	6 1.5
	50代	357 100.0	216 60.5	135 37.8	106 29.7	18 5.0	2 0.6
	60~79歳	691 100.0	440 63.7	251 36.3	198 28.7	37 5.4	10 1.4
地域別	北海道	85 100.0	45 52.9	35 41.2	23 27.1	8 9.4	1 1.2
	東北	140 100.0	84 60.0	56 40.0	44 31.4	9 6.4	1 0.7
	関東甲信	742 100.0	418 56.3	299 40.3	219 29.5	70 9.4	8 1.1
	東海	237 100.0	139 58.6	100 42.2	67 28.3	21 8.9	2 0.8
	北陸	81 100.0	50 61.7	34 42.0	26 32.1	7 8.6	3 3.7
	近畿	322 100.0	200 62.1	124 38.5	81 25.2	27 8.4	0 0.0
	中国	96 100.0	51 53.1	33 34.4	27 28.1	13 13.5	3 3.1
	四国	58 100.0	37 63.8	21 36.2	21 36.2	6 10.3	0 0.0
	九州北部	177 100.0	114 64.4	56 31.6	44 24.9	17 9.6	3 1.7
	九州南部・奄美	40 100.0	26 65.0	18 45.0	9 22.5	4 10.0	0 0.0
	沖縄	22 100.0	12 54.5	6 27.3	11 50.0	2 9.1	0 0.0

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* グレー表記はベースがn=29以下のため参考値

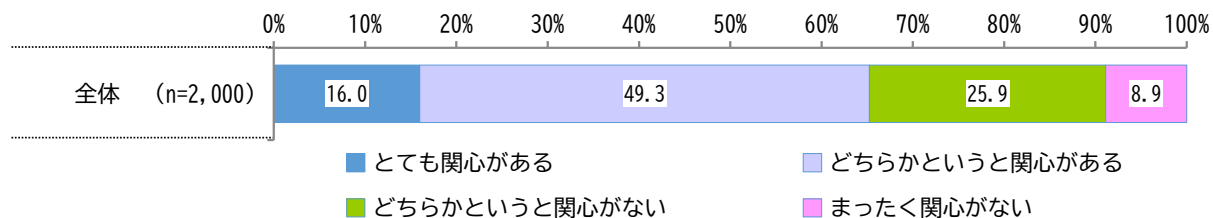
性別にみると、全体と同様の傾向にある。

Ⅱ. 調査結果

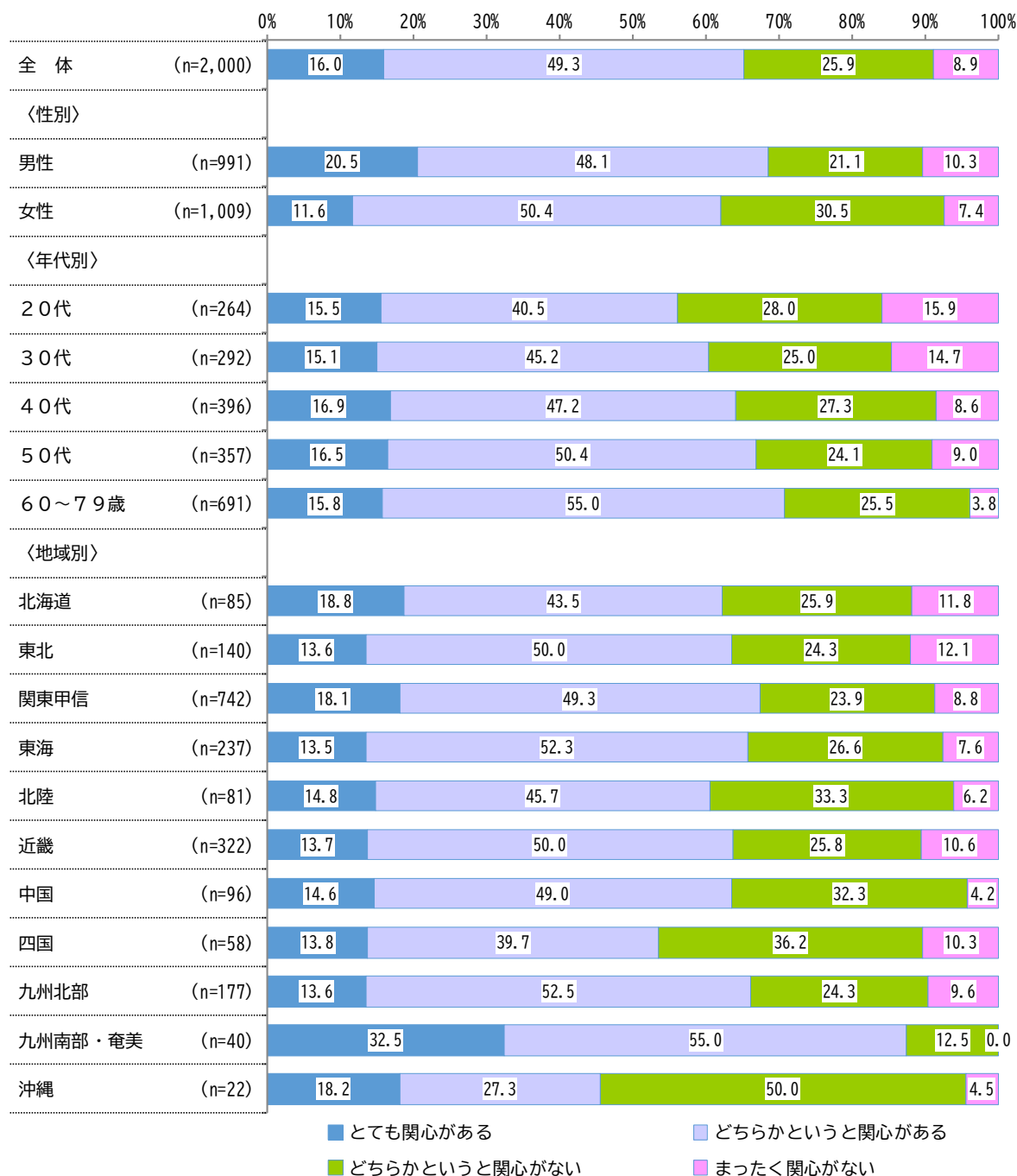
5. 火山について

(1) 火山への関心度

問17-1. 我が国には111の活火山があります。火山の噴火で私たちの生活に大きな影響がある一方で、地熱発電や肥沃な土壌による農業振興、観光資源等の「恵み」も数多くあります。あなたは火山に関心はありますか。あてはまるものを1つ選んでください。



全体では、「とても関心がある」と「どちらかというに関心がある」の合計が65.3%となっている。



性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別にみると、「とても関心がある」と「どちらかというに関心がある」の合計は、概ね年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられる。

地域別にみると、「とても関心がある」と「どちらかというに関心がある」の合計は、九州南部・奄美(87.5%)で高くなっている。

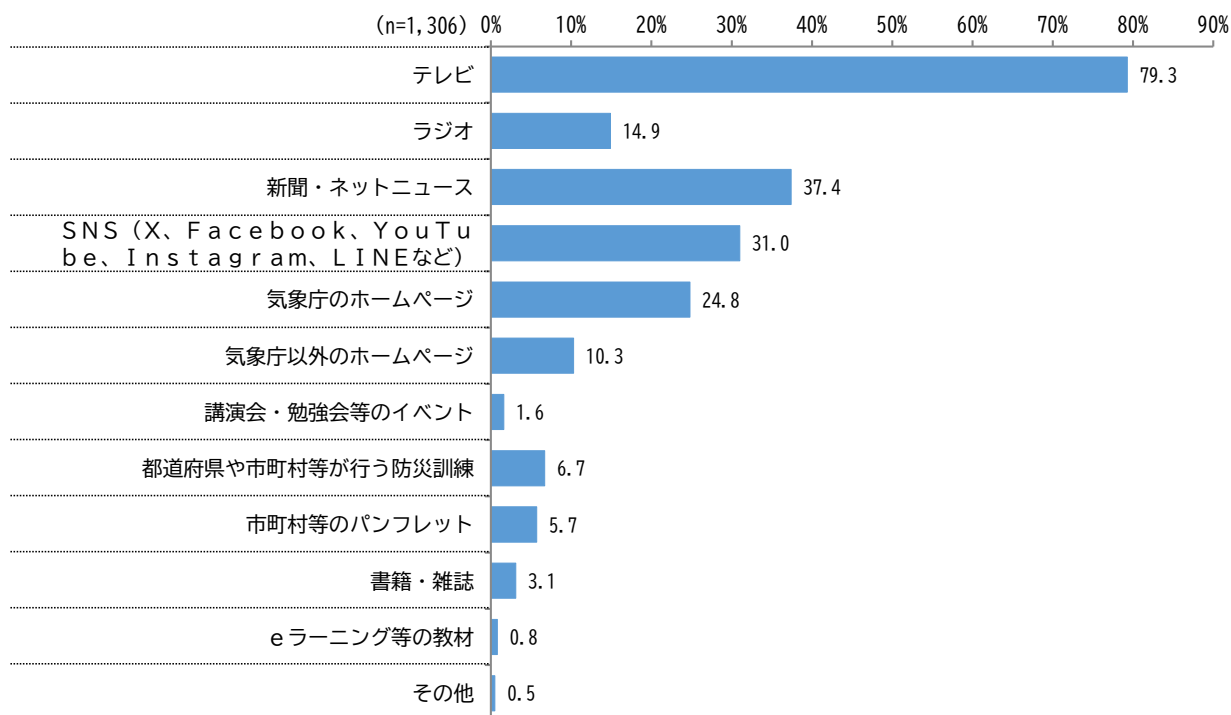
II. 調査結果

(2)火山の情報を入手する媒体

問17-2. 火山に関する知識を得たり、情報を入手したりする場合、どこから入手していますか(または、どこから入手することを希望しますか)。あてはまるものを全て選んでください。

n=1,306

ベース：火山に関心がある方



全体では、「テレビ」が 79.3%で最も高く、次いで「新聞・ネットニュース」が 37.4%、「SNS(X、Facebook、YouTube、Instagram、LINE など)」が 31.0%となっている。

II. 調査結果

		n	テレビ	ラジオ	新聞・ネットニュース	SNS(X、Facebook、YouTube、Instagram、LINEなど)	気象庁のホームページ	気象庁以外のホームページ	講演会・勉強会等のイベント	都道府県や市町村等が行う防災訓練	市町村等のパンフレット	書籍・雑誌	eラーニング等の教材	その他
全体		1306	1036	194	489	405	324	134	21	88	75	40	10	6
		100.0	79.3	14.9	37.4	31.0	24.8	10.3	1.6	6.7	5.7	3.1	0.8	0.5
性別	男性	680	535	123	267	216	201	90	12	44	37	26	9	1
	女性	626	501	71	222	189	123	44	9	44	38	14	1	5
		100.0	80.0	11.3	35.5	30.2	19.6	7.0	1.4	7.0	6.1	2.2	0.2	0.8
年代	20代	148	92	15	28	78	28	13	6	12	8	3	2	0
		100.0	62.2	10.1	18.9	52.7	18.9	8.8	4.1	8.1	5.4	2.0	1.4	0.0
	30代	176	118	18	41	81	34	18	3	6	11	7	4	1
		100.0	67.0	10.2	23.3	46.0	19.3	10.2	1.7	3.4	6.3	4.0	2.3	0.6
	40代	254	188	35	82	80	64	32	5	17	17	11	3	1
		100.0	74.0	13.8	32.3	31.5	25.2	12.6	2.0	6.7	6.7	4.3	1.2	0.4
50代	239	187	39	84	68	67	28	2	14	3	6	0	0	
	100.0	78.2	16.3	35.1	28.5	28.0	11.7	0.8	5.9	1.3	2.5	0.0	0.0	
60～79歳	489	451	87	254	98	131	43	5	39	36	13	1	4	
	100.0	92.2	17.8	51.9	20.0	26.8	8.8	1.0	8.0	7.4	2.7	0.2	0.8	
地域別	北海道	53	45	15	29	11	13	4	2	3	6	1	0	0
		100.0	84.9	28.3	54.7	20.8	24.5	7.5	3.8	5.7	11.3	1.9	0.0	0.0
	東北	89	78	23	39	23	19	12	0	6	9	3	0	0
		100.0	87.6	25.8	43.8	25.8	21.3	13.5	0.0	6.7	10.1	3.4	0.0	0.0
	関東甲信	500	385	63	178	167	118	55	9	31	27	12	5	3
		100.0	77.0	12.6	35.6	33.4	23.6	11.0	1.8	6.2	5.4	2.4	1.0	0.6
	東海	156	127	23	65	48	49	16	4	18	10	4	1	0
		100.0	81.4	14.7	41.7	30.8	31.4	10.3	2.6	11.5	6.4	2.6	0.6	0.0
	北陸	49	39	12	24	22	14	5	0	6	3	1	0	0
		100.0	79.6	24.5	49.0	44.9	28.6	10.2	0.0	12.2	6.1	2.0	0.0	0.0
	近畿	205	152	24	58	58	56	23	4	11	6	8	2	2
		100.0	74.1	11.7	28.3	28.3	27.3	11.2	2.0	5.4	2.9	3.9	1.0	1.0
	中国	61	50	8	24	17	16	6	0	1	2	4	0	0
		100.0	82.0	13.1	39.3	27.9	26.2	9.8	0.0	1.6	3.3	6.6	0.0	0.0
四国	31	29	3	11	10	8	2	1	2	2	2	0	0	
	100.0	93.5	9.7	35.5	32.3	25.8	6.5	3.2	6.5	6.5	6.5	0.0	0.0	
九州北部	117	97	11	45	32	23	7	0	6	7	3	1	1	
	100.0	82.9	9.4	38.5	27.4	19.7	6.0	0.0	5.1	6.0	2.6	0.9	0.9	
九州南部・奄美	35	29	8	13	13	6	2	1	4	3	1	1	0	
	100.0	82.9	22.9	37.1	37.1	17.1	5.7	2.9	11.4	8.6	2.9	2.9	0.0	
沖縄	10	5	4	3	4	2	2	0	0	0	1	0	0	
	100.0	50.0	40.0	30.0	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* グレー表記はベースがn=29以下のため参考値

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別にみると、20代、30代で「SNS(X、Facebook、YouTube、Instagram、LINEなど)」それぞれ52.7%、46.0%と高くなっている。60～79歳で「テレビ」が92.2%と最も高く、次いで「新聞・ネットニュース」が51.9%と高くなっている。

地域別にみると、「テレビ」は四国(93.5%)で高くなっている。「ラジオ」は北海道(28.3%)、東北(25.8%)で高くなっている。「新聞・ネットニュース」は北海道(54.7%)、北陸(49.0%)で高くなっている。「SNS(X、Facebook、YouTube、Instagram、LINEなど)」は北陸(44.9%)で高くなっている。

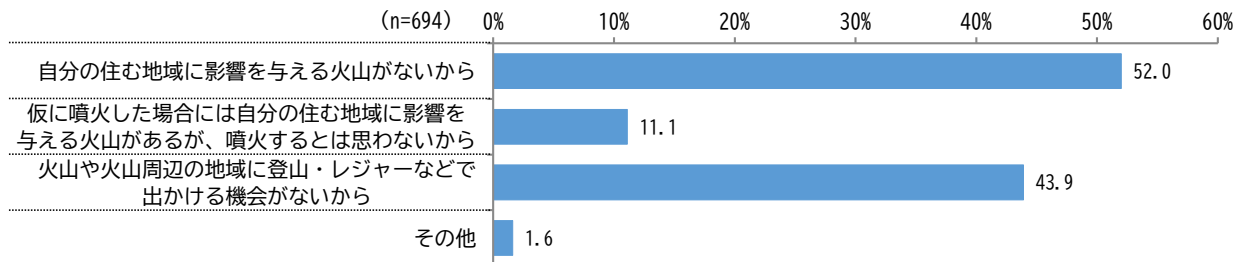
Ⅱ. 調査結果

(3)火山に関心がない理由

問17-3. 火山に関心のない理由を全て選んでください。

n=694

ベース：火山に関心がない方



全体では、「自分の住む地域に影響を与える火山がないから」が 52.0%で最も高く、次いで「火山や火山周辺の地域に登山・レジャーなどで出かける機会がないから」が 43.9%、「仮に噴火した場合には自分の住む地域に影響を与える火山があるが、噴火するとは思わないから」が 11.1%となっている。

Ⅱ. 調査結果

		n	ないから 自分の住む 地域に影 響を与え る火山が	るとは思 わなない から火山 があるが 、噴火す	仮に噴火 した場合 には自分 の住む地 域	火山や火 山周辺の 地域に登 山・レ	その他
全体		694 100.0	361 52.0	77 11.1	305 43.9	11 1.6	
性別	男性	311 100.0	148 47.6	36 11.6	144 46.3	6 1.9	
	女性	383 100.0	213 55.6	41 10.7	161 42.0	5 1.3	
年代	20代	116 100.0	53 45.7	18 15.5	51 44.0	2 1.7	
	30代	116 100.0	48 41.4	12 10.3	65 56.0	2 1.7	
	40代	142 100.0	74 52.1	13 9.2	61 43.0	2 1.4	
	50代	118 100.0	60 50.8	15 12.7	50 42.4	1 0.8	
	60~79歳	202 100.0	126 62.4	19 9.4	78 38.6	4 2.0	
地域別	北海道	32 100.0	13 40.6	3 9.4	20 62.5	0 0.0	
	東北	51 100.0	26 51.0	12 23.5	16 31.4	0 0.0	
	関東甲信	242 100.0	109 45.0	32 13.2	114 47.1	6 2.5	
	東海	81 100.0	38 46.9	3 3.7	43 53.1	1 1.2	
	北陸	32 100.0	18 56.3	5 15.6	10 31.3	1 3.1	
	近畿	117 100.0	77 65.8	8 6.8	46 39.3	0 0.0	
	中国	35 100.0	22 62.9	2 5.7	13 37.1	1 2.9	
	四国	27 100.0	17 63.0	3 11.1	9 33.3	0 0.0	
	九州北部	60 100.0	29 48.3	7 11.7	30 50.0	2 3.3	
	九州南部・奄美	5 100.0	1 20.0	1 20.0	3 60.0	0 0.0	
	沖縄	12 100.0	11 91.7	1 8.3	1 8.3	0 0.0	

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* グレー表記はベースがn=29以下のため参考値

性別で見ると、全体と同様の傾向にある。

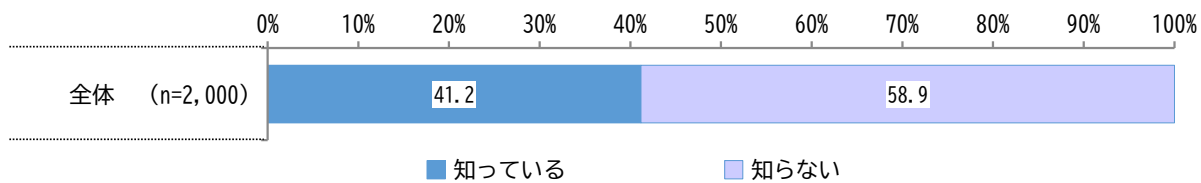
年代別にみると、30代で「火山や火山周辺の地域に登山・レジャーなどで出かける機会がないから」が56.0%、60~79歳で「自分の住む地域に影響を与える火山がないから」が62.4%と高くなっている。

地域別にみると、「自分の住む地域に影響を与える火山がないから」は近畿(65.8%)、中国(62.9%)で高くなっている。「仮に噴火した場合には自分の住む地域に影響を与える火山があるが、噴火するとは思わないから」は東北(23.5%)で高くなっている。「火山や火山周辺の地域に登山・レジャーなどで出かける機会がないから」は北海道(62.5%)で高くなっている。

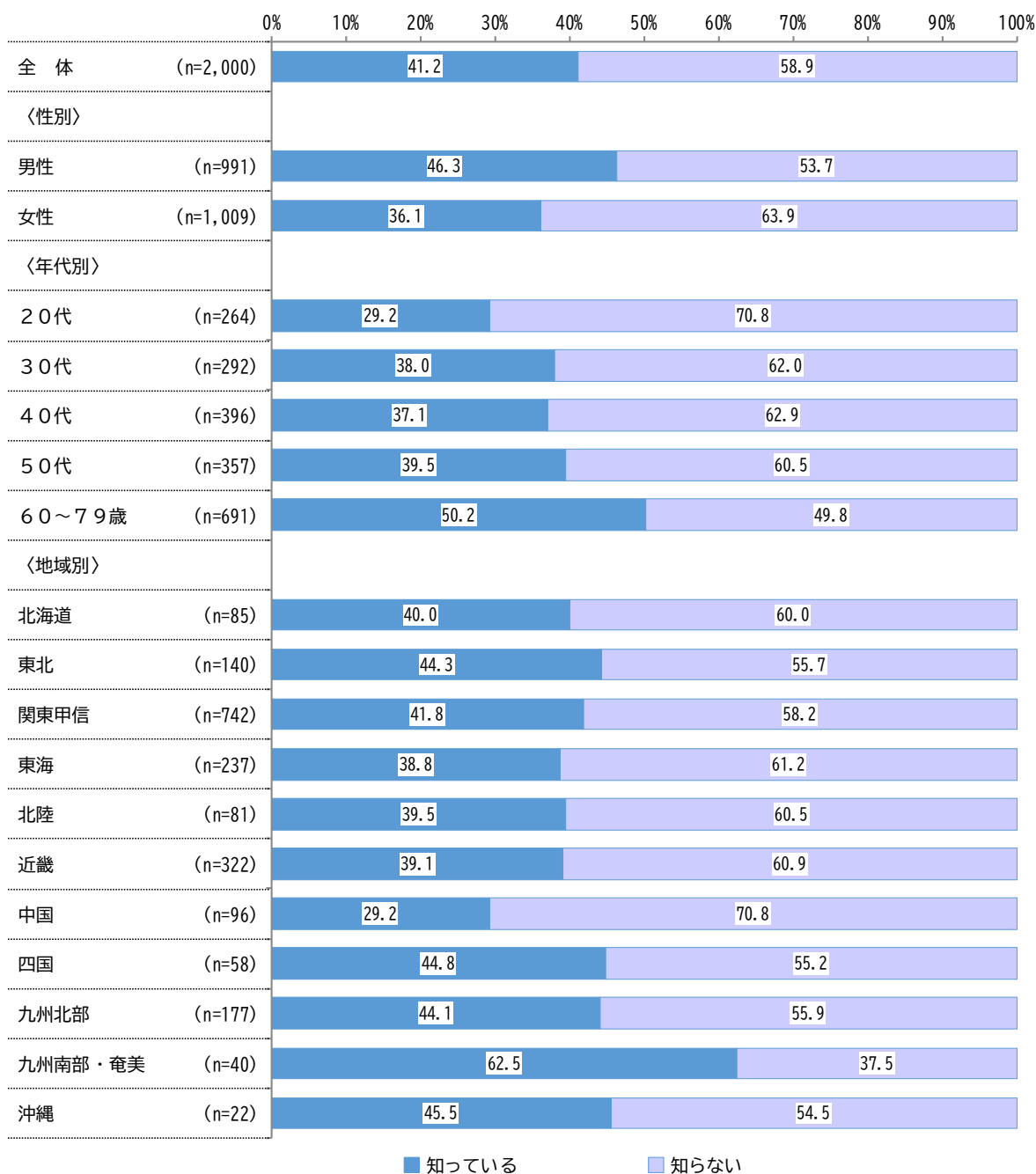
Ⅱ. 調査結果

(4)火山に関する情報の認知度

問18-1. 気象庁では、火山災害から身を守るために火山に関する情報を発表していることを知っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。



全体では、「知らない」が58.9%と、「知っている」の41.2%より高くなっている。



性別にみると、「知っている」は男性が46.3%と高くなっている。

年代別にみると、「知っている」は、概ね年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられ、60~79歳で50.2%と最も高くなっている。

地域別にみると、「知っている」は、九州南部・奄美(62.5%)で高くなっている。

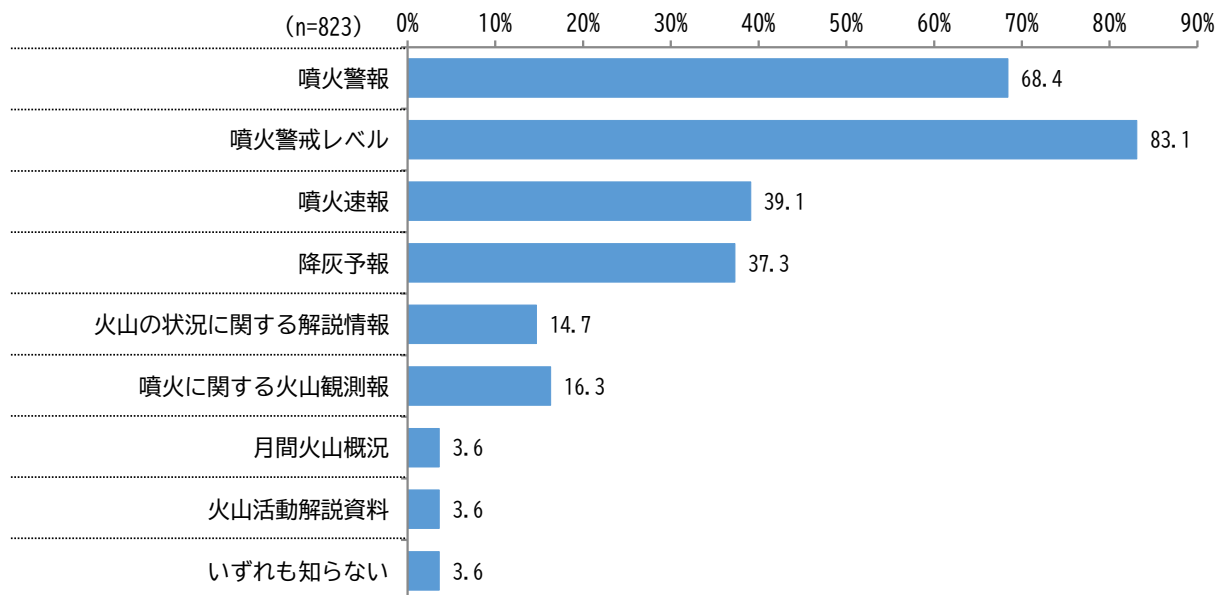
Ⅱ. 調査結果

(5) 認知している火山に関する情報

問18-2. 気象庁が発表する火山に関する情報に関して、知っているものを全て選んでください。

n=823

ベース：火山に関する情報を認知している方



全体では、「噴火警戒レベル」が 83.1%で最も高く、次いで「噴火警報」が 68.4%、「噴火速報」が 39.1%となっている。

II. 調査結果

		n	噴火警報	噴火警戒レベル	噴火速報	降灰予報	火山の状況に関する情報	噴火に関する火山観測報	月間火山概況	火山活動解説資料	いずれも知らない
全体		823 100.0	563 68.4	684 83.1	322 39.1	307 37.3	121 14.7	134 16.3	30 3.6	30 3.6	30 3.6
性別	男性	459 100.0	317 69.1	378 82.4	191 41.6	164 35.7	64 13.9	77 16.8	19 4.1	17 3.7	17 3.7
	女性	364 100.0	246 67.6	306 84.1	131 36.0	143 39.3	57 15.7	57 15.7	11 3.0	13 3.6	13 3.6
年代	20代	77 100.0	39 50.6	55 71.4	31 40.3	28 36.4	13 16.9	11 14.3	6 7.8	6 7.8	3 3.9
	30代	111 100.0	69 62.2	81 73.0	45 40.5	45 40.5	21 18.9	20 18.0	8 7.2	10 9.0	6 5.4
	40代	147 100.0	114 77.6	128 87.1	60 40.8	51 34.7	18 12.2	18 12.2	8 5.4	5 3.4	4 2.7
	50代	141 100.0	95 67.4	115 81.6	52 36.9	48 34.0	17 12.1	21 14.9	3 2.1	3 2.1	9 6.4
	60~79歳	347 100.0	246 70.9	305 87.9	134 38.6	135 38.9	52 15.0	64 18.4	5 1.4	6 1.7	8 2.3
地域別	北海道	34 100.0	26 76.5	29 85.3	13 38.2	7 20.6	6 17.6	9 26.5	0 0.0	0 0.0	1 2.9
	東北	62 100.0	46 74.2	54 87.1	18 29.0	15 24.2	8 12.9	12 19.4	2 3.2	0 0.0	1 1.6
	関東甲信	310 100.0	213 68.7	254 81.9	125 40.3	105 33.9	38 12.3	46 14.8	10 3.2	12 3.9	13 4.2
	東海	92 100.0	56 60.9	77 83.7	33 35.9	28 30.4	14 15.2	13 14.1	6 6.5	5 5.4	6 6.5
	北陸	32 100.0	25 78.1	24 75.0	12 37.5	7 21.9	6 18.8	5 15.6	2 6.3	2 6.3	0 0.0
	近畿	126 100.0	81 64.3	99 78.6	49 38.9	51 40.5	25 19.8	23 18.3	6 4.8	6 4.8	7 5.6
	中国	28 100.0	23 82.1	23 82.1	12 42.9	18 64.3	2 7.1	7 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	四国	26 100.0	11 42.3	22 84.6	8 30.8	9 34.6	3 11.5	4 15.4	1 3.8	2 7.7	1 3.8
	九州北部	78 100.0	55 70.5	70 89.7	31 39.7	40 51.3	10 12.8	7 9.0	1 1.3	1 1.3	1 1.3
	九州南部・奄美	25 100.0	21 84.0	24 96.0	17 68.0	22 88.0	6 24.0	5 20.0	2 8.0	1 4.0	0 0.0
	沖縄	10 100.0	6 60.0	8 80.0	4 40.0	5 50.0	3 30.0	3 30.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* グレー表記はベースがn=29以下のため参考値

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

地域別にみると、「降灰予報」は九州北部(51.3%)で高い。「噴火に関する火山観測報」は北海道(26.5%)で高くなっている。

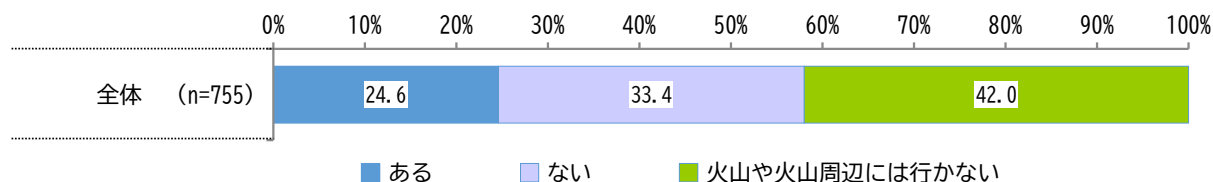
Ⅱ. 調査結果

(6)火山に関する情報が発表されているか確認した経験の有無

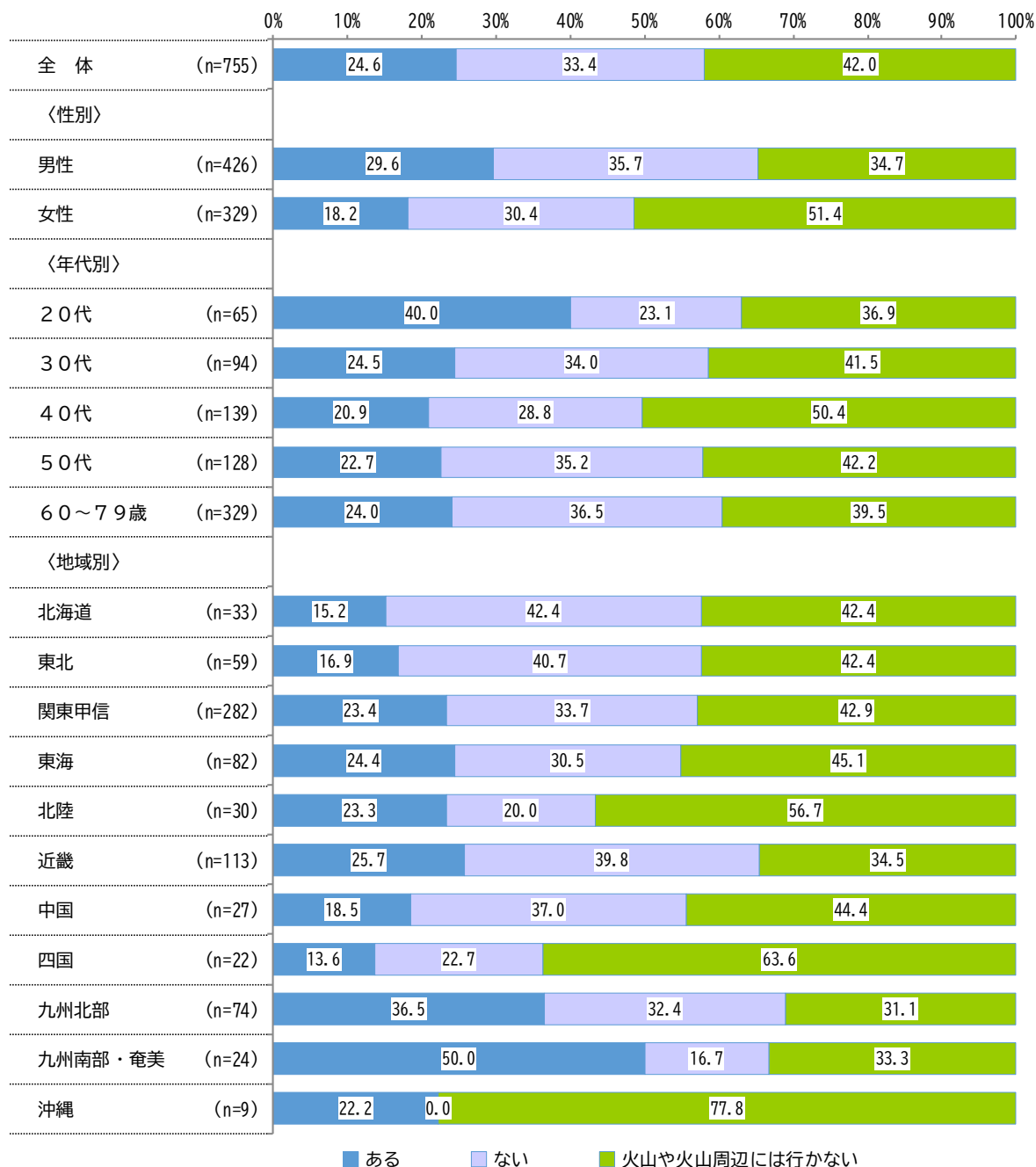
問18-3. 観光や登山などで火山や火山周辺の地域に出かける際に、火山に関する情報が実際に発表されているかどうかを確認したことがありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

n=755

ベース：噴火警報、噴火警戒レベルを認知している方



全体では、「ある」が24.6%、「ない」が33.4%となっている。「火山や火山周辺には行かない」が42.0%と最も高くなっている。



性別にみると、「ある」は男性が29.6%と高くなっている。

年代別にみると、「ある」は、20代が40.0%と高くなっている。

地域別にみると、「ある」は、九州南部・奄美(50.0%)、九州北部(36.5%)で高くなっている。

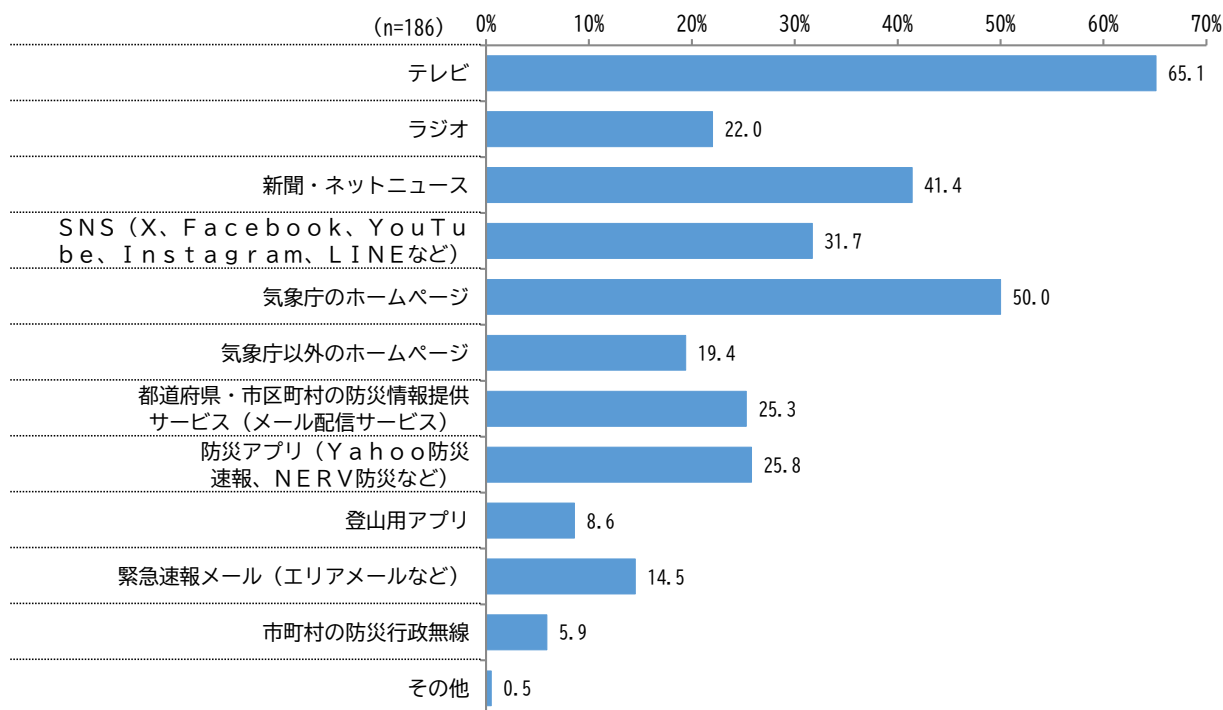
Ⅱ. 調査結果

(7)火山に関する情報(噴火警報・噴火警戒レベル)を入手する媒体

問18-4. 火山に関する情報(噴火警報・噴火警戒レベル)をどこから入手しましたか。あてはまるものを全て選んでください。

n=186

ベース：噴火警報、噴火警戒レベルを認知しており、かつ、火山に関する情報が発表されているか確認した方



全体では、「テレビ」が65.1%で最も高く、次いで「気象庁のホームページ」が50.0%、「新聞・ネットニュース」が41.4%となっている。

II. 調査結果

		n	テレビ	ラジオ	新聞・ネットニュース	LINEなど	SNS(X、Facebook、Instagram、YouTube)	気象庁のホームページ	気象庁以外のホームページ	都道府県・市区町村の防災情報提供サービス(メール配信サービス)	防災アプリ(Yahoo防災速報、NERV防災など)	登山用アプリ	緊急速報メール(エリアメールなど)	市町村の防災行政無線	その他
全体		186 100.0	121 65.1	41 22.0	77 41.4	59 31.7	93 50.0	36 19.4	47 25.3	48 25.8	16 8.6	27 14.5	11 5.9	1 0.5	
性別	男性	126 100.0	86 68.3	30 23.8	54 42.9	42 33.3	57 45.2	25 19.8	27 21.4	32 25.4	8 6.3	18 14.3	7 5.6	1 0.8	
	女性	60 100.0	35 58.3	11 18.3	23 38.3	17 28.3	36 60.0	11 18.3	20 33.3	16 26.7	8 13.3	9 15.0	4 6.7	0 0.0	
年代	20代	26 100.0	14 53.8	7 26.9	10 38.5	9 34.6	7 26.9	8 30.8	7 26.9	8 30.8	3 11.5	4 15.4	1 3.8	0 0.0	
	30代	23 100.0	12 52.2	7 30.4	5 21.7	11 47.8	13 56.5	8 34.8	6 26.1	9 39.1	4 17.4	5 21.7	3 13.0	0 0.0	
	40代	29 100.0	17 58.6	4 13.8	12 41.4	12 41.4	16 55.2	7 24.1	5 17.2	6 20.7	5 17.2	3 10.3	3 10.3	0 0.0	
	50代	29 100.0	21 72.4	7 24.1	7 24.1	11 37.9	19 65.5	4 13.8	8 27.6	9 31.0	0 0.0	4 13.8	0 0.0	0 0.0	
	60~79歳	79 100.0	57 72.2	16 20.3	43 54.4	16 20.3	38 48.1	9 11.4	21 26.6	16 20.3	4 5.1	11 13.9	4 5.1	1 1.3	
	地域別	北海道	5 100.0	4 80.0	1 20.0	4 80.0	1 20.0	3 60.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	東北	10 100.0	6 60.0	3 30.0	4 40.0	2 20.0	4 40.0	2 20.0	3 30.0	1 10.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	
	関東甲信	66 100.0	47 71.2	12 18.2	27 40.9	25 37.9	33 50.0	13 19.7	14 21.2	19 28.8	7 10.6	9 13.6	5 7.6	0 0.0	
	東海	20 100.0	14 70.0	4 20.0	9 45.0	9 45.0	13 65.0	3 15.0	5 25.0	7 35.0	3 15.0	3 15.0	2 10.0	0 0.0	
	北陸	7 100.0	4 57.1	2 28.6	4 57.1	3 42.9	2 28.6	1 14.3	3 42.9	2 28.6	1 14.3	2 28.6	0 0.0	0 0.0	
	近畿	29 100.0	16 55.2	8 27.6	7 24.1	11 37.9	18 62.1	9 31.0	7 24.1	11 37.9	2 6.9	5 17.2	3 10.3	0 0.0	
	中国	5 100.0	3 60.0	2 40.0	3 60.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	
	四国	3 100.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	九州北部	27 100.0	13 48.1	4 14.8	11 40.7	5 18.5	14 51.9	4 14.8	7 25.9	5 18.5	1 3.7	4 14.8	0 0.0	1 3.7	
	九州南部・奄美	12 100.0	11 91.7	3 25.0	7 58.3	1 8.3	3 25.0	2 16.7	3 25.0	2 16.7	0 0.0	1 8.3	1 8.3	0 0.0	
	沖縄	2 100.0	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* グレー表記はベースがn=29以下のため参考値

性別にみると、「気象庁のホームページ」は女性(60.0%)で高くなっている。

年代別にみると、60~79歳で「新聞・ネットニュース」(54.4%)が高くなっている。

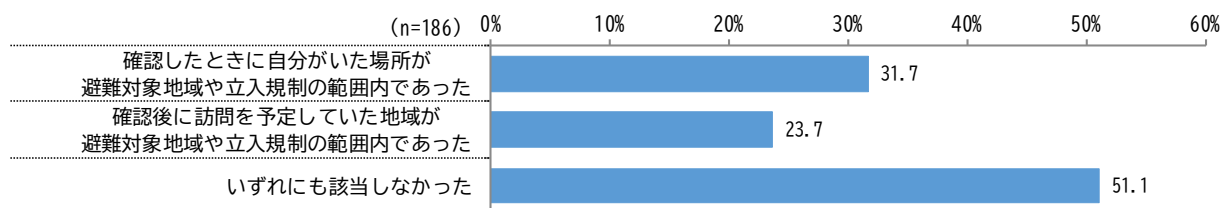
Ⅱ. 調査結果

(8)火山に関する情報で避難対象地域や立入規制の範囲の経験の有無

問18-5. 火山に関する情報では、対象となる火山の避難対象地域や立入規制の範囲をお知らせしています。あなたが観光や登山などで火山や火山周辺の地域に出かける際に確認した火山に関する情報では、以下のような地域が避難対象地域や立入規制の範囲だったことはありますか。あてはまるものを全て選んでください。

n=186

ベース：噴火警報、噴火警戒レベルを認知しており、かつ、火山に関する情報が発表されているか確認した方



全体では、「いずれにも該当しなかった」が 51.1%で最も高く、次いで「確認したときに自分がいた場所が避難対象地域や立入規制の範囲内であった」が 31.7%、「確認後に訪問を予定していた地域が避難対象地域や立入規制の範囲内であった」が 23.7%となっている。

Ⅱ. 調査結果

		n	困難であった対象地域や立入規制の場所	確認されたとき自分が入っていた場所	範囲内であった地域や立入規制の地	確認後に訪問を予定していた地	いずれにも該当しなかった
全体		186 100.0	59 31.7	44 23.7	95 51.1		
性別	男性	126 100.0	43 34.1	32 25.4	59 46.8		
	女性	60 100.0	16 26.7	12 20.0	36 60.0		
年代	20代	26 100.0	17 65.4	6 23.1	7 26.9		
	30代	23 100.0	12 52.2	6 26.1	7 30.4		
	40代	29 100.0	12 41.4	9 31.0	12 41.4		
	50代	29 100.0	6 20.7	4 13.8	19 65.5		
	60～79歳	79 100.0	12 15.2	19 24.1	50 63.3		
地域別	北海道	5 100.0	1 20.0	1 20.0	3 60.0		
	東北	10 100.0	2 20.0	1 10.0	7 70.0		
	関東甲信	66 100.0	25 37.9	14 21.2	33 50.0		
	東海	20 100.0	11 55.0	6 30.0	5 25.0		
	北陸	7 100.0	2 28.6	2 28.6	3 42.9		
	近畿	29 100.0	11 37.9	5 17.2	15 51.7		
	中国	5 100.0	0 0.0	1 20.0	4 80.0		
	四国	3 100.0	0 0.0	0 0.0	3 100.0		
	九州北部	27 100.0	3 11.1	11 40.7	13 48.1		
	九州南部・奄美	12 100.0	3 25.0	2 16.7	9 75.0		
	沖縄	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0		

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* グレー表記はベースがn=29以下のため参考値

年代別にみると、60～79歳で「いずれにも該当しなかった」(63.3%)が高くなっている。

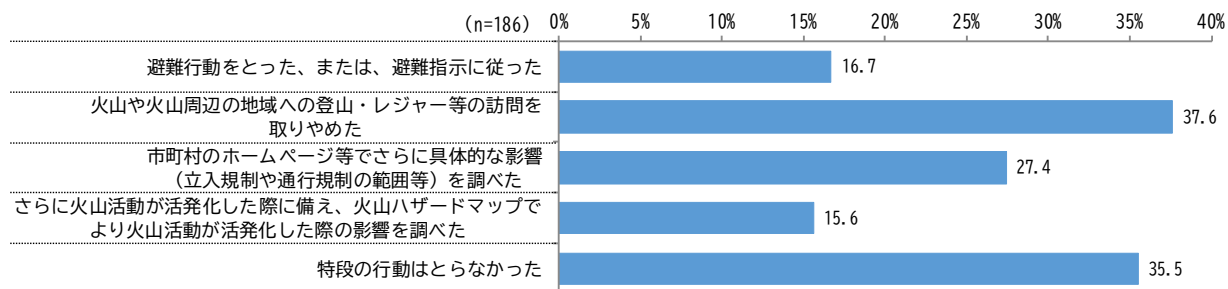
II. 調査結果

(9)火山に関する情報を確認した時の行動

問18-6. 火山に関する情報を確認したときに、どのような行動をとりましたか。複数当てはまる場合は、全て選んでください。

n=186

ベース：噴火警報、噴火警戒レベルを認知しており、かつ、火山に関する情報が発表されているか確認した方



全体では、「火山や火山周辺の地域への登山・レジャー等の訪問を取りやめた」が37.6%で最も高く、次いで「特段の行動はとらなかった」が35.5%、「市町村のホームページ等でさらに具体的な影響(立入規制や通行規制の範囲等)を調べた」が27.4%となっている。

II. 調査結果

		n	に 避 難 行 動 を と つ た	火 山 や 火 山 周 辺 の 地 域 へ の 登 山 ・ レ ジ ャ ー 等 の 訪 問 を 取 り や め た	等 的 な 影 響 （ 立 入 規 制 や 通 行 規 制 の 範 圍 を 調 べ た	動 が 活 発 化 し た 際 の 影 響 を 調 べ た	さ ら に 火 山 活 動 が 活 発 化 し た 際 に 備 え 、 火 山 ハ ザ ー ド マ ツ プ で よ り 火 山 活 動 が 活 発 化 し た 際 に 備 え た	特 段 の 行 動 は と ら な か つ た
全体		186 100.0	31 16.7	70 37.6	51 27.4	29 15.6	66 35.5	
性別	男性	126 100.0	24 19.0	50 39.7	38 30.2	21 16.7	43 34.1	
	女性	60 100.0	7 11.7	20 33.3	13 21.7	8 13.3	23 38.3	
年代	20代	26 100.0	9 34.6	12 46.2	10 38.5	5 19.2	5 19.2	
	30代	23 100.0	8 34.8	9 39.1	8 34.8	7 30.4	7 30.4	
	40代	29 100.0	3 10.3	10 34.5	12 41.4	6 20.7	10 34.5	
	50代	29 100.0	3 10.3	9 31.0	5 17.2	3 10.3	12 41.4	
	60～79歳	79 100.0	8 10.1	30 38.0	16 20.3	8 10.1	32 40.5	
地域別	北海道	5 100.0	0 0.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	2 40.0	
	東北	10 100.0	1 10.0	3 30.0	3 30.0	4 40.0	4 40.0	
	関東甲信	66 100.0	16 24.2	25 37.9	17 25.8	12 18.2	22 33.3	
	東海	20 100.0	6 30.0	9 45.0	10 50.0	4 20.0	4 20.0	
	北陸	7 100.0	1 14.3	1 14.3	2 28.6	2 28.6	2 28.6	
	近畿	29 100.0	5 17.2	11 37.9	8 27.6	4 13.8	13 44.8	
	中国	5 100.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	3 60.0	
	四国	3 100.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	2 66.7	
	九州北部	27 100.0	1 3.7	12 44.4	7 25.9	3 11.1	7 25.9	
	九州南部・奄美	12 100.0	0 0.0	4 33.3	2 16.7	0 0.0	7 58.3	
	沖縄	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* グレー表記はベースがn=29以下のため参考値

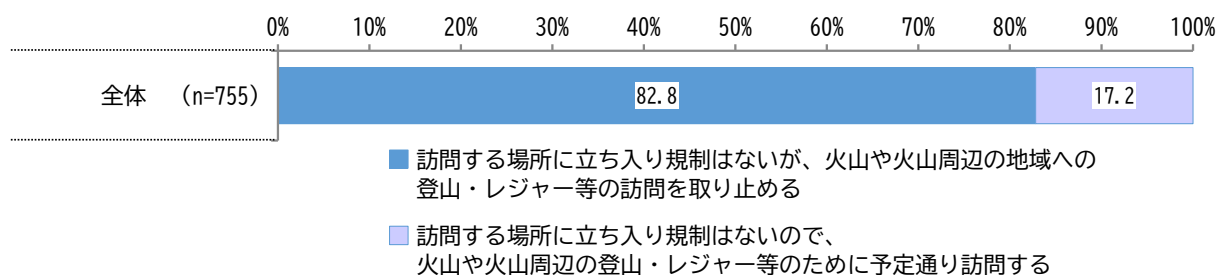
II. 調査結果

(10)火山や火山周辺の地域に訪問予定の際に噴火警戒レベルが引き上げられていた場合の行動

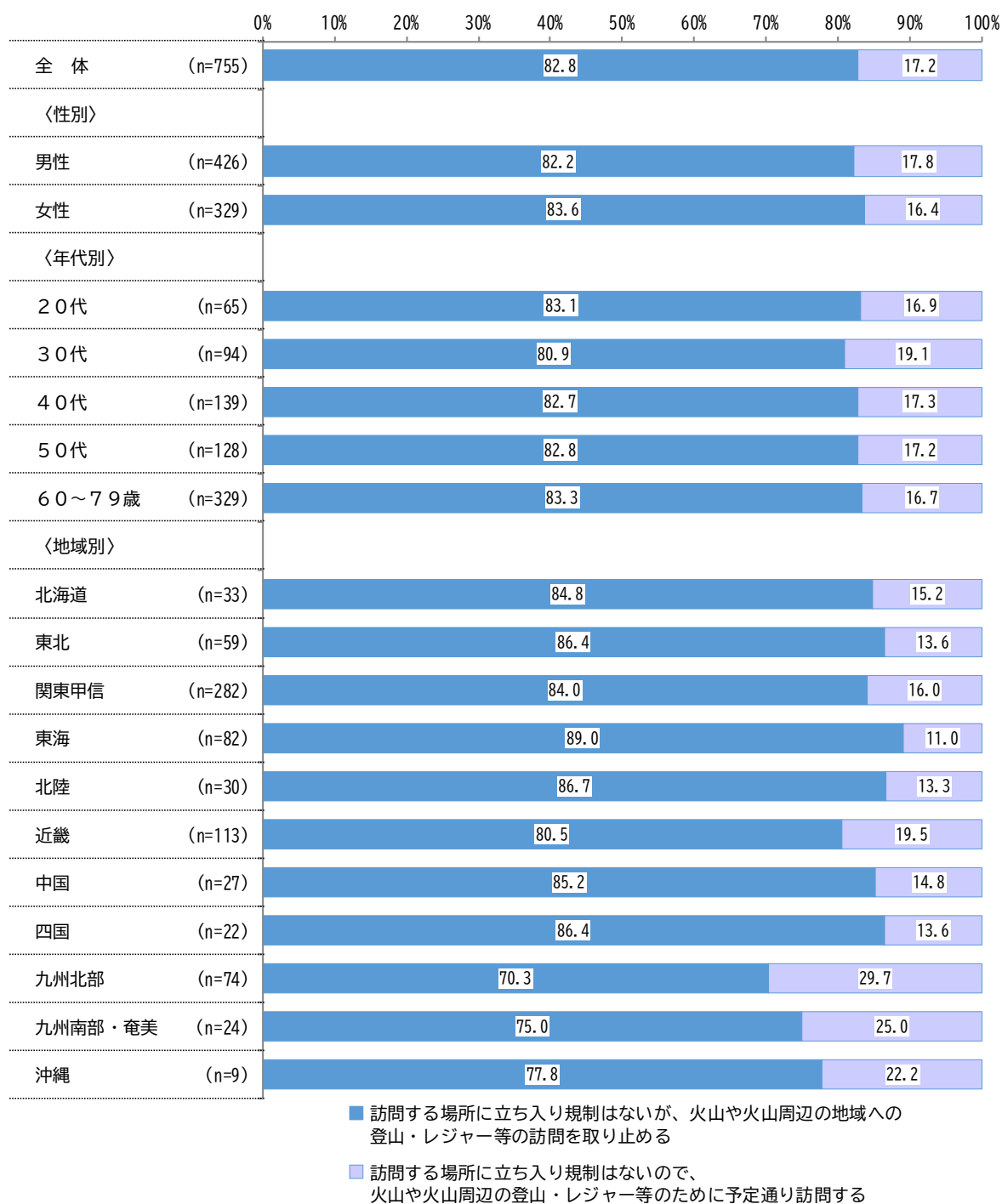
問18-7. 仮に火山や火山周辺の地域に登山・レジャーで訪問する予定があった際に、その地域に噴火警報が発表されたり、噴火警戒レベルが引き上げられたりした場合はどのように行動しますか。ただし、訪問する場所に立入規制はないことが分かっているものとします。あてはまるものを1つ選んでください。

n=755

ベース：噴火警報、噴火警戒レベルを認知している方



全体では、「訪問する場所に立ち入り規制はないが、火山や火山周辺の地域への登山・レジャー等の訪問を取り止める」が 82.8%、「訪問する場所に立ち入り規制はないので、火山や火山周辺の登山・レジャー等のために予定通り訪問する」が 17.2%となっている。



性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別にみると、全体と同様の傾向にある。

地域別にみると、「訪問する場所に立ち入り規制はないが、火山や火山周辺の地域への登山・レジャー等の訪問を取り止める」は東海(89.0%)で高くなっている。

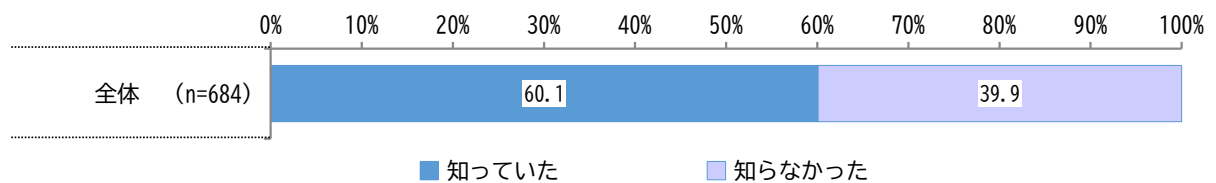
Ⅱ. 調査結果

(11)火山ごとに警戒を呼びかける「噴火警戒レベル」と大雨等の際に避難行動を示す「警戒レベル」の違いの認知度

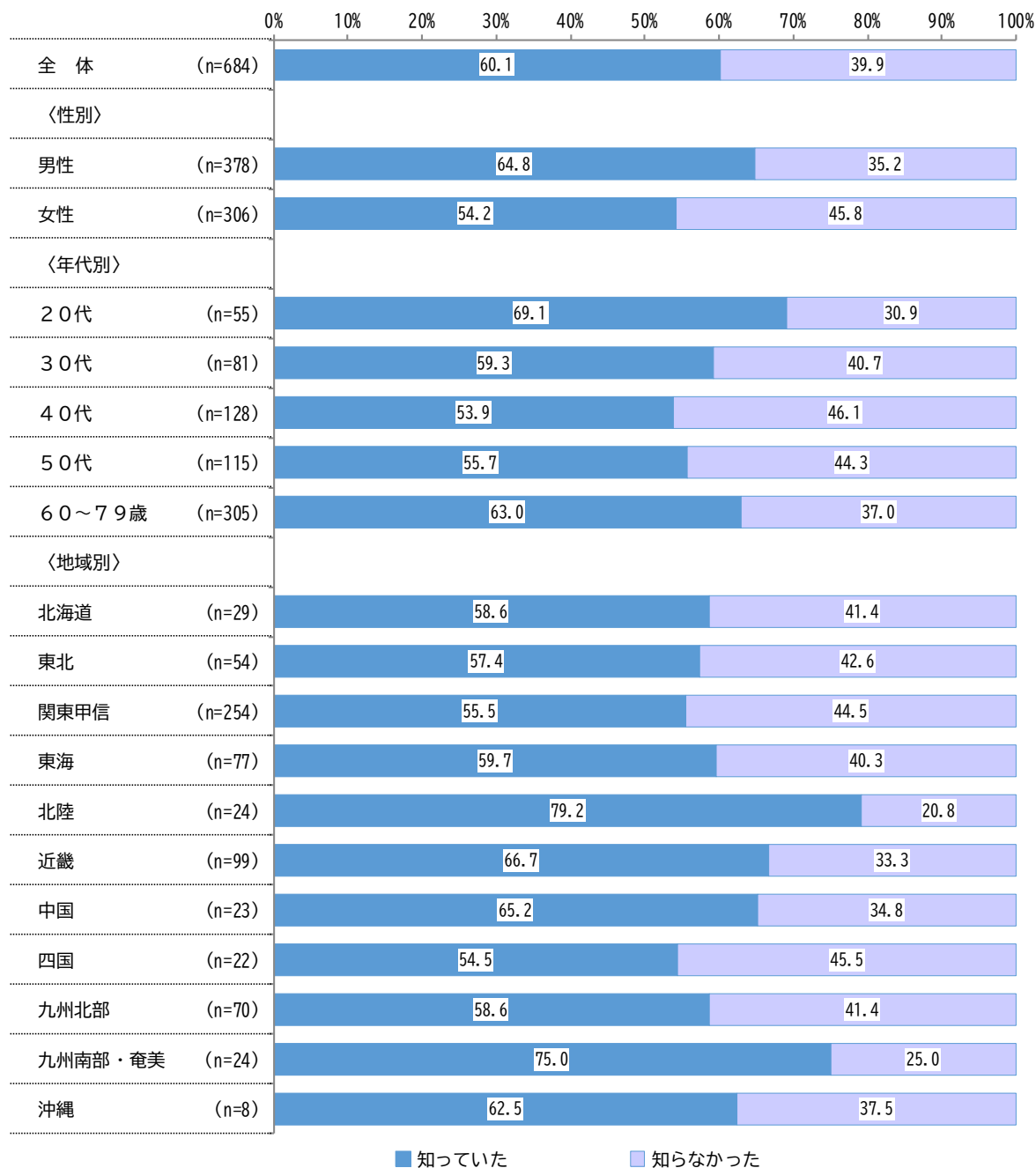
問18-8. 火山ごとに警戒を呼びかける「噴火警戒レベル」と、大雨等の際に避難行動を示す「警戒レベル」とは別物であり、防災行動なども異なることを知っていましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

n=684

ベース：噴火警戒レベルを認知している方



全体では、「知っていた」が60.1%、「知らなかった」が39.9%となっている。



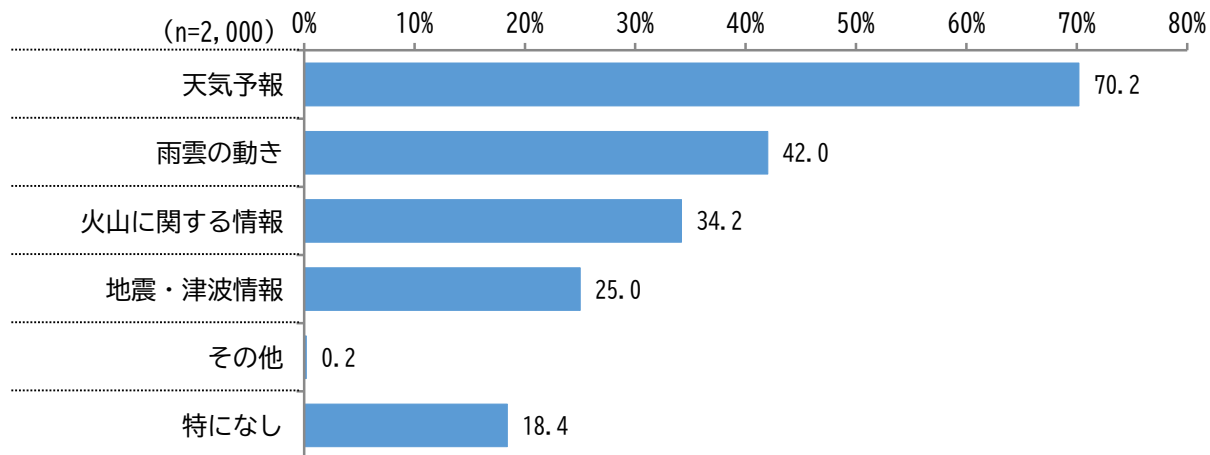
年代別にみると、「知っていた」は20代(69.1%)で高くなっている。

地域別にみると、「知っていた」は北陸・九州南部・奄美、近畿、中国で60%以上と高くなっている。

Ⅱ. 調査結果

(12)火山や火山周辺の地域を訪れる際に利用する情報

問19-1. 観光や登山などで火山や火山周辺の地域に出かける際、気象庁が発表する情報で利用するものはどれですか。あてはまるものを全て選んで下さい。



全体では、「天気予報」が70.2%で最も高く、次いで「雨雲の動き」が42.0%、「火山に関する情報」が34.2%となっている。

		n	天気予報	雨雲の動き	火山に関する情報	地震・津波情報	その他	特になし
全体		2000 100.0	1403 70.2	840 42.0	684 34.2	499 25.0	4 0.2	368 18.4
性別	男性	991 100.0	677 68.3	426 43.0	363 36.6	248 25.0	3 0.3	187 18.9
	女性	1009 100.0	726 72.0	414 41.0	321 31.8	251 24.9	1 0.1	181 17.9
年代	20代	264 100.0	132 50.0	99 37.5	75 28.4	49 18.6	0 0.0	78 29.5
	30代	292 100.0	170 58.2	119 40.8	87 29.8	73 25.0	1 0.3	81 27.7
	40代	396 100.0	265 66.9	157 39.6	129 32.6	102 25.8	1 0.3	89 22.5
	50代	357 100.0	267 74.8	146 40.9	120 33.6	93 26.1	1 0.3	52 14.6
	60～79歳	691 100.0	569 82.3	319 46.2	273 39.5	182 26.3	1 0.1	68 9.8
地域別	北海道	85 100.0	57 67.1	29 34.1	36 42.4	26 30.6	1 1.2	16 18.8
	東北	140 100.0	104 74.3	63 45.0	54 38.6	27 19.3	0 0.0	19 13.6
	関東甲信	742 100.0	520 70.1	319 43.0	218 29.4	184 24.8	0 0.0	150 20.2
	東海	237 100.0	166 70.0	110 46.4	89 37.6	68 28.7	1 0.4	41 17.3
	北陸	81 100.0	59 72.8	38 46.9	29 35.8	28 34.6	0 0.0	14 17.3
	近畿	322 100.0	227 70.5	120 37.3	102 31.7	75 23.3	2 0.6	56 17.4
	中国	96 100.0	57 59.4	38 39.6	35 36.5	24 25.0	0 0.0	26 27.1
	四国	58 100.0	45 77.6	29 50.0	28 48.3	21 36.2	0 0.0	7 12.1
	九州北部	177 100.0	125 70.6	66 37.3	65 36.7	29 16.4	0 0.0	25 14.1
	九州南部・奄美	40 100.0	30 75.0	18 45.0	22 55.0	11 27.5	0 0.0	6 15.0
	沖縄	22 100.0	13 59.1	10 45.5	6 27.3	6 27.3	0 0.0	8 36.4

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* グレー表記はベースがn=29以下のため参考値

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

年代別にみると、20代で「特になし」(29.5%)が高くなっている。60～79歳で「天気予報」(82.3%)が高くなっている。

地域別にみると、「火山に関する情報」は四国(48.3%)、九州南部・奄美(55.0%)で高くなっている。「地震・津波情報」は四国(36.2%)で高くなっている。

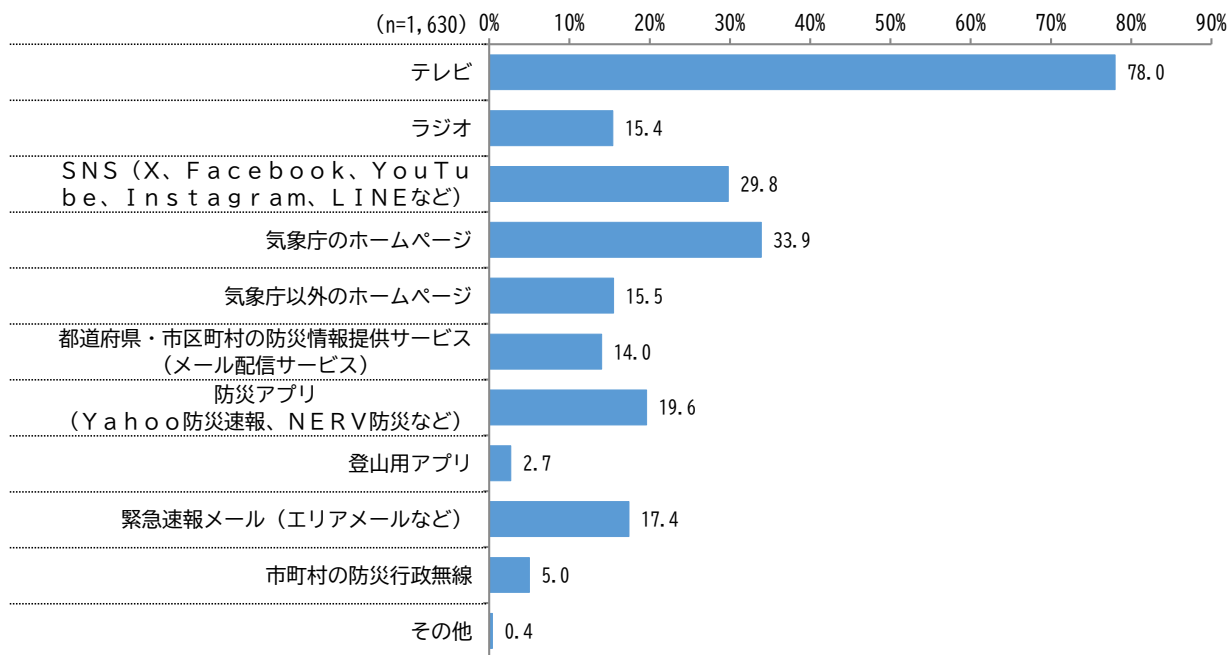
II. 調査結果

(13) 気象庁が発表する情報を入手する媒体

問19-2. 気象庁が発表する情報を利用する場合はどこから入手していますか。あてはまるものを全て選んで下さい。

n=1,630

ベース：火山や火山周辺の地域を訪れる際に気象庁が発表する情報を利用している方



全体では、「テレビ」が78.0%で最も高く、次いで「気象庁のホームページ」が33.9%、「SNS(X、Facebook、YouTube、Instagram、LINEなど)」が29.8%となっている。

II. 調査結果

		n	テレビ	ラジオ	LINEなど	SNS(X、Facebook、YouTube、Instagram、LINEなど)	気象庁のホームページ	気象庁以外のホームページ	都道府県・市区町村の防災情報提供サービス(メール配信サービス)	防災アプリ(Yahoo防災速報、NERV防災など)	登山用アプリ	緊急速報メール(エリアメールなど)	市町村の防災行政無線	その他
全体		1630 100.0	1272 78.0	251 15.4	486 29.8	552 33.9	252 15.5	228 14.0	319 19.6	44 2.7	284 17.4	82 5.0	6 0.4	
性別	男性	802 100.0	600 74.8	151 18.8	248 30.9	297 37.0	148 18.5	102 12.7	158 19.7	26 3.2	126 15.7	39 4.9	3 0.4	
	女性	828 100.0	672 81.2	100 12.1	238 28.7	255 30.8	104 12.6	126 15.2	161 19.4	18 2.2	158 19.1	43 5.2	3 0.4	
年代	20代	186 100.0	101 54.3	17 9.1	91 48.9	62 33.3	29 15.6	18 9.7	29 15.6	7 3.8	17 9.1	3 1.6	1 0.5	
	30代	211 100.0	140 66.4	31 14.7	92 43.6	71 33.6	23 10.9	27 12.8	29 13.7	9 4.3	29 13.7	14 6.6	0 0.0	
	40代	306 100.0	233 76.1	43 14.1	93 30.4	95 31.0	63 20.6	45 14.7	65 21.2	13 4.2	49 16.0	13 4.2	2 0.7	
	50代	305 100.0	244 80.0	54 17.7	84 27.5	95 31.1	48 15.7	37 12.1	63 20.7	3 1.0	56 18.4	11 3.6	0 0.0	
	60~79歳	622 100.0	554 89.1	106 17.0	126 20.3	229 36.8	89 14.3	101 16.2	133 21.4	12 1.9	133 21.4	41 6.6	3 0.5	
地域別	北海道	68 100.0	57 83.8	17 25.0	16 23.5	23 33.8	6 8.8	10 14.7	9 13.2	2 2.9	12 17.6	4 5.9	0 0.0	
	東北	121 100.0	100 82.6	25 20.7	28 23.1	32 26.4	18 14.9	15 12.4	29 24.0	3 2.5	29 24.0	6 5.0	0 0.0	
	関東甲信	592 100.0	456 77.0	84 14.2	185 31.3	198 33.4	103 17.4	76 12.8	111 18.8	15 2.5	98 16.6	37 6.3	1 0.2	
	東海	196 100.0	147 75.0	34 17.3	69 35.2	68 34.7	32 16.3	27 13.8	45 23.0	8 4.1	38 19.4	15 7.7	0 0.0	
	北陸	67 100.0	51 76.1	12 17.9	22 32.8	25 37.3	8 11.9	14 20.9	15 22.4	3 4.5	17 25.4	4 6.0	0 0.0	
	近畿	265 100.0	206 77.7	32 12.1	77 29.1	96 36.2	38 14.3	40 15.1	48 18.1	7 2.6	38 14.3	7 2.6	1 0.4	
	中国	70 100.0	56 80.0	9 12.9	20 28.6	18 25.7	8 11.4	6 8.6	16 22.9	2 2.9	12 17.1	3 4.3	1 1.4	
	四国	51 100.0	42 82.4	6 11.8	17 33.3	21 41.2	11 21.6	7 13.7	9 17.6	1 2.0	9 17.6	1 2.0	0 0.0	
	九州北部	152 100.0	118 77.6	17 11.2	36 23.7	50 32.9	18 11.8	25 16.4	29 19.1	2 1.3	25 16.4	3 2.0	3 2.0	
	九州南部・奄美	34 100.0	29 85.3	6 17.6	11 32.4	16 47.1	7 20.6	7 20.6	6 17.6	1 2.9	4 11.8	1 2.9	0 0.0	
	沖縄	14 100.0	10 71.4	9 64.3	5 35.7	5 35.7	3 21.4	1 7.1	2 14.3	0 0.0	2 14.3	1 7.1	0 0.0	

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* グレー表記はベースがn=29以下のため参考値

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

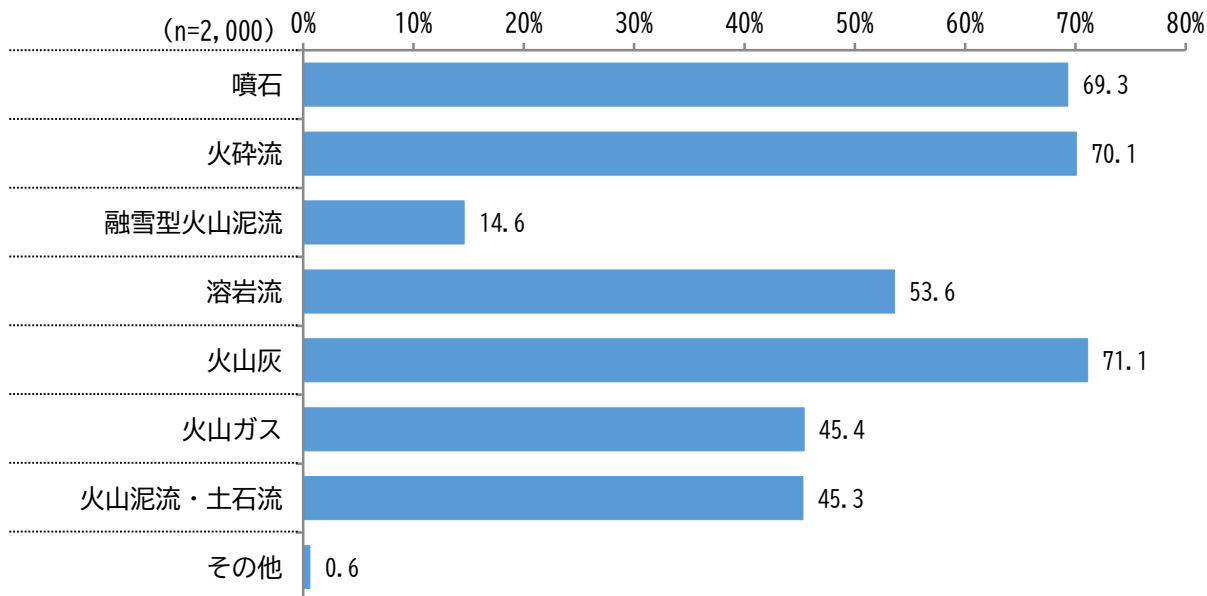
年代別にみると、20代及び30代で「SNS(X、Facebook、YouTube、Instagram、LINEなど)」がそれぞれ48.9%、43.6%と高くなっている。60~79歳で「テレビ」が89.1%と高くなっている。

地域別にみると、「気象庁のホームページ」は九州南部・奄美(47.1%)で高くなっている。

Ⅱ. 調査結果

(14)大きな災害を引き起こす噴火に伴う現象の認知度

問20. 大きな災害を引き起こす噴火に伴う現象をご存じですか。知っているものを全て選んで下さい。



全体では、「火山灰」が71.1%で最も高く、次いで「火砕流」が70.1%、「噴石」が69.3%となっている。

II. 調査結果

		n	噴石	火砕流	融雪型火山泥流	溶岩流	火山灰	火山ガス	火山泥流・土石流	その他
全体		2000 100.0	1385 69.3	1401 70.1	291 14.6	1072 53.6	1421 71.1	908 45.4	906 45.3	11 0.6
性別	男性	991 100.0	691 69.7	740 74.7	166 16.8	521 52.6	690 69.6	464 46.8	459 46.3	5 0.5
	女性	1009 100.0	694 68.8	661 65.5	125 12.4	551 54.6	731 72.4	444 44.0	447 44.3	6 0.6
年代	20代	264 100.0	156 59.1	117 44.3	25 9.5	98 37.1	164 62.1	105 39.8	62 23.5	0 0.0
	30代	292 100.0	191 65.4	144 49.3	41 14.0	125 42.8	183 62.7	131 44.9	93 31.8	2 0.7
	40代	396 100.0	268 67.7	263 66.4	43 10.9	180 45.5	275 69.4	162 40.9	158 39.9	4 1.0
	50代	357 100.0	242 67.8	272 76.2	50 14.0	184 51.5	254 71.1	160 44.8	176 49.3	2 0.6
	60～79歳	691 100.0	528 76.4	605 87.6	132 19.1	485 70.2	545 78.9	350 50.7	417 60.3	3 0.4
地域別	北海道	85 100.0	60 70.6	60 70.6	17 20.0	55 64.7	67 78.8	45 52.9	49 57.6	1 1.2
	東北	140 100.0	98 70.0	105 75.0	30 21.4	76 54.3	103 73.6	70 50.0	70 50.0	0 0.0
	関東甲信	742 100.0	517 69.7	497 67.0	101 13.6	394 53.1	522 70.4	320 43.1	329 44.3	3 0.4
	東海	237 100.0	173 73.0	165 69.6	35 14.8	131 55.3	164 69.2	115 48.5	100 42.2	0 0.0
	北陸	81 100.0	58 71.6	62 76.5	12 14.8	47 58.0	59 72.8	34 42.0	33 40.7	0 0.0
	近畿	322 100.0	207 64.3	227 70.5	40 12.4	156 48.4	218 67.7	135 41.9	138 42.9	3 0.9
	中国	96 100.0	67 69.8	66 68.8	16 16.7	59 61.5	69 71.9	44 45.8	50 52.1	1 1.0
	四国	58 100.0	43 74.1	41 70.7	7 12.1	37 63.8	44 75.9	30 51.7	26 44.8	0 0.0
	九州北部	177 100.0	115 65.0	130 73.4	23 13.0	83 46.9	125 70.6	78 44.1	78 44.1	3 1.7
	九州南部・奄美	40 100.0	33 82.5	31 77.5	7 17.5	22 55.0	33 82.5	25 62.5	19 47.5	0 0.0
	沖縄	22 100.0	14 63.6	17 77.3	3 13.6	12 54.5	17 77.3	12 54.5	14 63.6	0 0.0

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* グレー表記はベースがn=29以下のため参考値

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

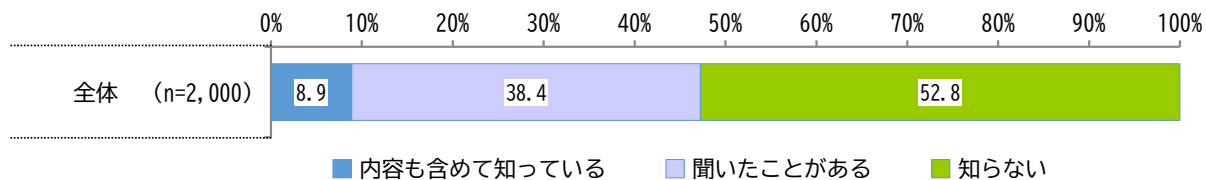
年代別にみると、60～79歳で「火砕流」など、複数の現象について高くなっている。

地域別にみると、「噴石」は九州南部・奄美(82.5%)で高くなっている。「溶岩流」は北海道(64.7%)、四国(63.8%)で高くなっている。「火山灰」及び「火山ガス」は九州南部・奄美でそれぞれ82.5%、62.5%と高くなっている。「火山泥流・土石流」は北海道(57.6%)で高くなっている。

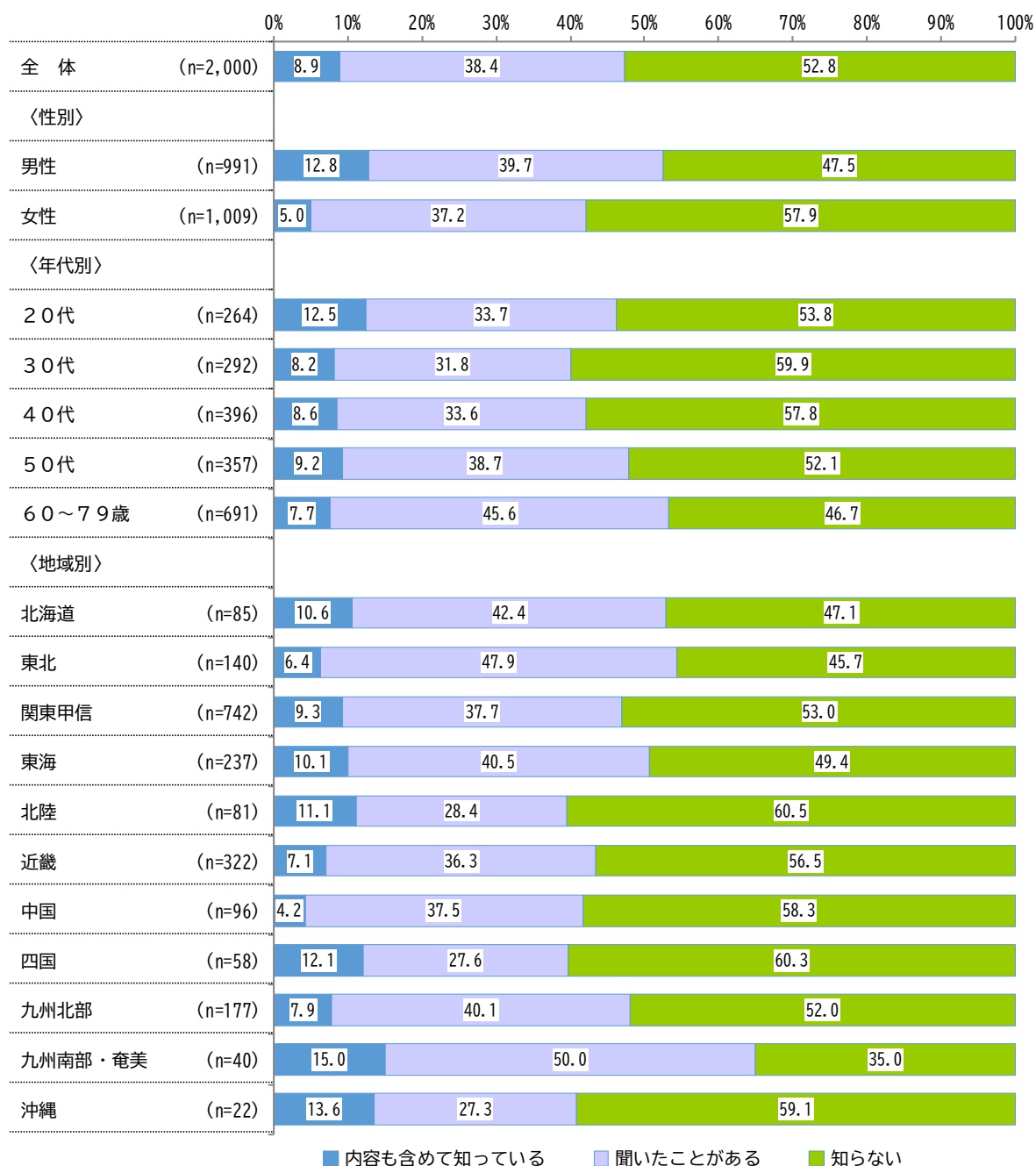
Ⅱ. 調査結果

(15) 「火山ハザードマップ」の認知度

問21. それぞれの火山毎に、危険な火山現象の影響が及ぶおそれのある範囲を地図上に明示した「火山ハザードマップ」というものがあります。ご存じですか。あてはまるものを一つ選んでください。



全体では、「知らない」が52.8%と最も高い。「内容も含めて知っている」が8.9%、「聞いたことがある」が38.4%となっている。



性別にみると、全体と同様の傾向にある。

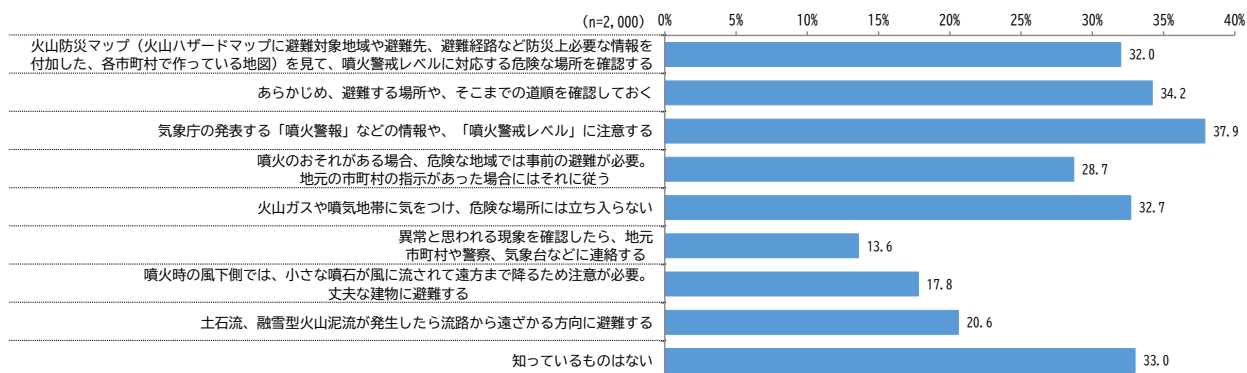
年代別にみると、「内容も含めて知っている」と「聞いたことがある」の合計は、概ね年代が上がるにつれて高くなる傾向がみられ、60~79歳で53.3%となっている。

地域別にみると、「内容も含めて知っている」と「聞いたことがある」の合計は、九州南部・奄美(65.0%)、東北(54.3%)、北海道(53.0%)で高くなっている。

II. 調査結果

(16)火山防災として認知している心得

問22. 火山防災として心得ておくべきことで知っているものを全て選んでください。



全体では、「気象庁の発表する「噴火警報」などの情報や、「噴火警戒レベル」に注意する」が37.9%で最も高く、次いで「あらかじめ、避難する場所や、そこまでの道順を確認しておく」が34.2%、「知っているものはない」が33.0%となっている。

II. 調査結果

		な 場 所 を 確 認 す る	図 を 見 て、 噴 火 警 戒 レ ベ ル に 対 応 す る 危 険 地 域	火 山 防 災 マ ッ プ へ 火 山 ハ ザ ー ド マ ッ プ に 遊 難 先 を 付 加 し た、 各 市 町 村 で 作 つ て い る 危 険 地 域	あ ら か じ め、 遊 難 す る 場 所 や、 そ こ ま で の 道 順 を 確 認 し て お く	気 象 庁 の 発 表 す る 「 噴 火 警 報 」 な ど の 情 報 や、 「 噴 火 警 戒 レ ベ ル 」 に 注 意 す る	噴 火 の お お そ れ が あ る 場 合、 危 険 な 地 域 で あ る 場 合 に は そ れ に 従 う	火 山 ガ ス や 噴 気 地 帯 に 気 を つ け、 危 険 な 場 所 に は 立 ち 入 ら な い	異 常 と 思 わ れ る 現 象 を 確 認 し た ら、 地 元 市 町 村 や 警 察、 気 象 台 な ど に 連 絡 す る	噴 火 時 の 風 下 側 で は、 小 さ な 噴 石 が 風 に 流 さ れ て 遠 方 ま で 降 る た め 注 意 が 必 要。 丈 夫 な 建 物 に 遊 難 す る	土 石 流、 融 雪 型 火 山 泥 流 が 発 生 し た ら 流 路 か ら 遠 ざ か る 方 向 に 遊 難 す る	知 つ て い る も の は な い
	n											
全体	2000 100.0	640 32.0	683 34.2	758 37.9	573 28.7	653 32.7	271 13.6	355 17.8	412 20.6	659 33.0		
性別	男性	991 100.0	345 34.8	360 36.3	389 39.3	283 28.6	318 32.1	129 13.0	169 17.1	193 19.5	301 30.4	
	女性	1009 100.0	295 29.2	323 32.0	369 36.6	290 28.7	335 33.2	142 14.1	186 18.4	219 21.7	358 35.5	
年代	20代	264 100.0	70 26.5	82 31.1	73 27.7	49 18.6	61 23.1	26 9.8	34 12.9	30 11.4	111 42.0	
	30代	292 100.0	78 26.7	91 31.2	83 28.4	68 23.3	77 26.4	30 10.3	43 14.7	39 13.4	124 42.5	
	40代	396 100.0	121 30.6	128 32.3	131 33.1	103 26.0	102 25.8	50 12.6	64 16.2	78 19.7	147 37.1	
	50代	357 100.0	120 33.6	116 32.5	134 37.5	97 27.2	106 29.7	45 12.6	50 14.0	67 18.8	110 30.8	
	60～79歳	691 100.0	251 36.3	266 38.5	337 48.8	256 37.0	307 44.4	120 17.4	164 23.7	198 28.7	167 24.2	
	地域別	北海道	85 100.0	30 35.3	34 40.0	38 44.7	30 35.3	29 34.1	13 15.3	12 14.1	18 21.2	22 25.9
	東北	140 100.0	52 37.1	49 35.0	61 43.6	48 34.3	47 33.6	19 13.6	35 25.0	36 25.7	44 31.4	
	関東甲信	742 100.0	245 33.0	267 36.0	294 39.6	198 26.7	254 34.2	95 12.8	138 18.6	165 22.2	233 31.4	
	東海	237 100.0	83 35.0	82 34.6	84 35.4	68 28.7	66 27.8	39 16.5	45 19.0	45 19.0	72 30.4	
	北陸	81 100.0	27 33.3	29 35.8	26 32.1	22 27.2	24 29.6	13 16.0	13 16.0	26 32.1	29 35.8	
	近畿	322 100.0	88 27.3	100 31.1	103 32.0	84 26.1	97 30.1	40 12.4	39 12.1	47 14.6	125 38.8	
	中国	96 100.0	34 35.4	28 29.2	31 32.3	22 22.9	26 27.1	16 16.7	14 14.6	13 13.5	38 39.6	
	四国	58 100.0	15 25.9	20 34.5	27 46.6	21 36.2	25 43.1	6 10.3	9 15.5	9 15.5	20 34.5	
	九州北部	177 100.0	43 24.3	48 27.1	63 35.6	52 29.4	60 33.9	16 9.0	32 18.1	35 19.8	59 33.3	
	九州南部・奄美	40 100.0	19 47.5	21 52.5	21 52.5	19 47.5	18 45.0	10 25.0	14 35.0	11 27.5	8 20.0	
	沖縄	22 100.0	4 18.2	5 22.7	10 45.5	9 40.9	7 31.8	4 18.2	4 18.2	7 31.8	9 40.9	

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* グレー表記はベースがn=29以下のため参考値

性別にみると、全体と同様の傾向にある。

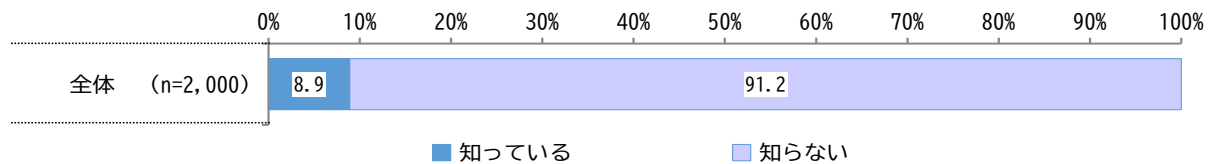
年代別にみると、60～79歳で「気象庁の発表する『噴火警報』などの情報や、『噴火警戒レベル』に注意する」（48.8%）及び「火山ガスや噴気地帯に気をつけ、危険な場所には立ち入らない」（44.4%）が高い。

地域別にみると、九州南部・奄美ではすべてについて高くなっている。「気象庁の発表する『噴火警報』などの情報や、『噴火警戒レベル』に注意する」は、九州南部・奄美(52.5%)、北海道(44.7%)、東北(43.6%)で高くなっている。「あらかじめ、避難する場所や、そこまでの道順を確認しておく」は、九州南部・奄美(52.5%)で高くなっている。「知っているものはない」は中国(39.6%)、近畿(38.8%)で高くなっている。

Ⅱ. 調査結果

(17) 「火山防災の日」制定の認知度

問23-1. 火山災害に対する国民の理解と関心を深めることを目的に、昨年度から8月26日が「火山防災の日」に制定されましたが、ご存じですか。あてはまるものを一つ選んでください。



全体では、「知っている」が8.9%、「知らない」が91.2%となっている。



性別にみると、全体と同様の傾向にある。
 年代別にみると、全体と同様の傾向にある。
 地域別にみると、全体と同様の傾向にある。

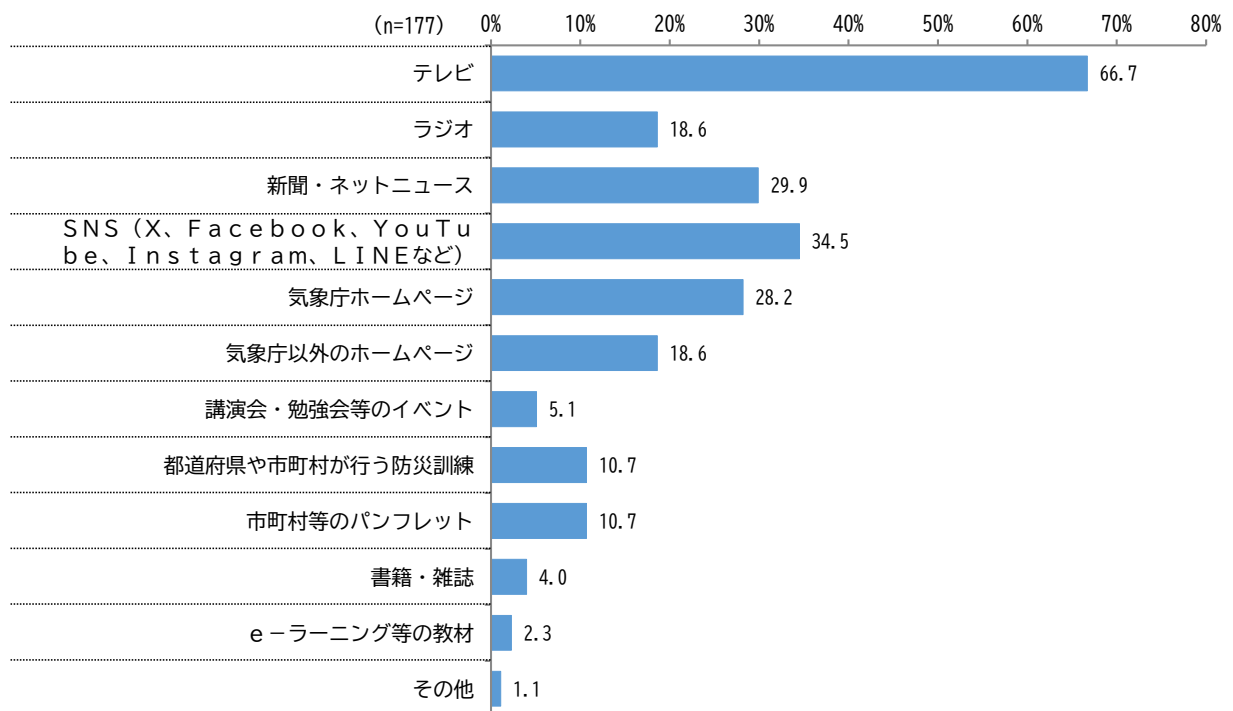
Ⅱ. 調査結果

(18) 「火山防災の日」 制定を知ったきっかけ

問23-2. 8月26日が「火山防災の日」であることをどのように知りましたか。あてはまるものを全て選んで下さい。

n=177

ベース：火山防災の日を認知している方



全体では、「テレビ」が66.7%で最も高く、次いで「SNS(X、Facebook、YouTube、Instagram、LINEなど)」が34.5%、「新聞・ネットニュース」が29.9%、「気象庁ホームページ」が28.2%となっている。

II. 調査結果

		n	テレビ	ラジオ	新聞・ネットニュース	LINEなど	SNS(X、Facebook、YouTube、Instagram、LINEなど)	気象庁ホームページ	気象庁以外のホームページ	講演会・勉強会等のイベント	都道府県や市町村が行う防災訓練	市町村等のパンフレット	書籍・雑誌	e-ラーニング等の教材	その他
全体		177 100.0	118 66.7	33 18.6	53 29.9	61 34.5	50 28.2	33 18.6	9 5.1	19 10.7	19 10.7	7 4.0	4 2.3	2 1.1	
性別	男性	123 100.0	87 70.7	25 20.3	40 32.5	48 39.0	42 34.1	23 18.7	7 5.7	14 11.4	11 8.9	6 4.9	4 3.3	1 0.8	
	女性	54 100.0	31 57.4	8 14.8	13 24.1	13 24.1	8 14.8	10 18.5	2 3.7	5 9.3	8 14.8	1 1.9	0 0.0	1 1.9	
年代	20代	33 100.0	16 48.5	5 15.2	8 24.2	19 57.6	7 21.2	6 18.2	2 6.1	7 21.2	6 18.2	2 6.1	2 6.1	0 0.0	
	30代	31 100.0	19 61.3	8 25.8	6 19.4	14 45.2	10 32.3	9 29.0	3 9.7	1 3.2	6 19.4	2 6.5	2 6.5	0 0.0	
	40代	35 100.0	22 62.9	4 11.4	6 17.1	13 37.1	13 37.1	7 20.0	1 2.9	3 8.6	1 2.9	1 2.9	1 2.9	1 2.9	
	50代	23 100.0	14 60.9	3 13.0	7 30.4	5 21.7	6 26.1	5 21.7	1 4.3	3 13.0	1 4.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	60～79歳	55 100.0	47 85.5	13 23.6	26 47.3	10 18.2	14 25.5	6 10.9	2 3.6	5 9.1	5 9.1	2 3.6	0 0.0	1 1.8	
	地域別	北海道	6 100.0	5 83.3	1 16.7	4 66.7	1 16.7	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
東北		10 100.0	5 50.0	4 40.0	2 20.0	2 20.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
関東甲信		65 100.0	43 66.2	10 15.4	17 26.2	27 41.5	20 30.8	11 16.9	6 9.2	9 13.8	5 7.7	3 4.6	2 3.1	0 0.0	
東海		28 100.0	21 75.0	6 21.4	10 35.7	9 32.1	11 39.3	7 25.0	2 7.1	4 14.3	4 14.3	3 10.7	1 3.6	0 0.0	
北陸		8 100.0	5 62.5	2 25.0	4 50.0	4 50.0	2 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
近畿		28 100.0	20 71.4	3 10.7	5 17.9	10 35.7	10 35.7	8 28.6	1 3.6	4 14.3	7 25.0	0 0.0	0 0.0	1 3.6	
中国		8 100.0	6 75.0	3 37.5	4 50.0	2 25.0	2 25.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
四国		6 100.0	3 50.0	1 16.7	2 33.3	2 33.3	1 16.7	1 16.7	0 0.0	0 0.0	2 33.3	1 16.7	1 16.7	0 0.0	
九州北部		12 100.0	6 50.0	1 8.3	1 8.3	3 25.0	2 16.7	1 8.3	0 0.0	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	8.3 8.3	
九州南部・奄美		4 100.0	2 50.0	0 0.0	3 75.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
沖縄		2 100.0	2 100.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* グレー表記はベースがn=29以下のため参考値

年代別にみると、20代で「SNS(X、Facebook、YouTube、Instagram、LINE など)」(57.6%)

及び「都道府県や市町村が行う防災訓練」(21.2%)が高くなっている。30代で「気象庁以外のホームページ」(29.0%)が高くなっている。60～79歳では「テレビ」(85.5%)及び「新聞・ネットニュース」(47.3%)が高くなっている。

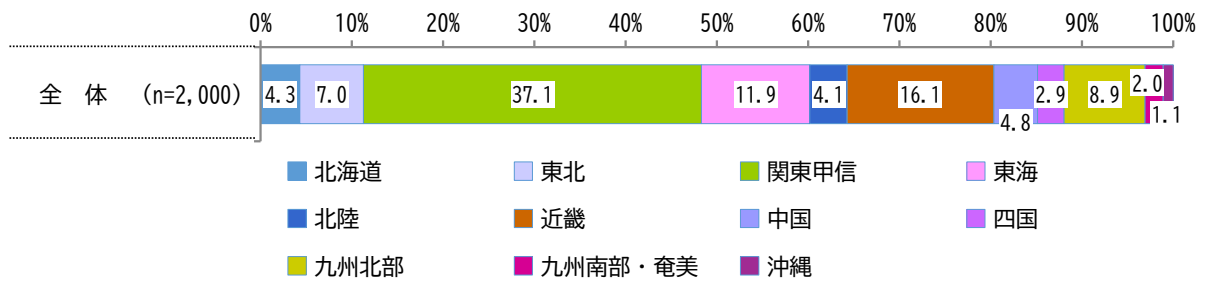
地域別にみると、全体と同様の傾向にある。

II. 調査結果

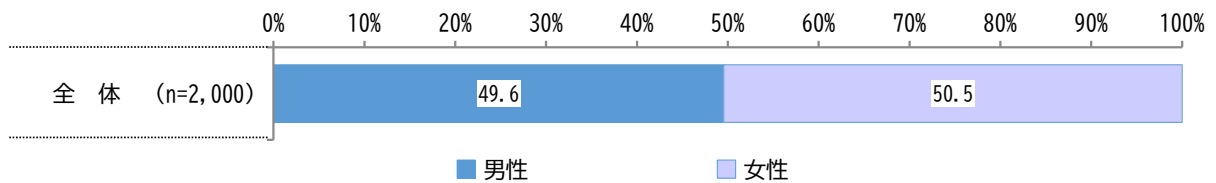
6. 対象者の属性

居住地

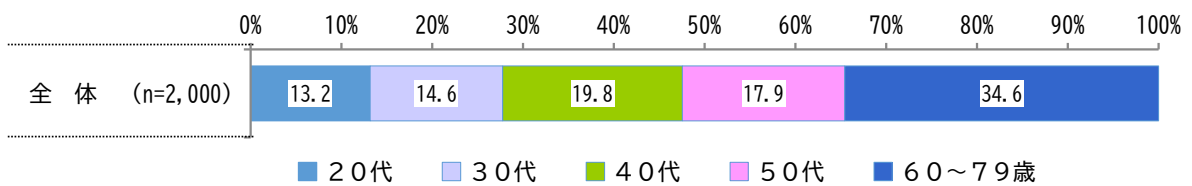
都道府県	回収数	都道府県	回収数	都道府県	回収数	都道府県	回収数	都道府県	回収数
北海道	85	埼玉県	119	岐阜県	32	鳥取県	12	佐賀県	13
青森県	20	千葉県	102	静岡県	56	島根県	12	長崎県	20
岩手県	20	東京都	221	愛知県	119	岡山県	29	熊本県	26
宮城県	37	神奈川県	147	三重県	30	広島県	43	大分県	18
秋田県	15	新潟県	35	滋賀県	23	山口県	21	宮崎県	16
山形県	16	富山県	16	京都府	42	徳島県	12	鹿児島県	24
福島県	32	石川県	18	大阪府	138	香川県	14	沖縄県	22
茨城県	45	福井県	12	兵庫県	85	愛媛県	20	合計	2,000
栃木県	32	山梨県	12	奈良県	20	高知県	12		
群馬県	32	長野県	32	和歌山県	14	福岡県	79		



性別



年代



Ⅲ. 調査結果のまとめ

1. 調査結果概要

(1) 防災気象情報全般について

気象庁から発表される防災気象情報の認知度(見聞きしたことがあり、どのような情報か知っている)は、「台風情報」(81.6%)が最も高く、次いで、「注意報、警報、特別警報」(74.2%)、「記録的短時間大雨情報」(68.5%)、「全般、地方、府県の気象情報」(68.2%)、「土砂災害警戒情報」(67.8%)となっている(問 2-1、標本の大きさ n=2000)。

(2) キキクル

キキクル(危険度分布)の認知度は、「見聞きしたことがあり、どのような情報か知っている」が16.1%(昨年度:13.6%)、「見聞きしたことはあるが、どのような情報か知らない」が23.0%(昨年度:22.3%)、「見聞きしたことがない」が61.0%(昨年度:64.2%)と、約半数以上の人が見聞きしたことがないと回答しており、認知度が非常に低い状況である(問 2-1、n=2,000)。昨年度と比較して、認知状況の傾向に特段の差はみられない。

キキクルの閲覧手段としては、「気象庁のホームページ(スマートフォン)」が35.0%で最も高く、次いで「テレビ」が33.7%、「気象庁のホームページ(パソコン)」が26.2%となっている(問 4-2、n=492)。

キキクルの活用方法としては、「自宅など今いる場所の災害の危険性の確認に活用」が56.1%で最も高く、次いで「土砂災害や浸水害、洪水災害の危険な場所の確認に活用」が41.3%、「災害に関する情報を注目したり集めたりするきっかけに活用」が39.0%となっている(問 4-4、n=492)。

キキクルの今後の改善点としては、「改善点は特にない」が36.2%で最も高かったが、「キキクル(危険度分布)をもっと周知して活用を広げてほしい」が24.9%、「地図をクリックすれば自分が知りたい場所の危険度がわかるような機能を加えてほしい」が24.3%となっている(問 5、n=2,000)。

キキクルが役に立っていると回答した人における今後の改善点としては、「地図表示の解像度をもっと細かくしてほしい」が36.2%で最も高く、「地図をクリックすれば自分が知りたい場所の危険度がわかるような機能を加えてほしい」が31.3%、「危険度の精度をもっと上げてほしい」が26.9%となっている(問 4-3で「役に立っている」又は「どちらかという役に立っている」を選択、n=412、問 5)。

(3) 線状降水帯に関する情報

線状降水帯の予測情報の認知度（「見聞きしたことがあり、どのような情報か知っている」。以降同様）は64.7%、線状降水帯の発生情報（顕著な大雨に関する気象情報）の認知度は62.7%である（問2-1、n=2,000）。昨年度と比較して、線状降水帯の予測情報の認知度は+4.6ポイント、線状降水帯の発生情報の認知度は+3.8ポイント向上している。

線状降水帯の半日程度前からの予測情報が自分の住んでいる地域に発表されたときに取るであろう行動は、「ハザードマップを確認する」が36.6%で最も高く、次いで「情報をさらに集める」が35.5%、「避難先、避難ルートを確認する」が33.3%、「自宅が安全なので自宅にとどまる」が27.3%となっている。割合は少ないが、直接的な避難行動である「自宅の2階以上に移動する」は12.4%、「自宅以外に避難する」は8.9%となっている（問11、n=2,000）。昨年度調査では、発表されたときに取った行動を聞き取っているが、「自宅が安全だったので自宅にいた」が54.0%で最も高く、「ハザードマップを確認した」は33.7%、「避難先、避難ルートを確認した」は23.3%となっており、住民が想定する行動と実際にとる行動には乖離が見られる。また、線状降水帯の発生情報（顕著な大雨に関する気象情報）が自分の住んでいる地域に発表されたときに取るであろう行動は、「ハザードマップを確認する」が38.1%で最も高く、次いで「避難先、避難ルートを確認する」が33.9%、「情報をさらに集める」が33.6%、「自宅が安全なので自宅にとどまる」が30.0%となっている。割合は少ないが、直接的な避難行動になる「自宅の2階以上に移動する」は16.0%、「自宅以外に避難する」は8.1%となっている（問8、n=2,000）。昨年度調査では、発表されたときに取った行動を聞き取っているが、「自宅が安全だったので自宅にいた」が52.3%で最も高く、「ハザードマップを確認した」は33.1%、「避難先、避難ルートを確認した」は22.9%となっており、住民が想定する行動と実際にとる行動には乖離が見られる。なお、線状降水帯の予測情報と発生情報では、情報発表時における大雨等の状況は異なるものであるが、各情報を聞いた際の行動については、いずれもハザードマップや避難先等の確認、情報収集行動が多く、そのときとると思う行動に大きな違いは見られなかった。

線状降水帯に関する情報の今後の改善点としては、「改善点は特にない」が31.8%で最も高かったが、「もっと細かい地域を対象に半日程度前からの発生予測をしてほしい」が27.8%、「線状降水帯が発生したときどのような危険性があるかを教えてほしい」が25.6%となっている（問12、n=2,000）。

線状降水帯の半日程度前からの予測情報が役に立っていると回答した人における今後の改善点としては、「もっと細かい地域を対象に半日程度前からの発生予測をしてほしい」が29.9%で最も高く、「改善点は特にない」が28.0%、「線状降水帯が発生したときどのような危険性があるかを教えてほしい」が27.9%となっている（問10で「役に立つと思う」又は「どちらかという役に立つと思う」を選択、n=1781、問12）。また、線状降水帯の半日程度前からの予測情報が役に立っていないと回答した人における今後の改善点としては、全体の回答の傾向と特段の差はみられない（問10で「役に立たないと思う」又は「どちらかという役に立たないと思う」を選択、n=219、問12）。

線状降水帯の発生情報（顕著な大雨に関する気象情報）が役に立っていると回答した人における今後の改善点としては、「もっと細かい地域を対象に半日程度前からの発生予測をしてほしい」が29.5%で最も高く、「改善点は特にない」が28.4%、「線状降水帯が発生したときどのような危険性があるかを教えてほしい」が27.6%となっている（問7で「役に立つと思う」又は「どちらかという役に立つと思う」を選択、n=1792、問12）。また、線状降水帯の発生情報（顕著な大雨に関する気象情報）が役に立っていないと回答した人における今後の改善点としては、全体の回答の傾向と特段の差はみられない（問7で「役に立たないと思う」又は「どちらかという役に立たないと思う」を選択、n=208、問12）。

(4) 気候変動に関する情報

気候変動やそれが引き起こす問題への関心は、「とても関心がある」が27.6%、「どちらかというに関心がある」が55.1%となっている（問13-1、n=2,000）。

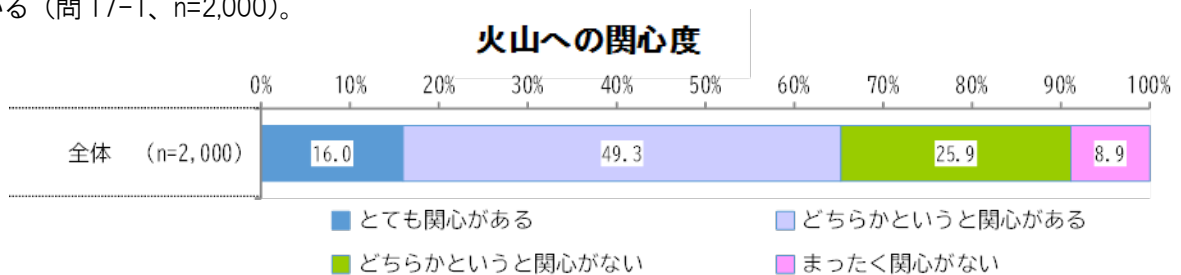
気候変動や気候変動対策に関する情報の獲得手段は、「テレビ」が75.8%で最も高く、次いで「アプリ（ニュースアプリ、気候変動関連のアプリ等。SNSは除く。）」が32.9%、「SNS（X、Facebook、YouTube、Instagram、LINEなど）」が29.9%となっている（問13-2、n=1,887）。

日本の気候変動の概要を紹介する解説動画について、動画があると内容を理解しやすいと思うかという点は、「大いにそう思う」と「どちらかというと思う」の合計が65.9%となっている（問15、n=2,000）。

「日本の気候変動」シリーズで、よりよい解説や補足情報として追加で提供が望まれる情報として、「専門家による（解説）動画」が58.8%で最も高く、次いで「環境教育で使えるような解説」が39.1%、「世界の気候変動の情報」が28.6%となっている（問16、n=2,000）。

(5) 火山に関する情報

火山への関心度は、「とても関心がある」が16.0%、「どちらかというに関心がある」が49.3%となっている（問17-1、n=2,000）。



火山に関する情報の入手手段は、「テレビ」が79.3%で最も高く、次いで「新聞・ネットニュース」が37.4%、「SNS（X、Facebook、YouTube、Instagram、LINEなど）」が31.0%となっている（問17-2、n=1,306）。

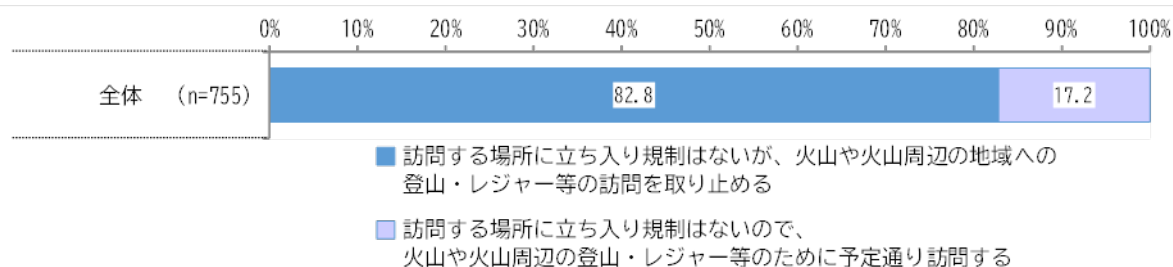
気象庁が火山に関する情報を発表していることの認知度は「知っている」が41.2%となっている（問18-1、n=2000）。このうち、認知している内容は、「噴火警戒レベル」が83.1%で最も高く、次いで「噴火警報」が68.4%、「噴火速報」は39.1%、「降灰予報」が37.3%となっている（問18-2、n=823）。

外出時、火山に関する情報を確認したときの行動は、「火山や火山周辺の地域への登山・レジャー等の訪問を取りやめた」が37.6%で最も高く、次いで「特段の行動はとらなかった」が35.5%、「市町村のホームページ等でさらに具体的な影響（立入規制や通行規制の範囲等）を調べた」が27.4%となっている（問18-6、n=186）。

Ⅲ. 調査結果のまとめ

仮に火山や火山周辺の地域に訪問予定があった場合に、噴火警報等が発表されたり、噴火警戒レベルが引き上げられた場合の行動は、「訪問する場所に立ち入り規制はないが、火山や火山周辺の地域への登山・レジャー等の訪問は取り止める」が82.8%となっている（問 18-7、n=755）。

火山や火山周辺の地域に訪問予定の際に噴火警戒レベルが引き上げられていた場合の行動



火山に関する情報を含む気象庁が発表する情報の入手手段は、「テレビ」が78.0%と最も高く、次いで「気象庁のホームページ」が33.9%、SNS (X、Facebook、YouTube、Instagram、LINE など) が29.8%となっている（問 19-2、n=1,630）。

火山防災として心得ておくべきことで認知しているものは、「気象庁の発表する『噴火警報』などの情報や、『噴火警戒レベル』に注意する」が37.9%で最も高く、次いで「あらかじめ、避難する場所や、そこまでの道順を確認しておく」が34.2%、「知っているものはない」が33.0%となっている（問 22、n=2,000）。

8月26日が「火山防災の日」であることの認知度は、「知らない」が91.2%となっている（問 23-1、n=2,000）。

2. 今後の防災情報の更なる理解度向上に向けて

本アンケートの結果をみると、各防災情報の認知度や理解度は、年齢層によってばらつきがみられたが、昨年度同様、高年層ほど各防災情報の認知度や理解度は高く、若年層ほど各防災情報の認知度や理解度は低い傾向にあった。

線状降水帯の発生情報を例にみると、自分の住んでいる地域に発表されたときの行動については、「情報をさらに集める」は60代以上が39.4%と、全体と比較して+5.8ポイントとなっていた。一方、線状降水帯の発生情報の認知度について、「見聞きしたことがあり、どのような情報か知っている」は20代が39.8%と、全体と比較して-22.9ポイントとなっていた。また年代が低いほど、「見聞きしたことがない」割合が高くなる傾向がみられ、線状降水帯の発生情報への認知度が低いことが読み取れる。防災情報の認知度や理解度が低い若年層にも災害リスクを抱えている人が一定数含まれているはずであり、いざ災害が発生した際に、各防災情報の認知度や理解度が低いために適切な行動がとれない可能性があることは否定できない。

キキクル(危険度分布)の閲覧手段を例にみると、全体としては気象庁のホームページやテレビの割合が多いが、20、30代の若年層に限ればホームページやスマートフォンのアプリ、SNSの割合が全体に比べて高くなっている。そのため、若年層の防災情報に対する認知度・理解度のボトムアップへのツールとして、スマートフォン向けホームページやSNSを充実させることが必要であるといえる。若年層への認知度向上こそが、国民全体の防災情報に対する認知度・理解度の向上及び均等化につながり、減災の観点からも効果的であると考えられる。

--- < 調査票 > ---

令和7年度気象情報の利活用状況等に関する調査

■■■防災気象情報全般についてお伺いします

(全員)

問1 あなたのお住まいは、土砂災害や浸水害、洪水災害といった、大雨による災害の危険性がありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

- 1 大雨による災害の危険性がある
- 2 大雨による災害の危険性はない
- 3 わからない

(全員)

問2-① あなたは、大雨や台風などによる災害から身を守るために気象庁から発表される以下の防災気象情報を見聞きしたことがありますか。また、どのような情報か知っていますか。見聞きしたことがある、また知っているものを全て選んでください。

- 1 線状降水帯の予測情報
- 2 線状降水帯の発生情報（顕著な大雨に関する気象情報）
- 3 キキクル（危険度分布）
- 4 注意報、警報、特別警報
- 5 早期注意情報（警報級の可能性）
- 6 土砂災害警戒情報
- 7 台風情報
- 8 全般、地方、府県の気象情報
- 9 指定河川洪水予報（氾濫注意情報、氾濫警戒情報、氾濫危険情報、氾濫発生情報）
- 10 竜巻注意情報
- 11 記録的短時間大雨情報

- ① 見聞きしたことがあり、どのような情報か知っている
- ② 見聞きしたことはあるが、どのような情報か知らない
- ③ 見聞きしたことがない

(問2-①=①or②の項目)

問2-② 大雨とそれによる災害が発生し、または発生するおそれがある場合において、大雨災害への備えや避難などの行動について判断するため、問2-①で挙げた情報のうち、あなたはどの情報に注目していますか？あてはまるものを全て選んでください。

- 1 線状降水帯の予測情報
- 2 線状降水帯の発生情報（顕著な大雨に関する気象情報）
- 3 キキクル（危険度分布）
- 4 注意報、警報、特別警報
- 5 早期注意情報（警報級の可能性）
- 6 土砂災害警戒情報
- 7 台風情報
- 8 全般、地方、府県の気象情報
- 9 指定河川洪水予報（氾濫注意情報、氾濫警戒情報、氾濫危険情報、氾濫発生情報）
- 10 竜巻注意情報
- 11 記録的短時間大雨情報
- 12 注目している情報はない

(全員)

問3-① 大雨や台風などによる災害から身を守るために気象庁から発表される防災気象情報全般に対して、満足していますか？ あてはまるものを1つ選んでください。

- 1 満足している
- 2 どちらかという満足している
- 3 どちらかという満足していない
- 4 満足していない

(問3-①=3or4)

問3-② 防災気象情報に対して満足していない理由をお聞かせください。(自由記述)

■■■キキクル（危険度分布）についてお伺いします

（全員）

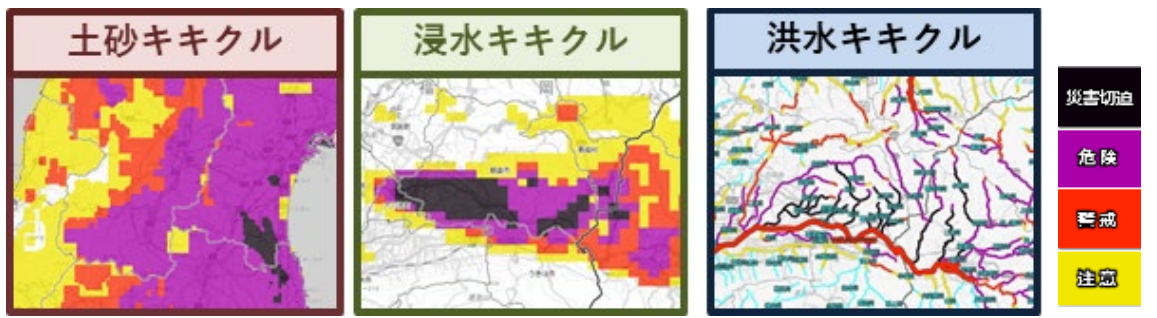
※問4の上部に以下説明文を表示

（キキクル（危険度分布））

気象庁では、大雨の際にどこで土砂災害、浸水害および洪水災害の危険度がそれぞれ高まっているかを知ることができる「キキクル（危険度分布）」を提供しています。

キキクルでは危険度の高まりを色分けして表示し、土砂災害の危険度が高まっている場所は土砂キキクル（下図左）で、浸水害の危険度が高まっている場所は浸水キキクル（下図中央）で、洪水災害の危険度が高まっている場所は洪水キキクル（下図右）で確認することができます。

キキクルは、気象庁ホームページをはじめ、その他の防災情報サイトやスマートフォンのアプリなどから誰でも確認することができますので、ぜひご活用ください。



（全員）

問4-①. キキクル(危険度分布)の説明をご覧いただいたうえで改めてお伺いします。あなたは、キキクル(危険度分布)があることを知っていましたか？

あてはまるものを1つ選んでください。

- 1 知っていた
- 2 知らなかった（→問5へ）

（問4-①=1）

問4-②.あなたは、キキクル(危険度分布)をどのような手段で見えていますか？

あてはまるものを全て選んでください。

- 1 気象庁のホームページ（パソコン）
- 2 気象庁のホームページ（スマートフォン）
- 3 気象庁以外のホームページ（パソコン）
- 4 気象庁以外のホームページ（スマートフォン）
- 5 スマートフォンのアプリ
- 6 テレビ
- 7 SNS（X、Facebook、YouTube、Instagram、LINE など）
- 8 その他（自由記述）

(問4-①=1)

問4-③.あなたにとって、大雨のとき、避難や災害への備えなどの行動の判断材料として、キキクル(危険度分布)は役に立っていますか?あてはまるものを1つ選んでください。

- 1 役に立っている
- 2 どちらかというと役に立っている
- 3 どちらかというと役に立っていない
- 4 役に立っていない

(問4-①=1)

問4-④.あなたは、キキクル(危険度分布)をどのように活用していますか?あてはまるものを全て選んでください。

- 1 災害に関する情報を注目したり集めたりするきっかけに活用
- 2 土砂災害や浸水害、洪水災害の危険な場所の確認に活用
- 3 自宅など今いる場所の災害の危険性の確認に活用
- 4 親戚・知人、友人が住む地域の災害の危険性の確認に活用
- 5 避難先や避難ルートの確認に活用
- 6 避難や災害への備えのきっかけに活用
- 7 その他(自由記述)
- 8 特に活用していない

(全員)

問5.キキクル(危険度分布)について改善してほしいことなど、あてはまるものを全て選んでください。

- 1 危険度の精度をもっと上げてほしい
- 2 地図表示の解像度をもっと細かくしてほしい
- 3 3つの災害の危険度を全て合わせた大雨による総合的な危険度を見られるようにしてほしい
- 4 キキクル(危険度分布)をもっと周知して活用を広げてほしい
- 5 より手軽にキキクル(危険度分布)を知ることができるようにしてほしい
- 6 キキクル(危険度分布)が示している危険度をもっとわかりやすく解説してほしい
- 7 地図をクリックすれば自分が知りたい場所の危険度がわかるような機能を加えてほしい
- 8 その他(自由記述)
- 9 改善点は特にない

■■■線状降水帯に関する情報についてお伺いします

(全員)

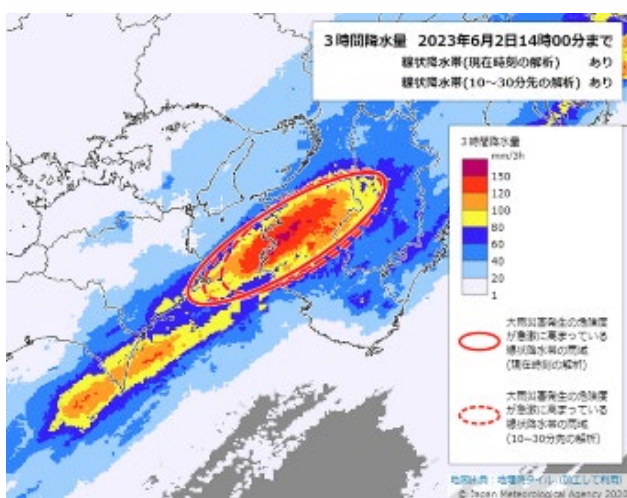
※問6の上部に以下説明文を表示

① 線状降水帯の発生情報(顕著な大雨に関する気象情報)

気象庁では、線状降水帯※が発生し大雨による災害発生の危険度が急激に高まっていることをいち早くお知らせする「顕著な大雨に関する気象情報」を発表しています。テレビなどでも報道されています。

顕著な大雨に関する和歌山県気象情報 第1号
令和5年6月2日12時01分 大阪管区気象台発表

和歌山県北部では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続いています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっています。



※線状降水帯とは

次々と発生する発達した雨雲(積乱雲)が列をなして、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、長さ50~300km程度、幅20~50km程度の線状に伸びる強い降水域を線状降水帯といいます。

(全員)

問6.線状降水帯の発生情報(顕著な大雨に関する気象情報)の説明をご覧いただいたうえで改めてお伺いします。あなたは、線状降水帯の発生情報(顕著な大雨に関する気象情報)を知っていましたか?あてはまるものを1つ選んでください。

- 1 知っていた
- 2 知らなかった

(全員)

問7.大雨が予想されている、または大雨が降り続けている状況で、もし線状降水帯の発生情報(顕著な大雨に関する気象情報)があなたのお住まいの地域に発表されたとき、災害への備えや避難などの行動の判断材料として、その情報はあなたにとって役に立つと思いますか?あてはまるものを1つ選んでください。

- 1 役に立つと思う
- 2 どちらかというと役に立つと思う
- 3 どちらかというと役に立たないと思う
- 4 役に立たないと思う

(全員)

問8.線状降水帯の発生情報(顕著な大雨に関する気象情報)があなたがお住まいの地域に発表されたとき、あなたはどのような行動をとろうと思いますか?あてはまるものを全て選んでください。

- 1 ハザードマップを確認する
- 2 避難先、避難ルートを確認する
- 3 浸水に備えて土のうを積む
- 4 自宅以外に避難する
- 5 自宅の2階以上に移動する
- 6 自宅が安全なので自宅にとどまる
- 7 情報をさらに集める
- 8 その他の行動(自由記述)
- 9 特に災害への備えや避難などの行動はとらない
- 10 住まいは大雨災害の危険がないため、災害への備えや避難などの行動は必要ない

【解説1】

線状降水帯の発生情報（顕著な大雨に関する気象情報）は、避難が必要な状況に相当する警戒レベル4相当以上の状況で発表します。崖や川の近くなど、危険な場所にいる方は、地元市町村から発令されている避難情報に従い、直ちに適切な避難行動をとってください。周りの状況を確認し、避難場所への避難がかえって危険な場合は、崖や沢から少しでも離れた建物や、少しでも浸水しにくい高い場所に移動するなど、身の安全を確保してください。市町村から避難情報が発令されていなくても、今後、急激に状況が悪化するおそれもあります。少しでも危険を感じた場合には、自ら安全な場所へ移動する判断をしてください。

※問9の上部に以下説明文を表示

②線状降水帯の半日程度前からの予測情報

気象庁では、線状降水帯による大雨の可能性が高いと予測できた場合に、半日程度前から「線状降水帯」というキーワードを使って呼びかける、線状降水帯の予測情報の提供を行っています。府県単位を基本に呼びかけを行っています。ニュースや天気予報でも紹介されることがあります。

大雨と落雷及び突風に関する長崎県気象情報 第2号
令和6年7月13日16時02分 長崎地方気象台発表

長崎県では、14日午前中から午後にかけて、線状降水帯が発生して大雨災害発生の危険度が急激に高まる可能性があります。土砂災害に厳重に警戒し、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒してください。

(全員)

問9線状降水帯の半日程度前からの予測情報の説明をご覧ください。改めてお伺いします。

あなたは、線状降水帯の半日程度前からの予測情報を知っていましたか？

あてはまるものを1つ選んでください。

- 1 知っていた
- 2 知らなかった

(全員)

問10.大雨が予想されたり、大雨が降り続いていたりする状況で、もし線状降水帯の半日前からの予測情報があなたがお住まいの地域に発表されたとき、あなたにとって災害への備えや避難などの行動の判断材料として、その情報は役に立つと思いますか？ あてはまるものを1つ選んでください。

- 1 役に立つと思う
- 2 どちらかというと役に立つと思う
- 3 どちらかというと役に立たないと思う
- 4 役に立たないと思う

(全員)

問 11.線状降水帯の半日程度前からの予測情報があなたがお住まいの地域に発表されたとき、あなたはどのような行動をとろうと思いますか？あてはまるものを全て選んでください。

- 1 ハザードマップを確認する
- 2 避難先、避難ルートを確認する
- 3 浸水に備えて土のうを積む
- 4 自宅以外に避難する
- 5 自宅の2階以上に移動する
- 6 自宅が安全なので自宅にとどまる
- 7 情報をさらに集める
- 8 その他の行動（自由記述）
- 9 特に災害への備えや避難などの行動はとらない
- 10 住まいは大雨災害の危険がないため、災害への備えや避難などの行動は必要ない

【解説2】

線状降水帯が発生すると大雨災害発生の危険度が急激に高まることがあるため、心構えを一段高めていただくことを目的として、線状降水帯による大雨が予想される場合には半日程度前から呼びかけを行います。この線状降水帯についての呼びかけだけで避難行動をとるのではなく、ほかの大雨に関する情報と合わせてご活用ください。大雨災害に対する危機感を早めを持っていただき、ハザードマップや避難所・避難経路の確認等を行っていただくことが考えられます。

（全員）

問12.線状降水帯に関する情報の改善点など、あてはまるものを全て選んでください。

- 1 線状降水帯が発生したときどのような危険性があるかを教えてほしい
- 2 半日程度前からの発生予測をもっとわかりやすく伝えてほしい
- 3 もっと細かい地域を対象に半日程度前からの発生予測をしてほしい
- 4 半日程度前からの発生予測の精度が悪いので、精度をあげてほしい
- 5 半日程度前からの発生予測だけでなく、発生の可能性がより高まった段階で数時間前の予測も発表してほしい
- 6 半日程度前よりももっと早い段階で予測をしてほしい
- 7 その他（自由記述）
- 8 改善点は特にない

■■■気候変動についてお伺いします

(全員)

問 13-① あなたは、気候変動やそれが引き起こす問題にどの程度関心がありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

- 1 とても関心がある
- 2 どちらかというに関心がある
- 3 どちらかというに関心がない
- 4 まったく関心がない

(問13①=1~3)

問 13-② 気候変動や気候変動対策に関する情報を、どのような媒体から得ていますか。あてはまるものを全て選んでください。

- 1 テレビ
- 2 ラジオ
- 3 新聞、雑誌
- 4 SNS (X、Facebook、YouTube、Instagram、LINE など)
- 5 国や自治体等の公的機関の SNS
- 6 国や自治体等の公的機関のホームページ
- 7 その他のホームページ (SNS は除く)
- 8 アプリ (ニュースアプリ、気候変動関連のアプリ等。SNS は除く。)
- 9 パンフレットなどの刊行物 (紙媒体)
- 10 その他 (自由記述)
- 11 情報を得ていない

(全員)

問 14 気象庁は文部科学省と共に、日本における気候変動の観測結果と将来予測を「日本の気候変動 2025」(※)にとりまとめています。その中で、特に重要な事項をコンパクトにスライド形式でまとめた「概要版」(※)を用意しています。あなたは日本の気候変動の概要を理解するのに「概要版」は有用だと思いますか。

あてはまるものを1つ選んでください。

- 1 大いにそう思う
- 2 どちらかというそう思う
- 3 どちらかというそう思わない
- 4 まったく思わない
- 5 わからない

※「日本の気候変動 2025—大気と陸・海洋に関する観測・予測評価報告書—」は、以下の URL からご覧になれます。

<https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/ccj/index.html>

(全員)

問 15 日本の気候変動の概要を紹介する解説動画 (約6分×4本) も用意しています。あなたは、解説動画があると内容を理解しやすいと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

- 1 大いにそう思う
- 2 どちらかというそう思う
- 3 どちらかというそう思わない
- 4 まったく思わない
- 5 わからない

(全員)

問16 「日本の気候変動」シリーズでは、上記の概要版や解説動画のほか、都道府県ごとのリーフレットも用意していますが、よりよい解説や補足情報として、どのようなものがあるとよいと思いますか。あてはまるものを全て選んでください。

- 1 専門家による(解説)動画
- 2 環境教育で使えるような解説
- 3 世界の気候変動の情報
- 4 インフルエンサーによる(解説)動画
- 5 その他(自由記述)

■■■火山についてお伺いします

(全員)

問17-① 我が国には111の活火山があります。火山の噴火で私たちの生活に大きな影響がある一方で、地熱発電や肥沃な土壌による農業振興、観光資源等の「恵み」も数多くあります。あなたは火山に関心はありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1. とても関心がある
2. どちらかというに関心がある
3. どちらかというに関心がない
4. 全く関心がない

(問17-①=1or2)

問17-② 火山に関する知識を得たり、情報を入手したりする場合、どこから入手していますか(または、どこから入手することを希望しますか)。あてはまるものを全て選んでください。

1. テレビ
2. ラジオ
3. 新聞・ネットニュース
4. SNS(X、Facebook、YouTube、Instagram、LINEなど)
5. 気象庁のホームページ
6. 気象庁以外のホームページ
7. 講演会・勉強会等のイベント
8. 都道府県や市町村等が行う防災訓練
9. 市町村等のパンフレット
10. 書籍・雑誌
11. eラーニング等の教材
12. その他()

(問17-①=3or4)

問17-③ 火山に関心のない理由を全て選んでください。

1. 自分の住む地域に影響を与える火山がないから
2. 仮に噴火した場合には自分の住む地域に影響を与える火山があるが、噴火するとは思わないから
3. 火山や火山周辺の地域に登山・レジャーなどで出かける機会がないから
4. その他()

(全員)

問18-① 気象庁では、火山災害から身を守るために火山に関する情報を発表していることを知っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1. 知っている
2. 知らない

(問18-①=1)

問18-② 気象庁が発表する火山に関する情報に関して、知っているものを全て選んで下さい。

1. 噴火警報
2. 噴火警戒レベル
3. 噴火速報
4. 降灰予報
5. 火山の状況に関する解説情報
6. 噴火に関する火山観測報
7. 月間火山概況
8. 火山活動解説資料
9. いずれも知らない

(問18-②=1or2を知っていると回答)

問18-③ 観光や登山などで火山や火山周辺の地域に出かける際に、火山に関する情報が実際に発表されているかどうかを確認したことがありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1. ある
2. ない
3. 火山や火山周辺には行かない

(問18-③=1)

問18-④ 火山に関する情報(噴火警報・噴火警戒レベル)をどこから入手しましたか。あてはまるものを全て選んで下さい。

1. テレビ
2. ラジオ
3. 新聞・ネットニュース
4. SNS(X、Facebook、YouTube、Instagram、LINEなど)
5. 気象庁のホームページ
6. 気象庁以外のホームページ
7. 都道府県・市区町村の防災情報提供サービス(メール配信サービス)
8. 防災アプリ(Yahoo防災速報、NERV防災など)
9. 登山用アプリ
10. 緊急速報メール(エリアメールなど)
10. 市町村の防災行政無線
11. その他()

(問18-③=1)

問18-⑤ 火山に関する情報では、対象となる火山の避難対象地域や立入規制の範囲をお知らせしています。あなたが観光や登山などで火山や火山周辺の地域に出かける際に確認した火山に関する情報では、以下のような地域が避難対象地域や立入規制の範囲だったことはありますか。あてはまるものを全て選んでください。

1. 確認したときに自分がいた場所が避難対象地域や立入規制の範囲内であった
2. 確認後に訪問を予定していた地域が避難対象地域や立入規制の範囲内であった
3. いずれにも該当しなかった

(問18-③=1)

問18-⑥ 火山に関する情報を確認したときに、どのような行動をとりましたか。複数当てはまる場合は、全て選んでください。

1. 避難行動をとった、または、避難指示に従った
2. 火山や火山周辺の地域への登山・レジャー等の訪問を取りやめた
3. 市町村のホームページ等でさらに具体的な影響(立入規制や通行規制の範囲等)を調べた
4. さらに火山活動が活発化した際に備え、火山ハザードマップでより火山活動が活発化した際の影響を調べた

5. 特段の行動はとらなかった

(問18-②=1 又は、2、あるいは 1、2 の両方を知っていると回答)

問18-⑦ 仮に火山や火山周辺の地域に登山・レジャーで訪問する予定があった際に、その地域に噴火警報が発表されたり、噴火警戒レベルが引き上げられたりした場合はどのように行動しますか。ただし、訪問する場所に立入規制はないことが分かっているものとします。あてはまるものを一つ選んでください。

1. 訪問する場所に立ち入り規制はないが、火山や火山周辺の地域への登山・レジャー等の訪問を取り止める
2. 訪問する場所に立ち入り規制はないので、火山や火山周辺の登山・レジャー等のために予定通り訪問する

(問18-②=2 を知っていると回答)

問18-⑧ 火山ごとに警戒を呼びかける「噴火警戒レベル」と、大雨等の際に避難行動を示す「警戒レベル」とは別物であり、防災行動なども異なることを知っていましたか。あてはまるものを1つ選んでください。

1. 知っていた
2. 知らなかった

(全員)

問19-① 観光や登山などで火山や火山周辺の地域に出かける際、気象庁が発表する情報で利用するのはどれですか。あてはまるものを全て選んで下さい。

1. 天気予報
2. 雨雲の動き
3. 火山に関する情報
4. 地震・津波情報
5. その他 ()
6. 特になし

(問19-①=1~4)

問19-② 気象庁が発表する情報を利用する場合はどこから入手していますか。あてはまるものを全て選んで下さい。

1. テレビ
2. ラジオ
3. SNS (X、Facebook、YouTube、Instagram、LINE など)
4. 気象庁のホームページ
5. 気象庁以外のホームページ
6. 都道府県・市区町村の防災情報提供サービス (メール配信サービス)
7. 防災アプリ (Yahoo 防災速報、NERV 防災など)
8. 登山用アプリ
9. 緊急速報メール (エリアメールなど)
10. 市町村の防災行政無線
11. その他 ()

(全員)

問20 大きな災害を引き起こす噴火に伴う現象をご存じですか。知っているものを全て選んで下さい。

1. 噴石
2. 火砕流
3. 融雪型火山泥流
4. 溶岩流
5. 火山灰
6. 火山ガス
7. 火山泥流・土石流

8. その他（ ）

(全員)

問21 それぞれの火山毎に、危険な火山現象の影響が及ぶおそれのある範囲を地図上に明示した「火山ハザードマップ」というものがあります。ご存じですか。あてはまるものを一つ選んでください。

1. 内容も含めて知っている
2. 聞いたことがある
3. 知らない

(全員)

問22 火山防災として心得ておくべきことで知っているものを全て選んでください。

1. 火山防災マップ(火山ハザードマップに避難対象地域や避難先、避難経路など防災上必要な情報を付加した、各市町村で作っている地図)を見て、噴火警戒レベルに対応する危険な場所を確認する
2. あらかじめ、避難する場所や、そこまでの道順を確認しておく
3. 気象庁の発表する「噴火警報」などの情報や、「噴火警戒レベル」に注意する
4. 噴火のおそれがある場合、危険な地域では事前の避難が必要。地元の市町村の指示があった場合にはそれに従う
5. 火山ガスや噴気地帯に気をつけ、危険な場所には立ち入らない
6. 異常と思われる現象を確認したら、地元市町村や警察、気象台などに連絡する
7. 噴火時の風下側では、小さな噴石が風に流されて遠方まで降るため注意が必要。丈夫な建物に避難する
8. 土石流、融雪型火山泥流が発生したら流路から遠ざかる方向に避難する
9. 知っているものはない

(全員)

問23-① 火山災害に対する国民の理解と関心を深めることを目的に、昨年度から8月26日が「火山防災の日」に制定されましたが、ご存じですか。あてはまるものを一つ選んでください。

1. 知っている
2. 知らない

(問23-①=1)

問23-② 8月26日が「火山防災の日」であることをどのように知りましたか。あてはまるものを全て選んで下さい。

1. テレビ
2. ラジオ
3. 新聞・ネットニュース
4. SNS(X、Facebook、YouTube、Instagram、LINEなど)
5. 気象庁ホームページ
6. 気象庁以外のホームページ
7. 講演会・勉強会等のイベント
8. 都道府県や市町村が行う防災訓練
9. 市町村等のパンフレット
10. 書籍・雑誌
11. e-ラーニング等の教材
12. その他（ ）

以上